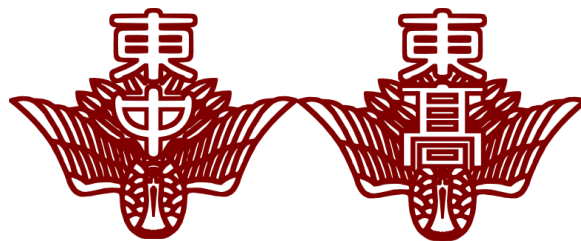


令和5年度 文部科学省指定

WWL (ワールド・ワイド・ラーニング)  
コンソーシアム構築支援事業

研究開発実施報告書  
(第3年次)



令和6年3月

カリキュラム開発拠点校

長崎県立長崎東中学校

長崎県立長崎東高等学校



## WWL拠点校としてのこれから

長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校

校長 立木 貴文

本校は、『世界の平和と共生』に貢献するイノベティブなグローバル人材の育成』をテーマとして、令和2年度から4年間、その具現化のためにWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業のカリキュラム開発拠点校として、カリキュラム開発や様々な活動に取り組んでまいりました。

とはいえ、昨年度まではコロナ禍により海外フィールドワークができないなど制約も多く、生徒・教職員にとっては計画どおりに実施できないもどかしさを抱きながらの3年間でもありました。

その分、と言ってもよいかもしれません。指定最終年度の令和5年度は、生徒の主体的・能動的な活動が顕著な1年間でした。総合的な探究の時間や学校設定科目 IGR（Integrated Global Research）等を活用した探究的な学びも、多くの大学や企業、NPOのご協力をいただいて、海外を含む各地でのフィールドワーク等を行うことができ、より具体的なものとすることができました。ご協力いただいた機関は累計で300を超えます。関係の皆様には、深く感謝申し上げます。

また、令和5年7月に海外7校・県外8校を含む19校を招聘して開催した「高校生国際平和会議」は、本校WWLの集大成でした。本校生徒が主宰する会議では「共生」「環境」など4分野において、それぞれ日本語・英語の2部門で協議が行われました。「異文化共生の推進」や「世界平和の実現」、「地球温暖化の防止」など現代世界の抱える課題について、国を超えて若者が瑞々しい感性で真摯に議論する姿には、これからの未来に希望の一灯を点すものを感じました。

本校は、カリキュラム開発拠点校としての指定期間を終え、今後はWWL拠点校として取組を進めていくこととなります。財政的支援が大きく失われる中ではありますが、本事業で培った蓄積を糧としながら、次年度以降も以下の4点に重点を置きつつ、でき得ることに最善を尽くしていければと考えております。

- (1) 生徒の自走による質の高い探究の継承・発展
- (2) グローバルな教育活動の推進
- (3) 教員研修の充実
- (4) 研究開発成果の普及と継続的な評価・検証

本校の“WWL拠点校としてのこれから”に、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、長崎県教育委員会やWWL運営指導委員会の各委員の皆様には貴重なご指導・ご助言を賜りました。心から感謝申し上げます。また、多大なるご支援・ご協力をいただいております長崎大学・長崎県立大学など各機関の皆様、「高校生平和宣言」の共同起草などで深く連携・協働いただいている広島市立舟入高等学校をはじめとする県内外の関係高校の皆様に対し、深甚の感謝の意を表したいと思っております。ありがとうございました。

## 目 次

### 巻頭言

#### 第1章 研究開発の概要

- (1) カリキュラム開発拠点校の概要 ..... 1
- (2) 研究構想 ..... 1
  - ①構想名 ②構想の概要 ③構想図 ④イノベーティブなグローバル人材像
- (3) アドバンスト・ラーニング・ネットワーク (AL ネットワーク) ..... 5

#### 第2章 カリキュラム開発拠点校の研究開発

- (1) カリキュラム開発 ..... 8
  - ①新学校設定科目 IGR (Integrated Global Research 「統合型グローバル探究」)
  - ②時間割編成の工夫 ③教科と探究のつながり ④探究ベーシック
  - ⑤中国語の開設 (2単位) ⑥高度な課題研究を実施するための基盤整備
- (2) 「総合的な探究の時間」における研究開発 ..... 17
  - ①中学校の取組 ②高校1年生の取組 ③高校2年生の取組 ④高校3年生の取組
- (3) 事業協働機関・事業連携校との取組 ..... 42
  - ①長崎大学等との連携 ②教員研修 ③授業改善

#### 第3章 高校生国際平和会議

- (1) 内容と運営組織 ..... 57
- (2) 課題 ..... 57
- (3) 他の拠点校等が開催する国際会議への参加 ..... 58

#### 第4章 評価 (目標の進捗状況、成果・検証)

- (1) 生徒の変容 ..... 67
- (2) 教員の変容 ..... 79
- (3) 学校評価 ..... 80
- (4) 運営指導委員会・事業検証委員会 ..... 81
- (5) 成果の普及 ..... 88
- (6) アウトプット・アウトカム ..... 89
- (7) 次年度の課題・計画 ..... 96

参考資料：教育課程表 (中学、令和5年度入学生【普通科】【国際科】)



## 第1章 研究開発の概要

管理機関 長崎県教育委員会 (長崎県長崎市尾上町3-1)

代表者 教育長 前川 謙介

カリキュラム開発拠点校

長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 (長崎県長崎市立山5-13-1)

校長 立木 貴文

### (1) カリキュラム開発拠点校の概要

学級数・生徒定員

長崎県立長崎東中学校

学年	学級数	定員
中1	3	120
中2	3	120
中3	3	120

長崎県立長崎東高等学校

学年	学科	学級数	定員
高1	普通・国際	7	280
高2	普通	5	200
	国際	2	80
高3	普通	5	200
	国際	2	80

### (2) 研究構想

#### ①構想名

「世界の平和と共生」に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成

#### ②構想の概要

歴史や文化の重要なクロスロードに位置してきた長崎から、新たな価値を創出できるグローバル人材を育成する。「世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを」をテーマに、長崎の教育資源を活用し、予測困難な時代において複数の視点や学問分野を融合させて様々な社会課題に取り組む。また、ALネットワークの構築により拠点校等の生徒が定期的に大学を訪れ高度な学びに取り組むことが可能となるシステムの確立や、企業・NPO等との協働、長崎と歴史的にもつながりの深い中国、オランダ等でのフィールドワーク、WEB会議等を活用した離島や海外の学校との共同研究等を行う。成果の共有・普及を図るため、拠点校が九州のSGH指定校をリードする形で開催した「九州SGHフォーラム」(H30年度、R元年度)を発展させ、大学、企業、海外の教育機関等

も参画する高校生国際会議を開催する。

### ③構想図



### ④イノベティブなグローバル人材像

2021年に開港450年を迎えた長崎は、江戸時代唯一の貿易の窓口として海外に開かれ、新しい社会を創造する風土があった。また、1945年の原子爆弾による甚大な被害から復興し、世界平和を目指し発信を続ける使命がある。2019年11月にはローマ教皇が長崎を訪れ、「核兵器のない世界は実現可能である」と世界に訴えた。地理的に見ると、長崎県には全国最多である49の有人離島があり、中国や韓国とも近く交流も盛んである。一方、急速に人口減少が進んでいる離島は課題先進地とも言われ研究のフィールドとして注目されている。これらの背景を踏まえ、本事業では「世界の平和と共生」をテーマに、他と協働しながら困難や障壁を克服し世界に新しい価値を創出し発信できる人材を育成する。

本事業では、長崎を様々な文化・価値観・社会課題等が交わる「クロスロード」と捉え、日本と海外、文系と理系、都市部と遠隔地等の「協働・共創」をキーワードに、SGH(H27年度～R元年度)5年間の成果と課題を踏まえて設定した以下の資質・能力等を備えた人材の育成を目指す。

#### 【平和で持続可能な社会の構築を担うイノベティブなグローバル人材像】

ア 育成したい資質・能力(コンピテンシー及び探究スキル)

- ①自ら発見・定義した課題に主体的に向き合い、解決に近づく力(課題発見・解決力)
- ②学んだことを活用し、新たな価値を創造する力(創造力)

- ③物事を多角的に捉えて、情報を選択・分析し適切に活用する力（情報分析・活用力）
- ④自分の考えや意見を効果的に表現・発信し、他者に影響を与える力（自己表現力）
- イ 育成したい心構え・考え方・価値観等（マインドセット）
- ⑤多様な文化的背景を持つ人々と対話や議論を通じて協働する姿勢（協働性）
- ⑥学問に高い関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢（学ぶ意欲）
- ⑦世界平和を希求し、持続可能な社会の形成に貢献しようとする姿勢（地球市民性）

上記7つの資質・能力、マインドセットを「WWL7（セブン）」と称し、スクールポリシーにも取り入れている。WWL7と新学習指導要領における評価の3観点との相関は、以下のように図示される。

### WWL7 新学習指導要領の3つの評価の柱との関連性



上記 WWL7について生徒が自己評価できるよう、R2年度にルーブリックを開発し、1～3学期ごとに生徒の変容を測定している。変容の詳細は、第4章（評価）で記述する。

ルーブリックは、運営指導委員からの助言を踏まえて、年度ごとに改訂してきた。

現行のルーブリックを次ページに記載する。

【WWL7ルーブリック】（※C評価は割愛）

		評価項目				
No	WWL7 【学校設定目標】	定義	B（活用Ⅰ）	A（活用Ⅱ）	S（創造）	∞（革新）
			『できる』	『ととのえる』	『つくる』	『』
			習得した知識・技能を活用して、 <u>思考や行動</u> ができる。	習得した知識・技能を活用して、 <u>根拠を伴った思考や行動</u> ができる。	知識・技能を生かし働かせ、 <u>根拠を伴って創造性ある思考や行動</u> ができる。	
思考力・判断力・表現力	1	課題発見・解決力 主体的に課題に向き合い発見・解決する力	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>解決策を考える</u> ことができる。	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>妥当性のある解決策</u> を考えることができる。	自ら物事に対して、課題を発見することができ、 <u>妥当性があり、他分野との関係性を踏まえた解決策</u> を考えることができる。	
	2	創造力 学んだことを活用し、新たな価値を創造する力	学んだ知識・技能を <u>活用</u> して、 <u>自分なりの発想</u> ができる。	学んだ知識・技能を <u>活用</u> して、 <u>妥当性のある発想</u> ができる。	知識・技能を <u>生かし働かせ、エレガントで、創造性のある発想</u> ができる。	
	3	情報分析・活用力 物事を多角的に捉え、情報を選択・分析・活用する力	物事を <u>客観的な視点</u> で捉え、 <u>真偽を意識して読み取った情報を、自分の意見の参考として使用</u> できる。	物事を <u>多様な視点</u> で捉え、 <u>複数の情報を論理的に分析し、自分の意見の根拠として使用</u> できる。	物事を <u>多様な視点</u> で捉え、複数の情報を論理的に分析し、それらを <u>相互に関連付けて、自分の意見の根拠として使用</u> できる。	
	4	自己表現力 考え・意見を発信し、他者に影響を与える力	自らの考えや意見を <u>相手に伝わるよう工夫して表現</u> することができる。	<u>他者との違いを踏まえ、自らの考えや意見を相手に伝わるよう工夫して表現</u> することができる。	<u>表現において対話を意識し、他者も自己も考えが深まるよう、自らの考えや意見を開かれた形で表現</u> することができる。	
学びに向かう力・人間性等	5	協働性 多様な人々との対話や議論を通じて協働する姿勢	<u>他者の考えを受け止め、協働的な発言や行動</u> ができる。	<u>多様な考えを受け止め、自己の良さを発揮して、協働的な発言や行動</u> ができる。	<u>他者の良さを取り入れながら、自己の良さを発揮して、協働的な発言や行動</u> ができる。	
	6	学ぶ意欲 学問に関心を持ち、自ら高度な学びに向かう姿勢	自分の興味・関心と結びつきにくい内容であっても、 <u>一様に学ぶ</u> ことができる。	<u>自分が将来学びたい学問分野を自覚し、主体的に総合的な学力を身に付ける取組を続ける</u> ことができる。	<u>学問を学ぶ意義や喜びに目覚め、自分が将来学びたい学問分野とともに、幅広い教養を身に付ける取組を続ける</u> ことができる。	
	7	地球市民性 世界平和を希求し、持続可能社会に貢献する姿勢	自分と意見や考え方が似た人に加え、 <u>自分のコミュニティと良好な関係を築く</u> ことができる。	<u>多様な人と良好な関係を築くとともに、社会課題について関心を持ち、その解決について思索や行動する姿勢</u> がある。	<u>多様な人と尊重し合う関係を築くとともに、社会課題について関心を持ち、その解決について思索や行動する姿勢を維持</u> している。	

### (3) アドバンスド・ラーニング・ネットワーク (AL ネットワーク)

#### AL ネットワーク運営組織

管理機関である長崎県教育委員会(所管: 高校教育課)に AL ネットワーク運営組織を置き、県教育長を長とする。下のア～ウに挙げる拠点校・連携校の校長・実務責任者、協働機関の担当者をメンバーとして、AL ネットワークにおける計画等の作成、運営管理、情報収集・提供、目的の達成状況の評価・見直し等を行う。AL ネットワーク全体が、多様な分野や視点を融合させた高度な学びの機会を中学生・高校生に提供するため、各々の強みを生かした協働を行う。運営組織図は7ページに掲載する。

#### 事業拠点校: 長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校

併設型中高一貫校で、九州本土部の公立高校で唯一国際関係に関する学科を有し、平成27年度からスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定されている。九州のリーダー校として成果の共有と普及を目的とした「九州SGHフォーラム」を開催し、多くの学校が参加する大規模な発表会の運営実績を有する。本事業では主に、連携校・協働機関と共に課題研究を実践し、文理の枠を超えたイノベーティブなグローバル人材育成を目指す教育課程の開発を行う。

#### 事業連携校:

##### (ア) SSH校: 長崎県立長崎西高等学校、長崎南高等学校、大村高等学校

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている県立高校であり、本事業では拠点校と協働した文理融合型の人材育成や、探究型学習を推進する。具体的には、拠点校と合同で課題研究発表会を開催するとともに、高校生国際会議の企画・運営に参画する。

##### (イ) 中高一貫校: 長崎県立佐世保北中学校・高等学校、諫早高等学校・附属中学校

拠点校と同じく併設型中高一貫教育を行っており、国内外のトップ大学への進学等を目指した教員対象の研究会や生徒主体の研修会等を行う。特に中学校段階における探究型学習を協働して推進し、基盤となる課題設定力や情報収集・分析力等の早期の育成を目指す。

##### (ウ) 離島部の高校: 長崎県立対馬高等学校、壱岐高等学校

それぞれ韓国語を学ぶ学科や中国語と歴史学を学ぶコースが設置され、文科省「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」の調査研究校であった。遠隔システムを活用し、東アジア地域とのつながりを生かした研究や、都市部と離島の異なる視点からグローバル課題に取り組む探究型学習を拠点校と共同で進める。

##### (エ) 県外の高校: 広島市立舟入高等学校、広島女学院中学高等学校、静岡県立三島北高等学校、立命館宇治中学校・高等学校

被爆地である広島市の2校とは、拠点校とのこれまでの交流実績を生かし、共同で平和フィールドワーク等を行う。また、三島北高校及び立命館宇治高校は、WWLコンソーシアム構築支援事業の指定を受けており、国際会議等への相互参加や海外フィールドワーク等において協働し、拠点校同士の連携によるALネットワークの更なる活性化を目指す。

(オ) 海外の学校： **SMK Taman Tun Aminah** (マレーシア)、**Visser't Hooft Lyceum** (オランダ)、**Tamanawis Secondary School** (カナダ)

海外修学旅行や海外フィールドワーク等において、拠点校との共同研究、ディスカッションやフォーラムの開催、現地での合同フィールドワーク及びその事前・事後学習を行う。

**事業協働機関：**

(大 学) 長崎大学、長崎県立大学、長崎純心大学、大阪公立大学現代システム科学域

(企業等) ハウステンボス、ジャパネットホールディングス、十八親和銀行、長崎新聞社、協和機電工業、九州教具、株式会社イシマル、JICA 九州、長崎日蘭協会、NPO 法人地域循環研究所、ここにこ一般財団法人

高校生が多様で高度な学びに取り組むための環境整備に携わり、課題研究における専門的見地からの助言、国内外のフィールドワークへの支援、共同研究、意見交換等を行う。

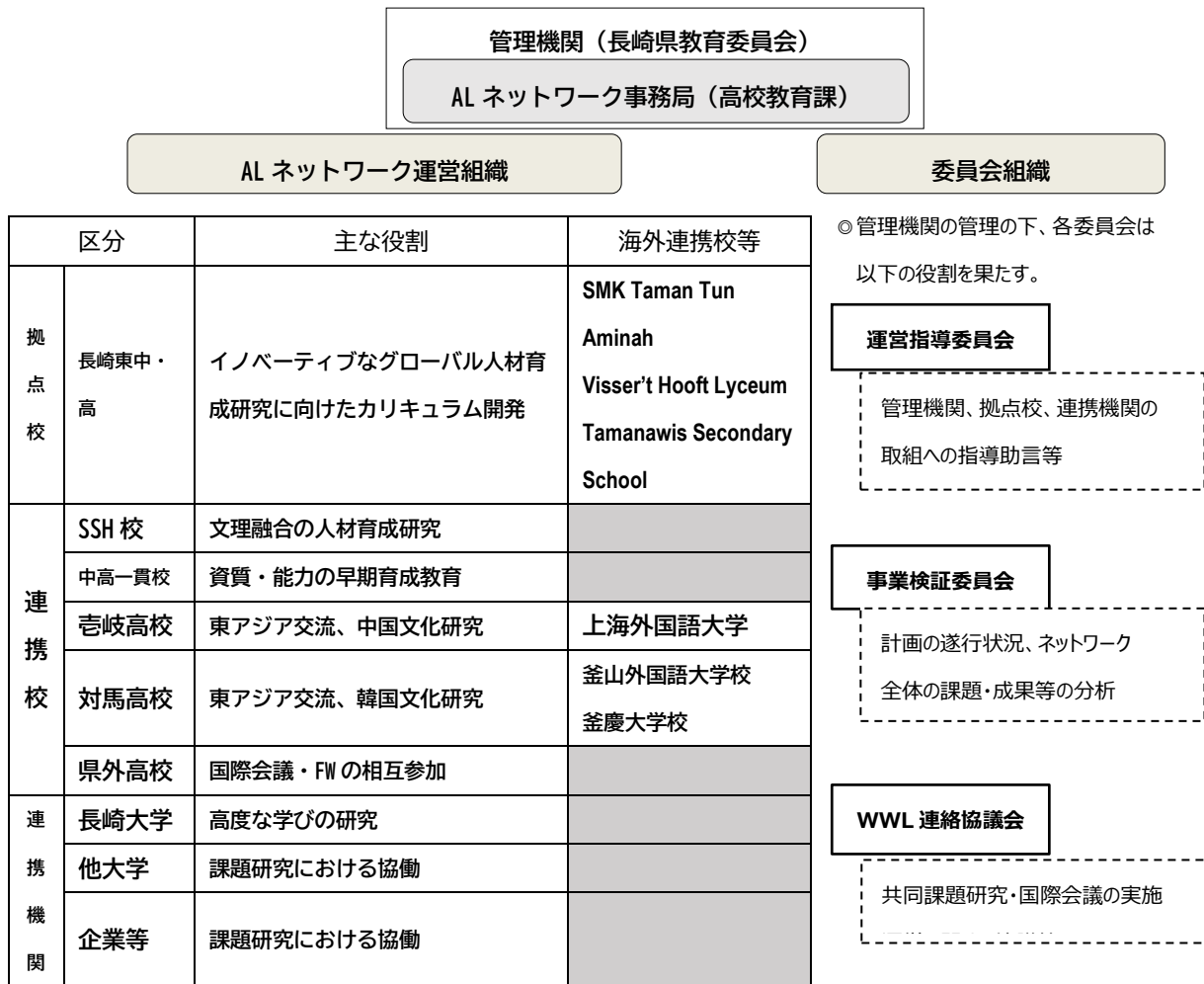
**その他の協力機関：**

(大 学) 九州大学、大分大学、国際基督教大学、シンガポール国立大学、上海外国語大学 (中国)、釜山外国語大学校 (韓国)、ウィスコンシン州立大学・ミドルベリー国際大学院大学 (米国)、ライデン大学 (オランダ)

(その他) ベトナム国立衛生疫学研究所、JICA ベトナム、WHO (世界保健機関)、国連本部軍縮部 (米国)、ドイツ国際平和村

課題研究や国内外のフィールドワーク等における協働や支援、WEB 会議システムを活用した事前学習等への協力を行う。また、模擬国連や高校生国際会議の開催等に協力する。

【AL ネットワーク運営組織図】



※「SSH 校」3校、「他県の WWL 拠点校」2校とは探究学習や探究発表会、国際会議の開催等において互いに協働するが、経費の使用や事業の成果については区別化を図ることを確認。

## 第2章 カリキュラム開発拠点校の研究開発

### (1) カリキュラム開発

#### ①新学校設定科目 IGR (Integrated Global Research 「統合型グローバル探究」)

高校1年生全員を対象に、令和2年度よりカリキュラムに位置づけて(1単位)実施している。フィールドワークやデータ分析等の探究スキルを育成することを目的に、大学教員・行政・企業の専門的視点を取り入れた実験や調査、外国人大学院生によるオンライン講義を実施した。

本年度は50以上の企業・行政機関および大学の専門家等とオンラインによる意見交換や講演会を実施した。IGRの評価については、本校独自のルーブリックに基づいて、中間発表会やクラス発表会でのプレゼンテーションや研究レポート等を中心に、複数の観点による点数化(パフォーマンス評価)を実施している。

#### 【高1中間発表会 プレゼンテーションルーブリック】

段階 観点	5 優秀	3 良	1 もう一歩
メインメッセージ	①メインメッセージがしっかりと存在する(研究の意義と成果が伝わる) ②根拠が明確である(先行研究や根拠のある情報を踏まえている) ③論理的に説明されている(話の展開が自然である)	①～③のうち、2項目ができている。	①～③のうち、0～1項目しかできていない。
言語	①使っている言葉が的確である ②専門用語の解説など、聴衆にわかりやすい工夫がある ③割り当てられた時間をフルに使うことができている	①～③のうち、2項目ができている。	①～③のうち、0～1項目しかできていない。
話し方	①発表者全員の姿勢が良い ②発表者全員がジェスチャーを交えて話している ③発表者全員が原稿を見ることなく聴衆を見て話している ④発表者全員の声の大きさ・話し方が聞き取りやすい	①～④のうち、2～3項目ができている。	①～④のうち、0～1項目しかできていない。
スライド	①イラストやグラフ等がうまく用いられてわかりやすい ②文字による情報をわかりやすく表示している ③引用元が各スライドに表示され、インターネットの情報以外に参考文献が示されている ④該当するSDGsがスライドで明記されている	①～④のうち、2～3項目ができている。	①～④のうち、0～1項目しかできていない。



【高1研究レポートルーブリック】（※B評価未満やA+、B-等の欄は割愛）

IGR・総探 日本語レポートルーブリック 以下の観点をもとに評価します。				
項目	観 点	S	A (優秀)	B (基準)
1 テーマ設定の背景	①初めて読んだ人にも課題の背景がわかりやすく記述されている ②先行研究や先行調査等が初めて読んだ人にも理解しやすく記述されている ③事実と意見を混同せず、SDGsに関連して、論理的に記述されている ④オリジナリティ、発想、着眼点が優れている			
2 研究の目的方法	①本研究の意義が先行研究等と比較しながら、具体的に述べられている ②リサーチクエスションに対する答えを導くための方法が妥当で計画的になされている ③高校生が可能なレベルで妥当な実験・インタビュー・アンケートが行われている			
3 考察・結果	①事実と意見を混同せず、論理的に記述されている ②実験や調査結果から妥当な考察が導き出されている ③社会課題への解決のために問題を深く掘り下げることができている			
4 結論・課題	①論理の飛躍がなく、妥当な結論が導き出されている（失敗していても原因が指摘され、改善点が示されていればよい） ②具体的に実現可能なレベルで社会提言がなされている ※インターネットによる情報検索だけでなく、信頼のおける参考文献が示されている（ネットからの情報のみ場合は2点減点する）			

## ②時間割編成の工夫

IGRは金曜日の7校時に設定し、水曜日の6校時には「総合的な探究の時間（総探）」を時間割上組み込んだ。高校2・3年生の総探も水曜日の6校時に設定することで、学年を越えた取り組みを行うことが容易になり、高1と高2が講演会や会議など同じプログラムを受講する機会を設けることができた。このことによって、高校3年生が高校1年生に探究に関する助言を行ったり（ピアサポート）、学年の異なる教員が探究学習に関する意見交換を実施できる環境が整備された。

## ③教科と探究のつながり

教科と探究科目のつながりは、それぞれの分野で学んだこと（知識・技術・思考力など）を探究活動の中で生かすという点であることを年度当初の職員会議で全職員と共有した。6月と10月には公開授業週間を設定し、すべての教科が校種・教科を越えて授業参観や授業研究を実施した。特に、10月は「創造的思考力」を高めることを目的に、中・高全体で公開授業と授業研究を実施し（「WWL長崎東授業研究会」、他校から71名の教員も参加した。詳細は第2章（3）③で述べる。

#### ④探究ベーシック

カリキュラム・マネジメントの観点から、高校1年次の初期を中心に教科横断的かつ集中的に学習する期間を設定し、各教科・科目の特色や学習内容に応じて、SDGs等の課題研究に必要な知識や探究スキルについて学ばせることを目的としている。

本年度の実績は以下に掲載する。

教科	内容	関連するSDGs番号	実施日(期間)
国語	『『見える文化』／『見えない文化』』・『ありのままの世界は見えない』・『コインは円形か』という教材を通して、国や文化の違いによって物の見方や考え方が異なることを認識し、相互理解のために今何が必要かを考える。	4・5・10	9～10月
数学	・数学Ⅰ、A、Ⅱの応用問題において、協働して問題解決を図り、目標を達成するためのプロセスを経験する。 ・データの分析において、生活に必要な統計的な分析の基礎を学ぶ。	4・10	通年 データは12月
化学基礎	化学反応の量的関係と環境問題の考察 ①日本の天然ガス消費による二酸化炭素の排出量 ②二酸化炭素濃度の増加により炭酸カルシウムを骨格とする海の生物に与える影響	13・14	9月
歴史総合	1学期は「近代化と私たち」のなかで前近代社会後期から、国民国家の成立、帝国主義の展開期を学習する。2学期は「国際秩序の変化や大衆化と私たち」のなかで、第一次世界大戦・第二次世界大戦をとおして、「近代」から「現代」への転換期を学習する。3学期は「グローバル化と私たち」のなかで現代社会の諸問題について学習する。全体を通して諸課題の発生から展開を歴史的に考察し、SDGsに関連づけての学習を行う。	全て	4～5月、9～11月、3月
地理総合	1学期は地形の成り立ちを学習する中で、特に火山の分布と地震発生のメカニズムについて理解を深める。2学期は気候の学習を通して、特に洪水や台風、高潮など自然災害発生のメカニズムを知る。3学期は、1・2学期の学習内容を連動させながら、総合的に日本の災害と防災・減災の取組や地球環境問題について理解するとともに、その対策の困難さと解決に向けた糸口として、SDGsにみられるような国際的な取組が不可欠であることを認識する。	9・10・11・13・14・15・16・17	関係する箇所が随時出てくるため、期間を定めることができない
情報	1学期はSDGsの諸課題についてどのように問題を発見し、解決するか、プロセスを学習し創造力と協働性の成長をはかる。2学期では、発見した課題について自己表現できるよう、デジタルツールの使用方法を学習し、自ら学ぶ意欲を高める。3学期は、大規模データを使用したデータの分析や活用力を涵養し、客観的データの解析を通じて持続可能社会に貢献する姿勢を養う。	4・9	4～3月
家庭	持続可能な食生活～エコクッキングを取り入れた献立作成と調理～ 1学期は、食生活分野の導入として、座学を中心とした学習の中で、食品ロス問題についても触れながら理解を深める。エコクッキングの視点から、献立作成をし、調理実習を通して日々の生活の中で実践的に取り組むことができるようにする。	2・3・12・13・14・15	6～9月
保健	感染症について(現代の感染症、感染症の予防、性感染症・エイズとその予防)	3	4月
英語	FACTBOOK English Logic and Expression I Part I Unit 2: History and future of our town (地域社会・まちづくり・移住・地域活性化)	8・9・10・11	5～6月

【R 5年度 高校1年 総探・IGR実施時間】

期日	総合的な探究の時間（水6）	期日	IGR（金7）
4月13日	学習ガイダンス	4月28日	探究・IGRのガイダンス
4月26日	海外FW報告会	5月12日	テーマ・問いのための分野研究①
5月10日	自分を知るためのワーク	5月19日	テーマ・問いのための分野研究②
5月17日	視野を広げるワーク①（ピアワーク）	5月26日	批判的思考とシステム思考について
5月24日	視野を広げるワーク②	6月9日	チーム編成について
5月31日	SDGs講演会①	6月16日	テーマ設定、問い立て
6月14日	SDGs講演会②	7月7日	マインドマップの続き
6月21日	テーマ設定、問いの立て方	7月14日	先行研究調査
6月28日	WWL探究発表会に向けて+B10	7月28日	国際会議
7月5日	問い立てのためのマインドマップ作り	9月15日	平和学習
7月12日	問い立て	9月22日	発表のリフレクションとそのやり方、チームについて
9月13日	クラス発表準備	10月6日	FWに向けたアクションプランの設計
9月20日	第1回クラス発表会	10月27日	発表の仕方について
9月27日	研究の調査について、FWについて	11月10日	第2回クラス発表会準備
10月4日	FW準備	11月17日	リフレクションの仕方について
10月18日	第2回クラス発表会の説明、発表準備	12月1日	統計的な分析の方法
10月25日	発表会準備	12月8日	中間発表会準備②
11月8日	探究FW	12月15日	中間発表会準備④
11月15日	第2回クラス発表会	1月12日	中間発表会の説明
11月29日	学習ガイダンス	1月19日	中間発表会準備⑥・報告書の作成②
12月6日	中間発表会準備①	2月2日	リフレクション（他クラスと共有も）
12月13日	中間発表会準備③	3月11日	WWL探究発表会準備②
1月17日	中間発表会準備⑤・報告書の作成①	3月15日	WWL探究発表会準備④
1月24日	中間発表会準備⑦・報告書の作成③		
1月25日	中間発表会		
2月7日	報告書の作成④		
2月21日	WWL探究発表会に向けて		
2月28日	WWL探究発表会準備①		
3月13日	WWL探究発表会準備③		
3月21日	WWL探究発表会		

### ⑤中国語の開設（2単位）

拠点校では管理機関の支援により、令和3年度より高校2年生を対象に、選択科目（第二外国語）として週2単位「中国語」の授業を開設し、中国語の基礎学習を行っている。本年度は3名が受講し、中国人講師による系統的な会話中心の授業と、中国文化に親しむ教養的な学びを行った。

### ⑥高度な課題研究を実施するための基盤整備

#### 【SDGs 講演会（高1・2対象 5～6月）、高大連携講座（高2対象 9月）】

課題研究でテーマを設定するための視点や、学術的な研究にふれることを目的に、事業協働機関である長崎大学等の協力の下、5月と9月に実施した。高大連携講座については、第2章（3）①「長崎大学等との連携」に記載する。

SDGs 講演会については、WWL 事業成果普及のために学校ホームページに掲載している学校情報誌「ワールド・ワイド・レポート」を次頁に掲載する。

## 未来を創るSDGs！WWL基調講演会（SDGs講演会）

探究活動の基盤となる知識・教養を深めるため、SDGs講演会を開催しました。SDGsをテーマにした社会課題の解決に向けて、現場の第一線で研究・活動を行っている先生方から、講演をいただきました。高校1・2年生に加え、県内の公立高校・私立高校を対象に、オンラインで配信も行いました。

### 講演日程・講演者

5月31日（水）6校時【環境分野】地域循環研究所 豊澤 健太 様

6月14日（水）6校時【社会分野】一般社団法人OBAMA ST. 山東 晃大 様

7校時【経済分野】長崎大学経済学部 山口 純哉 様

6月28日（水）6校時【国際分野】JICA長崎 小田 智子 様

### Think Globally, Act Locally —SDGsと地方創生— 地域循環研究所 豊澤 健太 様

初回は、「環境」をテーマに行政からの視点を交え、NPO 法人地域循環研究所の豊澤先生より第一次産業の現状と課題について講話をいただきました。「木は間伐など、人の手を加えることによって丈夫になり木材となる」、「人が管理することで自然災害に強い森林となる」など自然との共生や循環型社会の実現、エネルギー問題について言及され、生徒は環境問題を幅広く考える貴重な機会になりました。会の最後に生徒から「ペーパーレスが広がっていくと、林業の終焉につながるのでは？」という質問があり、それに対して豊澤氏は、「切り出した木からつくられる紙の割合は少なく、多くが建材用や家具用またはペレット（燃料）として使われる。今後も木の暖かさや優しさを感じながら生活するためにも、企業や社会はペーパーレスに積極的に取り組むべき」と回答されました。



### 「知りたい」「学びたい」から探究を始める （一社）OBAMA ST. 山東 晃大 様

次に、「社会」分野として、OBAMA ST.の山東先生より講話をいただきました。山東先生は、再生可能エネルギー（特に地熱発電と洋上風力発電）によって地域にどれくらいのお金が落ちるか数値化する研究（地域経済付加価値分析）を専門とされており、2012年から長崎県小浜温泉にて地域住民と地熱発電所の取り組みに携わっておられます。講演ではまず、ご自身のこれまでの取り組みにつ



いてご紹介いただきました。その後、20年後の世界について、気候変動や人工知能、Chat GPT などの登場により予測がいかに難しいかについてお話をいただきました。このように世界が変化を続ける中で、「世界の変化を想像してみること」「『探究』・『学び』続けること」「小さなことから始めること」が大切であるとお話をいただきました。また、探究を始める足掛かりとして、「『好きなこと』から『知りたい』『学びたい』ことを見つけて、そのワクワクに身を任せてみよう！」というメッセージをいただきました。



### ともに良き世を創るために～問題解決はじめの一步～ 長崎大学経済学部 山口 純哉 様

「経済」分野の講演では、長崎大学経済学部の山口先生より、これまでに取り組んでこられた諸問題、貧困と経済（税）の問題、震災からの復興や地域創生、ボランティア活動のあり方等についてお話をいただき、課題解決のプロセスや姿勢について学びました。問題解決に向けて各個人がもつ「理想（正解）」の多様性を考えること、固定観念を捨てることなどが大切だと学ぶことができ、探究をすすめていく生徒たちにとって、大いに参考になりました。また、地域社会の変化とグローバル社会についてお話いただきました。価値観の変化（世代間のギャップ）、人口減少・少子高齢社会、頻発する自然災害、途上国の労働環境など、多くの問題について改めて考える機会となりました。さらにはこれからの地域社会が目指すべき方向性についてのお話では、具体例を紹介していただき、考えを深めることができました。



### いつか世界を変える力になる

JICA長崎 小田 智子 様

4回目の「共生」分野においては「国際貢献」をテーマに、JICA 長崎で国際協力相談員として活躍中の小田先生に講演をいただきました。JICAは、日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行い、開発途上国への国際協力を行う機関です。小田先生は、以前、青年海外協力隊としてパラグアイで活動した経験にもとづいて、国際貢献に対する考えを話されました。ご自身は音楽が得意だったので、現地では先生にクラリネットやオーケストラの指導をしたり、子どもたちには音楽の授業もしたりしたとのこと。はじめの頃は、なかなか自分の思いが伝わらず、「何でわかってくれないの?」「当たり前でしょ?」と思うことがしばしばあり気分が沈んだとのことですが、その後現地の文化や価値観を尊重するようになってから、充実した活動ができるようになったと話されました。最後の「いつか〇〇を変える力になる」のフレーズが印象に残り、将来世界で活躍することを目標に掲げる東高の生徒の心に響く講話でした。



今回の講演会では、2年生14名が運営を担いました。終了後の感想を紹介します。

- ・地元長崎県の話から、地球の裏側の国のことまで様々な場所の様々な課題、魅力について発見が多く、非常に有意義なものでした。僕たちも、そんな問題にかかわることになると思います。身が引きしめる思いと同時に、講師の先生方のように活躍できるかもしれないと思うと心が躍りました。
- ・物事を多面的にとらえることや今の状況にとられずに考えていくことの大切さを学びました。探究活動でもこのような考え方を通じて、高校生にしか出せない答えを出していきたいと思いました。
- ・講師の方がそれまでの人生で学んできたことや探究活動をしていく上でのヒントを得ることができました。課題解決に対して「困っている人のために頑張るべきで、独りよがりになってはいけない」と考えを改めることができました。
- ・他県から来られた方が長崎の魅力に気づいて移住する、そして長崎の活性化に努めてくれる。これはすごく良いことで嬉しいなと思っだし、そういう人が増えるように私たちから何か他県の人に発信できないかなとも思いました。運営として関わったからこそ沢山のことを感じる事が出来ました。

### 【クリエイティブ・スタディー・ウィーク】（7～8月）

能力や興味・関心に応じて大学や企業等を訪問し、高度な学びに取り組めるよう、総合的な探究の時間に加えて、高校1年生はIGR、高校2年生はE-time（「主体的な学びの時間」水曜日と金曜日の7校時）の時間を組み込んで、教育課程や時間割編成上の工夫を行った。また、長期休業期間を中心に生徒が個々の興味・関心や研究テーマに応じて、下記のような自由な学びに取り組むための期間「Creative Study Week」を令和2年度より設けている。

これらの自主的な取組については、本校の「グローバルマインド育成プラン」により、35単位時間以上で「学校外における学修に係る単位」として認定する仕組みをSGH指定時より運用している。

- ①大学等における公開講座の受講やゼミ等への参加
- ②海外への短期留学やイベント等への参加
- ③課題研究等に関連したボランティア活動
- ④個人やグループで企画するフィールドワーク
- ⑤論文等の執筆活動
- ⑥その他生徒自身がキャリア形成や課題研究に役立つと考える活動

本年度は新規プロジェクトとして、広島大学WWLコンソーシアム構築支援事業「広島大学アドバンストプレイスメント」が本格実施され、単位習得が認められる履修生として、高校2年生1名が「日本の文学（近現代）」の授業を履修した。

### 【フィールドワーク週間・フィールドワークデー】（11月）

生徒は課題研究に必要なフィールドワークを、前述の「IGR」「総探」「E-time」を利用し、主体的に実施しているが、年に1度学校行事としてフィールドワークの日を設定しており、11月に離島を含む県内フィールドワークを毎年実施している。様々な場所へ出向き、現地で専門家の話を聞き、実地調査をするなどして研究を進めている。今年度はオンラインや電話でのインタビューも実施しており、校内の学習環境から県内外の講師と意見交換を行っている。11月のフィールドワークでは、近隣地区のフィールドワークには1日、長崎県外・離島地区の実地調査には2日間の授業日を充当した。対馬市におけるフィールドワークでは、高1は現地のNPO法人の指導のもと、複数の浜辺を訪れ現地調査をし、海ごみの現状について学んだ。

#### 《高校1・2年生の主な連携先（一部）》

##### 【高1】

- 他県…静岡大学人文学部、国境なき子どもたち（NPO）、東京都福祉保健局
- 県内（大学）…長崎大学核兵器廃絶研究センター、長崎大学熱帯医学研究所、長崎大学病院「ながさき医療人材支援センター」、長崎大学教育学部、長崎大学経済学部、活水女子大学、長崎女子短期大学、長崎県立大学情報システム学部、純心大学
- 官公庁等…長崎県庁都市政策課、長崎市役所長崎創生推進室、長崎市役所子ども政策課・幼児課、市民会館アマランス関連部署、長崎市廃棄物対策課、対馬市役所、長崎国際交流協会、長崎大学教育学部附属特別支援学校、長崎県庁観光振興課観光産業振興班、長崎県庁（高校教

育課)、難病相談支援センター、長崎漁港漁場課、くるみ幼稚園、長崎市立桜町小学校、長崎市立長崎中学校、伊良林小学校、JICA 長崎デスク

○図書館…長崎県立図書館、長崎市立図書館、ミライ on 図書館

○企業等…協和機電、福田子ども食堂、森きさら、風の森まなびの、住友林業長崎営業所、住友商事、リーフラス株式会社、フードバンク協和、対馬 CAPP、新大工商店街、NIB、長崎新聞社、リージョナルクリエイション長崎、十八親和銀行、スチームシップ、PAL 構造、上戸町病院、三菱重工、Hafh Co-Living Operations、メットライフ生命、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、SCSKニアショアシステムズ、井出果樹農園、いぬねこ不妊手術クリニック、三和技研、平尾段ボール、つくる邸、bugswell、長崎フードバンクシステムズ、JA 全農長崎、中島川クリニック、やすらぎ薬局、ホテル長崎、九州電力、川口農園

## 【高2】

○福岡市…チームギフトド

○粕屋町…entre vida 福岡

○対馬市…対馬市役所、対馬市振興局

○大村市…ミライ on 図書館

○諫早市…長崎県林業公社

○島原市…島原病院

○時津町…協和機電工業時津事業所

○長与町…長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科

○長崎市…長崎大学水産学部・多文化社会学部学生団体 STARs、長崎大学熱帯医学ミュージアム、長崎県庁（新幹線対策課・義務教育課ふるさと教育班・観光課・政策企画課・自然環境課・漁港漁場課・林政課）、長崎市役所（教育委員会学校教育課・ふるさと納税推進室・スポーツ振興課）、長崎県農業技術センター、三菱重工、活水女子大学健康生活学部食生活健康学科、長崎外国語大学、長崎南山高校、橘中学校、青山ニュータウン保育園、桜町保育園、JICA デスク長崎、長崎市立図書館、日見やすらぎ荘、ル・ポール、浜屋百貨店、長崎ペンギン水族館、伊王島、ハローワーク長崎、尾崎漬物店、社会福祉法人共同募金会、銅八銭、すはだみらい研究所、JA 長崎せいひ茂木支店、つなぐ BANK、カルディー、やすひウィミズクリニック、森こどもクリニック、ほんだ内科内視鏡クリニック、南山手こども家庭支援センターびいどろ、長崎市西工場、totish 等



(2) 「総合的な探究の時間」における研究開発

①中学校の取組

併設する中学校における探究学習プログラムについて、各学年の取り組みの内容を以下に記載する。

【中1】(中2・中3との共催プログラムあり)

学年	取組	実施日	実施内容
1	総合学習 (平和壁新聞)	1 学期	長崎の原爆被害や平和活動について調べ、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、平和壁新聞を作成し、意見発表を行った。
1	平和 FW	5/26(金)	原子爆弾が投下された長崎の歴史的遺構を訪ね、戦争の不条理さや原子爆弾によって奪われた多くの人々の命や生活について思いをめぐらせ、平和に対する意識を高めた。
1	JICA 出前講座	7/10(月) 5 校時	「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ 目的：世界には多様な言語や文化を持つ人々が様々な環境の中で生活しており、貧富の差や解決すべき多くの問題があることを体験的に学ぶ。 講師：小田智子 氏 (JICA デスク長崎 国際協力推進員)
1	総合学習 (職業研究)	2 学期	身近な人に働くことについてインタビューし、興味をもった職業について仕事内容やその職業に就く方法等を調べ、レポートにまとめた。
1	職業講話	10/26(木) 5～6 校時	「長崎県内の職業を知ろう」 目的： ①長崎県内にある企業の方から直接話を聞くことで、働くことの意義、何のために働くのかなどについて考える。 ②複数の企業の話聞くことで、様々な職業観を知り、今後の進路計画の基礎を身につける。 ③企業の方とふれあうだけではなく、事前・事後学習を行うことで、主体的に自分の将来について考える姿勢を育む。 県内の企業や公的機関8社から講師を招聘し、企業の紹介や生徒からの質疑応答に答えていただいた。
全	英語発表会	12/12(火) 6～7 校時	目的： ①英語表現への関心を深め、英語で発表することの喜びを経験する。 ②英語で自分の考えを効果的に伝えるコミュニケーション能力を育成する。 ③授業を通して学んだ異文化の奥深さと多様性を理解し、効果的に伝える。

			プログラム： <ul style="list-style-type: none"> <li>・語学研修発表：全学年</li> <li>・ビブリオバトル：1学年</li> <li>・レシテーション：2学年</li> <li>・プレゼンテーション：3学年</li> <li>・スピーチ：3学年</li> <li>・英語の歌：全学年</li> </ul>
1	総合学習 (新書レビュー)	2学期 ～ 3学期	興味のあるテーマに関する新書を読み、書評を作成し発表した。

### 【中1 JICA 出前講座生徒感想】

○ 自分で動いて世界の現状を体験することでより身近に世界の国々のことを知ることができました。また、ほかのクラスの人とも交流することができてとても楽しかったです。青年海外協力隊について調べてみようと思います。

○ 今、日本で当たり前だといわれることは世界では当たり前ではないことを知り、非常に驚きました。また、日本で不自由なく幸せに暮らせることに感謝し、世界の困っている人たちを救うために、少しずつ貢献していきたいと思いました。

○ 世界を120名で表してみると、教科書のグラフなどで細かく考えることのできなかつたことが、実際に目の前で形としてみることでより理解を深めることができました。また、私たちが世界のわずか20%の先進国で暮らせていられることに感謝をし、発展途上国の人たちへの支援をできることから行っていきたいです。

○ 今の世界の現状がグッと身近に感じられた。また、世界の国々への支援をするときに、その国が必要としているかどうかを考える、という注意がためになりました。次募金するときには、ただお金を入れるのではなく、どのように使われるのかをしっかりと確認するようにしていきたいと思いました。

### 【中2】(中1・中3との共催プログラムあり)

学年	取組	実施日	実施内容
2	総合学習 (平和リーフレット)	1学期	自分が考える平和(戦争・原爆だけでなく、身近な平和も含む)がSDGsの17項目のどれにつながるのかを考え、実際に長崎の特徴や良さを生かして、長崎で(長崎に関連するもので)行われていること、解決できることについて探究し、リーフレットを作成した。また、平和集会で調べたことを発表した。
2 ・ 3	グローバル講演会	7/10(月)  6校時	演題 「国際社会の一員として大切なこと」 目的：国際社会の一員として、適切な世界観を身につけさせる。世界平和を希求し、地球規模の課題を自分のものとして捉え持続可能な社会に貢献しようとする広い視野を育てる。

			講師：小田智子 氏（JICA デスク長崎 国際協力推進員）
2	総合学習 (好きなこと探究)	2学期～ 3学期	自分が興味のあることを活かして、長崎の諸問題の解決に向けて考えを深め、プレゼンテーションを実施した。

### 【中2グローバル講演会生徒感想】

○自分との違いを認めることの大切さが分かりました。また、自分からコミュニケーションをとることや積極的に動くことの大切さも感じる事ができました。これからの日常生活や、旅行をするとき、様々な人と会う時など、今日学んだことを大切にしていきたいです。

○世界中どこでも、互いを認め合ったり、尊重したりすることが大切だと思った。このようなことを意識して、視野を広げ、多様な考え方ができるようになりたいと思った。また、パラグアイが日本とかかわりが深いことを初めて知った。

○これまで共通の話題を探しながら友達を作ろうとしてきました。しかし今回の講話を聴いて、違いを認め自分とは違った文化に興味関心をもつことも大切だと感じました。「人間の数だけ当たり前があり、その違いを探しながら教えあう」といった話し方もやってみてみたいと思いました。

○開発途上国の発展において、“そのときだけの支援”ではなく、持続的に技術を向上させるためにその土地でできるものを開発するのはとても大事だと思った。違いを見つけたときにその背景を知ろうとするのは、国同士の文化だけではなく個人的なコミュニケーションでも大事なことだと思ったので、意識して試してみようと思う。違いを知り、同じを探し、一緒に楽しむのステップを覚えておきたい。

### 【中3】(中1・中2との共催プログラムあり)

学年	取組	実施日	実施内容
3	総合学習 (平和学習・ポスターセッション)	1学期	「ピース」をテーマに、過去にあった戦争や紛争、現在進行中の戦争、平和推進のために活躍した人、未来に向けて自分たちに何ができるかなどについてグループに分かれて調べ、自分たちの考えも含めポスターセッションの形で意見発表した。
3	高校生国際平和会議参観	7/28(金)	長崎ブリックホールで行われた、高校生国際平和会議を参観した。
3	総合学習 (探究論文)	2学期～ 3学期	自分の興味がある事柄と SDGs17 項目のいずれかを関連付けて課題設定をした。実験やアンケート調査、調べ学習をしながら、各自 PC で論文をまとめた。クラス発表後、各クラスの代表 2 名が学年発表に進み、さらに 3 名が学校代表として、県立中 3 校合同の卒業論文発表会で発表した。
3	県立中 3 校 3 学年 卒業論文発表会	3/11(月)	長崎県に 3 校ある県立中学校の諫早附属中学校、佐世保北中学校と本校が Teams を用いて合同卒業論文発表会を実施。各校からそれぞれ 3 名ずつが発表した。様々な分野の発表が行われ、質疑応答も充実しており、生徒たちはさらに視野を広げる

			ことができ、充実した会となった。
--	--	--	------------------

### 【中3 高校生平和国際会議感想】

○会議で発言している高校生の意見を聞いていると、先輩方の視野の広さに驚きました。来年は自分も高校生になるので、見習わなければならないと思いました。今からたくさんの世界の問題や課題に触れて、自分なりの考えを持って多くの人と意見交換ができる人になりたいです。

○今回の国際会議を通して、改めて自分の思い描く高校生像を見ることができた。私はまだアウトプットする力が乏しく、質問を瞬時に理解し回答することはできなかったと思う。だからこそ高校生が身につけている力にとっても驚いた。これからはできるだけ大勢の前で発表する機会を増やし、自分の考えを正確に伝える力を磨いていきたい。

○会議では現在の社会の課題に対して、高校生が活発に論理的で根拠に基づいた意見を出していて、尊敬の念を抱きました。今の自分には思いつかないようなアイデアやそれに対する質問等がたくさんあり、ほとんど年齢のかわらない高校生がそのような討論をしていることがとても衝撃的でした。これからの学校生活や課外活動を通して、私も先輩方のような力を身につけたいと思います。

### 【中3 探究論文振り返り】

○自分の探究では水質汚染という一つの視点で探究を進め、様々な視点から物事を見ることができなかったことを反省している。水質汚染は改善されてもほかのことが改善されないかもしれないし、誰かが損をするかもしれないと思った。これからの探究ではより多面的な視点を持って探究を進めていきたいと思う。また、実験においても一つの方法しか行わず比較することができなかったのを改善していきたい。

○論文の書き方を初めて学んでわかりやすくするのに苦戦しました。また、他の人の発表を聞いて、もっと具体的な提案をするべきだったと反省しました。発表のテーマはたくさんあって、それぐらい多くの問題を解決していかなければならないと思うと不安な気持ちになりましたが、みんなの発表にあったように私たちにでもできることはたくさんあると思うので、未来が少しでも明るくなるように今から取り組んでいきたいと思いました。

## ②高校1年生の取組

高校1年生の主な取組は第2章（1）カリキュラム開発の各項目で記載している。本項では、総合的な探究の時間・IGR、および11月のフィールドワークを中心に実施した探究学習の研究テーマと、9月、1月、3月に実施した発表会について記す。

### 【研究テーマ一覧】

組	班	研究テーマ
1組	A	個人パン屋同士の連携を促すことで長崎でのパン業界を盛り上げることは可能か
	B	長崎から発信する平和に関する理解を深め、どうやってみんなに黙とうをしてもらうか
	C	お菓シートの再利用方法
	D	コロナ禍で売り上げを伸ばした企業とその方法とは何か
	E	女性リーダーを増やすためには
	F	シャー芯の残り芯を減らすには
	G	高等学校における宿題は本当に必要なのか
	H	啓発活動やゴミ箱に関する工夫を通じて、人々のペットボトルとラベル、キャップの分別は促せるか
	I	子供も大人も楽しめるまちづくり
	J	精神疾患を持った患者が快適に過ごし、社会復帰できるようなシェアハウスを作ることは可能なのか
	K	砂から土を作ることはできるか、またその土で作物を育てることは可能か
	L	ゴミで花火は作れるか
2組	A	トイレのレバーの上側を小にすることで節水につながるのか
	B	外国人にとって住みやすい長崎にするためには
	C	廃棄される食材を有効活用することは可能か
	D	フードロス問題について
	E	障がい者差別と支援の現状
	F	使い捨て紙製品が環境に与える影響
	G	畑の食品ロスを減らすにはどうしたらよいか
	H	木質バイオマス発電は本当にエコなのか
	I	長崎の在来種野菜栽培の知名度を上げることはできるのか
	J	原子力発電所の処理水に対する他国と日本の世論の違いについて
	K	幼少期に効果的な英語教育
	L	ストレスへの適切な対処について
3組	A	エコなエネルギーを使って、長崎に合った新しい発電方法をかんがえよう
	B	昆虫食に対する苦手意識の改善するには
	C	ポイ捨てされている場所を調べ、共通点を見つけ、対策を考えよう
	D	ホテルが住めるようなきれいな川にするには

	E	韓国好きの日本人が韓国人と関わるイベントを開催することで長崎の経済向上を図れるか
	F	廃棄されるみかんを使って魚のえさを作り、魚嫌いの人を減らすことができるのか
	G	長崎の猫の殺処分をなくすには
	H	東高校のごみを減らすことは可能か
	I	企業と地元とのつながりとその考察
	J	筋肉について調べ、作ったトレーニングメニューは効果があるのか
4組	A	自殺した文学者の心理を分析して、現代の自殺者を減らすことはできないか？
	B	洋服のリサイクルはどうするのか
	C	長崎の斜面地と空き家を再生するには
	D	海の現状と私たちにできることは
	E	小学校の食育の課題と解決策
	F	しぐさから読み取る妊婦さんの不安
	G	音楽が人に与える影響
	H	二酸化炭素の活用
	I	「仮想敵」によっていじめをなくすことは可能か
	J	心理の変化による様々な症状の最適な解決方法を見つけよう！
	K	IT教育が進む中で、平和の大切さをどう伝えていくか
	L	なぜ人は命の危機が迫ると動けなくなるのか
	M	女子が文系、男子が理系といった偏見が生まれるのはどうしてなのか
5組	A	子どもの成長過程におけるスポーツと音楽の関係性
	B	食料不足改善のための昆虫食の普及について
	C	高校生でも達成可能なSDGsをつくろう
	D	容姿の固定概念をなくすことはできるのか
	E	芸術作品から着想を得て精神的不安を取り除くデザインを作ることは可能か
	F	子供のころにスポーツをする理由
	G	動物の虐待や飼育放棄をなくすために何ができるのか
	H	芸術作品から着想を得て、精神的安心をもたらすデザインを作ることは可能か
	I	来日外国人がよりよく過ごすために私たちにできることはあるか
	J	IT教育が進む中で、平和の大切さをどう伝えていくか
	K	筋肉をつけるための食事
	L	学生の新型栄養失調をなくすには
	M	介護者の負担を減らす方法
	N	戸石ゆうこう真鯛・シマアジを用いて地産地消かつ長崎の人口流失削減につながるか
6組	A	長崎での音楽推進について
	B	ガチャガチャのカプセルをプラスチック以外で作れるか
	C	産後の母親の心と体のケア

	D	音楽はなぜ人の心を動かすのか
	E	完全食で生活することは可能か
	F	使わなくなったコスメをアップサイクルしたい！
	G	理学療法の可能性
	H	効率的な勉強法
	I	佐賀の新幹線開通でどのような経済効果があるのか
	J	ジェンダーレスカラーのランドセルが普及するには
	K	精神状態による行動の変化
7組	A	自閉症の子供の QOL を高める方法
	B	音楽と運動の関係性
	C	火事場の馬鹿力を操る方法
	D	害虫駆除と QOL の向上について
	E	ジェンダーレスファッションを普及させるために
	F	言語を通じてながさきを発信
	G	長崎の果物を使った石鹸を作ることで果物に対する意識の変化や地域の活性化につなげることはできるのか
	H	なぜ日本のアニメは海外から人気なのか
	I	長崎の動物の問題について
	J	ボードゲームで猫の殺処分数を減らす
	K	ストレッチとカフェイン摂取が運動パフォーマンスに与える影響について
	L	学校給食で牛乳を難なくのむことは可能か
	M	不用品のアップサイクル
	N	廃棄される果物を生まれ変わらせる方法はあるのか

### 【発表会】

対象学年	高校1年
実施時期	クラス内発表会：9月20日（水） SDGs 別中間発表会：1月25日（木） WWL 探究発表会：3月21日（木）
指導者	本校教員
目的	①班別に作成した研究レポートの概要を、聴衆に伝えることで協働的思考力やプレゼンテーション能力を伸長する。 ②他グループの発表に対して、フィードバック（評価）することで、批判的思考力を養う。
方法	[クラス内発表会(9月)] ○すべての班が4分程度の発表をプレゼンテーションソフトを使用し発表。この発表をもとに11月のフィールドワークの内容を考える。 [WWL 探究中間発表会(1月)] ○全ての班がこれまでの調査・研究結果を5分間でプレゼンテーションと3分

	<p>間の質疑を行う。代表に選ばれた班は3月に行われる研究発表会でステージ発表を行う。</p> <p>[WWL 探究発表会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラス発表会でのフィードバックを取り入れた発表を行う。各クラスの代表班は、プレゼンテーションソフトを活用し、ステージで発表を行う。</li> <li>○代表班の発表終了後、希望する生徒との質疑応答を行う「フィードバックタイム」を設定する。</li> <li>○代表班以外はポスターで発表を行う。7分間の発表と3分間質疑応答を行う。</li> </ul> <p>[発表会共通]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒は他の班の発表を聞き、気づきなどをコメントシートに記録し、発表した班に渡す。発表した班は寄せられた気づきを参考にし、振り返りシートを記入し、今後の研究へ活用する。</li> </ul>
期待される成果	<p>プレゼンテーションを行い、また他班のプレゼンテーションを参観することで、責任感や協調性などを含むリーダーシップとフォロワーシップが培われるとともに、自分達の考えを効果的に伝える力を育成できる。</p>

9月のクラス内発表では、全ての班が4分間のプレゼンテーションと1分間の質疑応答を行い、自分たちの課題を明確にすることで、フィールドワークへの足掛かりとなった。1月のWWL探究中間発表会ではこれまでの研究の成果も含めて研究内容をプレゼン用ソフトにまとめ、全ての班が約5分間のプレゼンテーションを行った。また、他の班の発表を見ることで、自分たちの研究を深める一助となった。



↑ 発表会の様子



### ③高校2年生の取組

探究活動をはじめとした様々な教育活動の主体となる高校2年生は、「アフターコロナ」への対応を図りながら、少しずつコロナ禍前の取組に戻すことを意識しながら活動を行ってきた。また、1人1台貸与されているPC端末についても、活用の充実が進み、生徒が主体的にオンラインで協働機関をはじめ外部とつながるなど、広がりがみられるようになった。

高校2年生は、本校が育成を目指す7つの資質・能力、マインドセットである「WWL7」のうち、特に「課題発見・解決力」「創造力」の伸長に重きを置き、社会課題のなかにかくに課題を見出せるか、「問い」を見つけられるかを重視するとともに、他者と協働しその解決策を創造する力を育成することを主眼とした。探究活動をはじめ、授業や部活動、学校行事等様々な教育機会を通じて、そのことを意識して学びを深められるよう資料を配布するなど、生徒と職員間で共通理解を図ってきた。

高校1年次に新しいカリキュラムの下、探究をクラス単位で実施しており、高校2年生では、テーマや班編成を改めて実施した。協働性と創造力の伸長のため、チーム構成は普通科・国際科を解体し、さらに文理を融合した探究学習を推奨した。集合知による優れた探究的な学びを行うためである。

基本的な探究の流れは掴んでいるところからのスタートなので、ガイダンスは年度当初だけ行い、早速チーム編成を行って探究活動を開始した。テーマを設定し文献調査を行いつつ、11月にはフィールドワークを実施し、1月に全員で中間発表会を実施し、代表班を選出して3月に最終発表を行う。それらの運営を行う実行委員は、7月の国際会議をサポートしたメンバーが中心であり、探究活動の運営や準備などを主体的に行った。

7月にはベトナムフィールドワークを、3月には、ハワイやニューヨークでのフィールドワークを実施した。

#### 【総合的な探究の時間 高校2年生 年間実施概要】

月	実施内容
4月	研究テーマの設定
5月	①チーム編成 ②問い立て（リサーチクエスト）
6月	①高大連携講座 ②ワールドワイドチャンネル（識者による講演会、高1と合同実施） ③国際会議の準備、打合せ ④問い立て（リサーチクエスト）
7月	①国際会議の準備、打合せ ②国際会議（7/28）
8月	①国際会議のリフレクション ②探究継続
9月	①探究継続 ②フィールドワーク準備
10月	①探究継続 ②フィールドワーク準備
11月	①フィールドワーク（高1と合同実施） ②中間発表会準備
12月	①中間発表準備 ②ループリックの記入
1月	①中間発表会準備 ②中間発表会（1/26）

2月	①中間発表会の振り返り、審査結果発表 ②探究発表会準備
3月	①探究発表会準備 ②WWL探究発表会 (3/21)

### フィールドワーク実施要項

- 1 目的 WWL連携企業をはじめ県内各所でフィールドワーク（以下、FW）を実施し、探究活動の深化を図る。
- 2 対象 高1学年 277名 高2学年 261名 計538名
- 3 日時 11月8日（水）5校時～7校時（1～4校時：授業）  
11月9日（木） ※一部生徒のみ、8日（水）午前、9日（木）終日実施
- 4 FW先 長崎市内を中心に生徒より希望を取り、推進室で確認・協議後、決定する。  
文献調査や実験等で校内での活動を行うことも可とする。
- 5 実施の流れ  
9月20日（水） 生徒へFWの詳細・実施計画書についての連絡（推進室）  
10月4日（水） 実施計画書の提出（生徒→各担当・推進室）  
10月5日（木）～ 実施計画書に基づき協議し、FW先確定（推進室）→アポ取り開始（生徒）  
保護者承諾書を生徒配布（各担当）、依頼文書を依頼先に送付（必要なFW先のみ）（各担当）  
11月8日（水）～9日（木） FWを実施（生徒）
- 6 その他
  - ・長崎県内でのFWにかかる交通費や実験の材料費等は、生徒が負担する。
  - ・8日（水）午前、9日（木）について、生徒は原則として授業に出席する。離島（壱岐・対馬等）や県外FWを希望していて、探究の内容が充実し引率が可能な場合は、協議の上、8日（水）午前・9日（木）のFW実施を認める。その際のFWに伴う交通費については、WWL予算を活用する。
  - ・離島（壱岐・対馬等）や県外FWの生徒引率は、各学年での対応を基本とする。

## 高2 フィールドワーク一覧(11月8日)

番	フィールドワーク	番	フィールドワーク
01	totish(長崎市三原2丁目26-11 三原庭園内)	31	①中島川 ②三菱重工講演会
02	個人宅で調理	32	チームギフトッド(福岡市中央区警固2丁目)
03	県庁新幹線対策課(長崎市尾上町)	33	ペンギン水族館(長崎市宿町)
04	①学校でオンライン ②自宅で料理	34	長崎大学水産学部(長崎市文教町)
05	やすひウィメンズクリニック(長崎市銅座町) 東高で実施の可能性あり	35	①県庁自然環境課(長崎市尾上町) ②市立図書館
06	①県大看護栄養健康(西彼杵郡長与町まなび野) ②市立図書館文献調査	36	県庁漁港漁場課(長崎市尾上町)
07	みなみやまてこども家庭支援センター びいどろ(長崎市市南山手町)	37	福田海水浴場(市内福田本町)→鼠島海水浴場(市内小瀬戸町)
08	①森こどもクリニック(長崎市川平町) ②ほんだ内科内視鏡クリニック(長崎市尾上町)	38	①伊王島(長崎市伊王島町) ②三菱重工講演会
09	日見やすらぎ荘(長崎市宿町)→登校	39	①県庁林政課(長崎市尾上町) ②県林業公社(諫早市貝津町)
10	長大熱帯医学ミュージアム(長崎市坂本1丁目)	40	①レジオテック株式会社 ②株式会社 湯守 ①②ともリモートインタビュー
11	ル・ポール(長崎市鍛冶屋町)	41	①目保呂ダム(対馬市上県町瀬田) ②対馬市役所
12	校内実験	42	長崎市役所商工部ふるさと納税推進室(長崎市魚の町)
13	協和機電工業時津事業所(西彼杵郡時津町)	43	ハローワーク長崎(長崎市宝栄町)
14	島原病院(島原市下川尻町)	44	長崎市西工場(神ノ島町3丁目)
15	青山ニュータウン保育園(長崎市油木町)	45	①市立図書館(長崎市興善町) ②尾崎漬物店(長崎市五島町)
16	活水女子大学健康生活学部食生活健康学科(長崎市東山手町)	46	校内実験
17	県庁義務教育課ふるさと教育班(長崎市尾上町)	47	校内
18	長崎大多文化社会学部 学生団体STARs(長崎市文教町)	48	社会福祉法人共同募金会(長崎市茂里町)
19	桜町保育園(長崎市上町)	49	アンテック喫茶&食事 銅八銭(長崎市上町)
20	長崎市役所教育委員会学校教育課 12階(長崎市魚の町)	50	長崎ペンギン水族館(長崎市宿町)
21	校内オンラインインタビュー ①公立はこだて未来大、②九州大	51	①長崎県農業技術センター ②市内万才町施設でインタビュー
22	浜屋(長崎市浜町)	52	①長崎市スポーツ振興課(長崎市魚の町)
23	くるみ幼稚園(片瀬3丁目)	53	①素肌未来研究所(長崎市古川町) ②JA長崎せいひ茂木支店
24	entre vida福岡(粕屋町大字酒殿字老ノ木 イオンモール福岡)	54	①つなぐBANK(長崎市恵美須町) ②市役所(長崎市魚の町)
25	ミライon図書館(大村市東本町)	55	①南山高校(長崎市上野町) ②橋中学校(長崎市かき道)
26	①県庁(長崎市尾上町)訪問 ②三菱重工講演会	56	カルディー(長崎市尾上町 アミュプラザ長崎内)他
27	①九州電力(長崎市城山町) ②三菱重工講演会	57	校内
28	①県庁観光課 ②政策企画課(長崎市尾上町)	58	①ミライon図書館(大村市東本町) ②長崎外国語大学(長崎市横尾)
29	すはだみらい研究所(長崎市古川町)	59	JICAデスク長崎(長崎市出島町)
30	①中島川沿い(思案橋～矢上) ②三菱重工講演会	60	校内

Nagasaki Higashi		2023年度 第28号
<b>World-Wide Report</b>		Jan. 22, 2024
「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブな人材の育成		
<b>WWL・三菱みらい育成財団 探究フィールドワークを実施しました</b>		
11月8日（水）（一部9日（木）まで）に、高校1・2年生の探究班171チームが、探究フィールドワークを実施しました。それぞれの探究テーマに基づき、自分たちで開拓した協働先で知見を深めました。		
「人にも環境にも優しい石鹸とは」を探究している班は、「ワトキンス」という肌にやさしく水を使わない石鹸を販売している企業「entre vida 福岡」を訪問し、お店の方へのインタビューを通して、環境と消費の⓪関係や成分分析の必要性などを学びました。		
「漂着ごみ」の探究班は対馬を訪れ、漂着ごみの削減に向けた活動を行っているNPO「対馬CAPP」の⓪と協働しました。漂着ごみが集積する地区を調査し、漂着プラスチックごみの再利用についてお話をいただき、今後の探究への決意を新たにしました。その他の班も、長崎市内を中心に様々な場所で実施しました。		
		
（↑水を使わない石鹸についてインタビュー）	（↑対馬の漂着ごみについての現地調査）	
<b>三菱重工長崎造船所による特別講演・工場見学を実施しました</b>		
探究フィールドワークで「三菱重工長崎造船所」を訪問した班は、石瀬史朗フェローアドバイザー（前・長崎造船所長）様による、特別講演を拝聴しました。「持続可能社会の実現に向けた発電部門の取組み」と題し、世界の人口やエネルギー消費量が増加傾向にある状況、なかでも太陽光発電の増加率が突出していること、再生可能エネルギーとの共生の必要性と三菱重工が取り組んでいるカーボンニュートラルについて、高度で深い学びを得る貴重なお話をいただきました。さらに、工場見学をバスツアーで行い、知見を高めました。		
以下、生徒の感想です。		
「今回、三菱重工様の講演会を受講し、自分の考えの至らないような最先端の発電技術に触れたことで、持続可能な社会の実現に対する自分の考察を一新するきっかけになりました。特に再生可能エネルギーを一度水素に変換する取り組みは、保存性の確保に留まらず、送電による電気損失がないことから、町から離れた洋上や山間部での大規模発電の可能性や水素自動車の需要を生み出すものではないかと想像でき、夢が広がるプロジェクトだと思いました。非常に学びの多い講演で、受けられたことを大変嬉しく感じました。」		
「ターコイズ水素を製造するラインを開発する理由、バイオマスは脱炭素に貢献するのかという質問に丁寧に分かりやすく教えて貰い、面白くて夢のある話をして下さりありがとうございました。この講演で得た知識を基にしてこれからの研究に活かしていきます。今回、この講演を下さりありがとうございました。」		
「今回三菱重工さんの話を聞いて今まで知らなかったことや、自分たちの探究に活かせることをたくさん知ることが出来ました。今回一番心に残っているのはCO <sub>2</sub> の回収方法についてです。また水素やアンモニアの活用法についての詳しい話も聞くことができ貴重な体験になりました。本当にありがとうございました。」		
大きな成長を得た生徒たちは、探究をさらに深めていきます。		
お世話になった皆様、この度は本当にありがとうございました。（↑三菱重工特別講演の様子）		
		

## 【中間発表会】

中間発表会は、生徒から希望を取り、3月の発表会でステージ発表を希望するチームと、普通教室での発表を希望するチームに分かれ、全学年で実施した。下記に要項を記載する。

## 【中間発表会（ステージ発表希望チーム）要項】

### 令和5年度 高2 中間発表会【ステージ発表希望】実施要項

- 目的
  - ①探究内容を聴衆に伝えることで、プレゼンテーション能力などの自己表現力を伸長する。
  - ②他グループの発表にループリックに基づいてコメントすることで、批判的思考力を養う。
  - ③ステージ発表を行う代表班を選出するための参考とする。※班数は後日確定  
※代表班は3月21日（木）WWL 探究発表会（東高）にてプレゼンテーションを行う。
- 日時 令和6年1月26日（金）13：20～15：45（5～7校時）  
※掃除は昼休みの前か後に変更を希望
- 対象 高2ステージ希望 20班程度 ※班数、発表順は後日確定
- 日程・場所

	時 間	視聴覚教室	社会科教室	発表手順
開会挨拶（教頭先生）	13：20～13：25	全 員	←	
準 備	13：25～13：30			
発 表 1	13：30～13：41	A	B	①発表（7分） ②質疑応答（2分） ③コメント記入（1分） ④交代（1分）
発 表 2	13：41～13：52	C	D	
発 表 3	13：52～14：03	E	F	
発 表 4	14：03～14：14	G	H	
発 表 5	14：14～14：25	I	J	
休 憩	14：25～14：40			
発 表 6	14：40～14：51	K	L	①発表（7分） ②質疑応答（2分） ③コメント記入（1分） ④交代（1分）
発 表 7	14：51～15：02	M	N	
発 表 8	15：02～15：13	O	P	
発 表 9	15：13～15：24	Q	R	
発 表 10	15：24～15：35	S	T	
移動・準備	15：35～15：40		視聴覚室へ	
審査員代表講評	15：40～15：45	全 員	←	
教室へ移動	15：45～			

※発表班以外の生徒は発表を聴き、コメントシートを作成して発表班に提出する。

※発表順は部門を踏まえて定める。 ※当日は午後のチャイムをカットする。

※司会（英語・日本語）、タイムキーパー、パソコン補助、準備（パソコン、プロジェクター、スクリーン、会場設営）等の係は、基本生徒が行う。◎のチーフを中心に決定する。

- 6 準備過程 ① 12月中旬 — 発表順決定、状況に応じて抽選  
 ② 1月26日(金) — 中間発表会  
 ③ 2月上旬 — 審査結果発表  
 ④ 2～3月 — 本発表会準備

- 7 審査方法 ①プレゼンテーションの評価については、ルーブリックに基づいて得点評価する。  
 ②プレゼンテーションを総合的に評価し、後日審査結果を発表する。  
 ※プレゼンテーション評価のルーブリックは事前に生徒へ提示する。  
 ※生徒のコメントシートを別途作成し、発表へのフィードバックとして活用する。  
 ※質疑応答は日本語も可とし、審査の対象としない。

【中間発表会（普通教室発表希望チーム）要項】

令和5年度 高2 中間発表会 実施要項

- 1 目的 ①探究内容を聴衆に伝えることで、プレゼンテーション能力などの自己表現力を伸長する。  
 ②他グループの発表にルーブリックに基づいてコメントすることで、批判的思考力を養う。
- 2 日時 令和6年1月26日(金) 13:20～15:45(5～7校時)
- 3 対象 高2発表班 40班程度  
 ※ステージ発表希望の班を除いた正式な班数は後日連絡
- 4 日程 ※英語発表は6・7組で実施予定。クラス担当も変更の可能性あり。

	時間	2-1	2-2	2-3	2-5	2-6	2-7	発表手順
開会挨拶	13:20-13:25	オンライン						
準備	13:25-13:35							
発表1	13:35-13:46	a	b	c	d	e	f	① 発表(7分) ② 質疑応答 (2分) ③ コメント記入 (1分) ④ 交代(1分)
発表2	13:46-13:57	g	h	i	j	k	l	
発表3	13:57-14:08	m	n	o	p	q	r	
発表4	14:08-14:19	s	t	u	v	w	x	
休憩	14:19-14:29							
発表5	14:29-14:40	y	z	ア	イ	ウ	エ	
発表6	14:40-14:51	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	
発表7	14:51-15:02	サ	シ	ス	セ			
休憩	15:02-15:12							
振り返り	15:12-15:35	班別						
講評	15:35-15:40	オンライン						
移動	15:40-15:45							

※開会挨拶(教頭先生)、審査員講評については、オンラインで教室で視聴する。



【中間発表会の様子】（ワールドワイドレポート第30号より）

Nagasaki Higashi

# World-Wide Report

「世界の平和と共生」に貢献するイノベティブな人材の育成



2023年度 第30号

Mar. 14, 2024

## 高2 WWL 探究中間発表会を行いました！

高校2年生は、1月26日（金）に『WWL 探究中間発表会』を開催しました。

高2は、テーマ別で国際科と普通科がクラスを超えて60のチームを形成し、英語または日本語でプレゼン発表をしました。

視聴覚教室と社会科教室では、3月21日（金）に本校体育館等で開催する全国大会『WWL探究発表会』においてステージ発表を希望する16チームが、これまでの成果と今後の展望について、熱弁をふるいました。



審査の結果、高2からは以下の7班が3月の探究発表会において、第一体育館のステージで発表します。

### 【高2『WWL中間発表会』審査結果 優秀賞（1位相当）7班】

優秀賞	14班	『睡眠時無呼吸症候群で苦しむ人をゼロに』 （坂本暁、平隼輔、山口優衣、雨森智仁）
優秀賞	15班	『誕生月と性格形成に相関はみられるか』 （川内野穂香、永井朱李、若杉絆咲、林田明莉、星原凜花）
優秀賞	19班	『幼児に対するジェンダー教育』 （久保宏平、瓜生あかり、山口凜子、原結花、山口慶大）
優秀賞	28班	『光害対策と人口減少対策の相乗効果～星とともに輝く長崎の未来～』 （宮原瑠生）
優秀賞	34班	『中赤外線及び機械学習による海中のマイクロプラスチックの高速判定手法の確立』 （増田理裕、福田航也）
優秀賞	42班	『ふるさと納税を活用した地域活性化』 （光山あやめ、谷口小粋、田河真悠子、坂西咲耶香、森美麗）
優秀賞	47班	『防災手帳の活用から目指す防災意識の向上』 （清水和香、藤川結衣、松永百叶、濱洲和佳）

すべての参加生徒一人ひとりの成長が見られる貴重な一日となりました。今後、高1・2ともに3月の探究発表会に向けて、中間発表会の内容をさらに深めていきます。



## 【WWL探究発表会】

3月21日（木）に実施した、最終発表の機会となるWWL探究発表会は、県内外の高校生が集う全国大会として位置付け実施した。当日の運営は生徒主体で組織した実行委員会が主体を担い実施した。下記に実施要領を記載する。

### 令和5年度 WWL 探究発表会 実施要項

- 1 日時： 令和6年3月21日（木）
- 2 対象： 長崎東 高1・2学年 全生徒 ※中1・2学年は一部参観  
WWL 連携校より4校：舟入、立命館宇治、三島北、杵岐
- 3 プログラム

	第1体育館	第2体育館	視聴覚教室・普通教室
9:15 ～9:30	開会行事 ①校長挨拶(3分) ②管理機関挨拶(3分) ③生徒代表挨拶(3分)		
9:30 ～10:30 (60分) 〔発表1〕	・高2代表 2チーム ・舟入 ・杵岐 4チーム×15分=60分 ※発表10分、質疑応答3分、 交替2分 計15分		
10:50 ～12:40 (110分) 〔発表2〕	・高1代表 7チーム 7チーム×12分=84分 ※発表7分、質疑応答3分、 交替2分 計12分 ①10:50-11:02 ②11:02-11:14 ③11:14-11:26 (休憩・生徒入替) ④11:46-11:58 ⑤11:58-12:10 ⑥12:10-12:22 ⑦12:22-12:34	・高1ポスター60チーム 10チーム×6回 ※発表7分、質疑応答3分、 交替5分 計15分 ①10:50-11:05 ②11:05-11:20 ③11:20-11:35 (休憩・生徒入替) ④11:55-12:10 ⑤12:10-12:25 ⑥12:25-12:40	
12:40 ～13:30	昼食休憩 ※舟入・杵岐とバディは合同ランチ		



13:30 ~15:30 (120分) 〔発表3〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 立命館宇治（録画）</li> <li>• 三島北（録画）</li> <li>• 高2代表 5チーム  5チーム×15分=120分  ※発表10分、質疑応答3分、  交替2分 計15分</li> <li>①13:30-13:45</li> <li>②13:45-14:00</li> <li>③14:00-14:15</li> <li>④14:15-14:30  （休憩）</li> <li>⑤14:50-15:02（三島北）</li> <li>⑥15:02-15:14（立命館）</li> <li>⑦15:15-15:30</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高1ポスター21チーム  7チーム×3回、  ※発表7分、質疑応答3分、  交替5分 計15分</li> <li>①13:30-13:45</li> <li>②13:45-14:00</li> <li>③14:00-14:15  （終了後、第1体へ）</li> </ul>	【視聴覚教室】 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高2発表8チーム  ※発表7分、質疑応答3分、  交替2分 計12分</li> </ul> 【高3各教室】 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 高2発表45チーム  ※発表7分、質疑応答3分、  交替2分 計12分</li> </ul> ※時程・教室割は後日提示 （終了後、第1体へ）
15:30 ~15:40	講評・閉会行事 【第1体育館】 ①講評(5分) ②生徒代表挨拶(3分)		
15:40 ~16:10	撤収作業		
16:15~	SHR（自教室）		

探究発表会 研究タイトル、発表会場・言語等 ※太数字はステージ発表班

班	タイトル(研究課題)	会場	言語
1	長く着られる子供服の提案	3年6組	英
2	貧困軽減のための食事	3年2組	日
3	西九州新幹線による長崎の経済効果	3年1組	日
4	食物アレルギーの子供でもおいしく安全に食べられるものをつくる	3年4組	英
5	HBMを用いた子宮頸がんワクチン接種の要因の検討	視聴覚	英
6	長崎県民の健康寿命の延伸	視聴覚	日
7	虐待を伝えるために	3年3組	日
8	Eat to live, not live to eat	視聴覚	英
9	非常食の長崎での普及	3年6組	英
10	環境にやさしい蚊の罌を作る	3年6組	英
11	精神疾患を患っている人たちが生きやすい環境	3年2組	日
12	これからのマスクと日本社会	3年5組	英
13	きれいな水を作る	3年6組	英
14	睡眠時無呼吸症候群で苦しむ人をゼロに	ステージ	英
15	『早生まれ問題』の新たな視点	ステージ	英
16	貧困の子どもに対する必要な対策は何か。	3年1組	日
17	学校に背負っていくランドセル・カバンの中身の軽量化	3年2組	日
18	難民問題・難民教育について僕らができること	3年2組	日
19	性的固定観念を生み出さない幼児を対象にした教材の作成	ステージ	英
20	近い将来のジェンダー差別をなくすために、現代の小学生の教育を見直す	3年3組	日

21	ご当地キャラクターを使ってジェンダー問題を改善する	視聴覚	英
22	メイクの多様性	3年2組	日
23	紙芝居を通して子どもたちにLGBTQについて知ってもらおう	3年4組	英
24	環境にも人にも優しい石鹼とは	3年4組	英
25	海ごみからエネルギーを作れるか	3年3組	日
26	再生可能エネルギーを普及させる	3年1組	日
27	家庭・学校の電気を再生可能エネルギーで賄う方法	3年4組	英
28	光害対策と人口減少対策の相乗効果～星とともに輝く長崎の未来～	ステージ	日
29	健康と環境にやさしい化粧品	3年1組	日
30	災害時に有用なペットボトル水道の効率化	3年5組	英
31	地球温暖化のごみの影響	3年3組	日
32	ギフトのための教育環境	3年1組	日
33	生態系の安全を確保するために、海ゴミ削減を実現させよう。	3年1組	日
34	中赤外線及び機械学習による海水中のマイクロプラスチックの高速判定手法の確立	ステージ	英
35	長崎の外来生物の現状と行っている対策	3年5組	英
36	鉄鋼スラグを用いた藻場造成	3年5組	英
37	海ゴミの削減について	3年1組	日
38	海ごみ	3年3組	日
39	環境にやさしい製品を選ぶ消費者意識の形成	視聴覚	英
40	レジオネラ属菌の発生対策	3年3組	日
41	境川の魚道設置と溪流魚の保護	視聴覚	英
42	ふるさと納税を活用した地域活性化	ステージ	英
43	長崎外国人労働者の雇用・労働問題	3年3組	日
44	画像認識AIによるゴミの分別	3年4組	英
45	あまり知られていない五島列島の郷土料理「このもん」を広めるためには	3年2組	日
46	外来植物を利用し環境に配慮した糸を作成する	視聴覚	英
47	防災手帳の活用から目指す防災意識の向上	ステージ	英
48	募金の詳しい内訳や方法を知ってもらい、お金だけではないボランティア方法をみんなに伝える。	3年6組	英
49	長崎の食べ物を発信	3年4組	英
50	SNSを活用し長崎ペンギン水族館を盛り上げ、地域創生に貢献する	3年5組	英
51	Can we make compost with the fallen leaves in our school?	3年6組	英
52	スポーツイベントを通じた長崎の経済活性化	3年5組	英
53	規格外の特産物を使用した美容アイテムの開発	3年2組	日
54	長崎のフードロスへの意識の向上	3年1組	日
55	長崎東においてペーパーレス化の推進は可能か。	3年5組	英
56	不平等の改善を通じた地域活性化	3年2組	日
57	外国籍住民に対する地方参政権(投票権)を認めることは可能か	視聴覚	英
58	Considering what is required to the advanced peace education	3年4組	英
59	フェアトレード商品の販売促進について	3年6組	英
60	災害パンフレットにやさしい日本語を組み込むことで防災の意識をより高めたり言語の壁をなくすことは可能か	3年6組	英

### 【英語科との連携】

国際科では、2学期の時事英語の時間に英語を母語とする専任講師より、模擬国連へ向けての準備プログラムを5時間実施した。このプログラムの目的は、海外修学旅行においてシンガポール国立大学でLGBTQ+をトピックに実施する模擬国連のための準備である。対象となる国際科生徒80名を13か国に分け、担当国の状況について調査・分析を行い、英語によるスピーチ原稿を作成した。12月に実施したシンガポール国立大学での模擬国連では、参加生徒は3グループに分かれ、全員が担当国大使を務めた。同大学生と英語による決議文書を作成するに至った。

### 【海外フィールドワーク】

構想計画書に記載したとおり、下記のフィールドワークを実施することができた。

研修先	期日	内容	派遣生徒	引率
①ベトナム (ハノイ、ニャチャン) 医療プログラム 4泊6日	R5 7/31(土) ～8/8(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点長谷部太拠点長、阿部遥先生からの講義(人獣共通感染症、海外で研究を行う意義)</li> <li>・ベトナム保健省アドバイザーJICAベトナム職員正林督章氏からの講義(公衆衛生行政)</li> <li>・JICAベトナム国際看護師山下祐美子氏からの講義(国際医療活動)</li> <li>・長崎大学熱帯医学研究所ニャチャン分室/パスツール研究所樋泉道子先生からの講義(感染症医療の実態)、研究所見学</li> </ul>	高2 岩本賢菜 濱洲和佳 山口優衣 林田姫芽伽	鳥居
②アメリカ (ニューヨーク) 平和プログラム 3泊5日	R6 3/3(日) ～3/7(木)	高校生平和共同宣言、核廃絶、経済制裁等についてUNODA等国連職員と意見交換	高2 久保宏平 森保敬	マツト
③ハワイ (オアフ島) 平和プログラム 5泊7日 ホームステイ	R6 3/9(土) ～3/15(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地学生との合同平和フィールドワーク(アリゾナ記念館、戦艦ミズーリ、航空博物館、太平洋記念墓地)</li> <li>・日系移民インタビュー(プランテーション)</li> <li>・農業体験</li> <li>・連携校 ULS での合同授業、学校紹介、平和についての意見交換</li> </ul>	高2 坂元 あゆ子 松川 渚紗	鳥居

※その他(同窓会事業)欧州派遣:オランダ(連携校生徒とライデン市等での合同フィールドワーク)

R6 3/22 (土) ~3/30 (土)

- ・派遣生徒：山口凜子 (2-3)、小野凌太郎 (2-6)、林田明莉 (2-6)、川内野穂香 (2-7)
- ・引率：柏井、山下龍先生 (長崎大学グローバル連携機構 機構長特別補佐)
- 同行者：山下鈴々奈 (75 回生、昨年度卒 慶応大学 1 年生)

#### a. ベトナム (医療プログラム)

WWL 協働機関である長崎大学の熱帯医学研究所より全面的に協力をいただき、同研究所ベトナム拠点 (ハノイ) とニャチャン分室 (ニャチャン) で人獣共通感染症やフィールド調査について専門性の高い研修を実施していただいた。またニャチャン分室と同じ敷地内にあるパスツール研究所では施設見学と、発展途上国における感染症医療の実態について高度な学びを得る機会となった。また、JICA ベトナム職員から公衆医療行政や国際医療活動についてお話をうかがい、見識を深めることができた。

#### <参加した生徒からの感想>

- ・私自身もともと人獣共通感染症に興味があり、調べていく中でコウモリが鍵になることはわかっていたのですが、コウモリの進化とウイルス保持の仕組みに関係があることや、先生のようにコウモリを捕まえて調べている研究者の方の実体験を初めて聴き、とても興味深かったです。質問にもたくさん答えていただきました。
- ・先生は研究で訪れた途上国での暮らしについてもお話してくださったのですが、新しい発見にあふれたその土地その土地での生活を、不便ながらも楽しんでいらっしゃる様子で、とてもうらやましく思いました。講義後もたくさん質問に答えていただき、多くの発見がありました。
- ・私は自分の進路についてももう一度よく家族と考え、自分の内面を磨くための学習を続けていきたいです。
- ・当時の安倍総理大臣や菅総理大臣、加藤厚生労働大臣と連携をとりながら、国家行政の中心として法の制定、改正に深く関わってこられたお話にも、終始感銘を受けました。
- ・ベトナムは、現在、健康寿命の短さやNCDs (非感染症疾患)、日本よりも速いスピードで進む高齢化、また人材不足などの諸問題を抱えています。そのため、全ての人が十分な質・量の医療サービスを受けられる世界を指す「UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)」を目標に、成長と競争力強化、ガバナンス強化、脆弱性の強化を進めています。山下先生の講義から、具体的なシステムやベトナム支援の実態を詳細に学ばせていただきました。
- ・小児科医として活躍されてきた先生から、感染症について専門的な知識をご教授いただき、大きな学びの機会となりました。特に、感染症が派生して聴覚障害や発達障害が引き起こされる実態が興味深く感じました



↑長谷部拠点長の講義



↑正林先生の講義



↑山下先生と JICA ベトナムで



↑樋渡先生の講義



↑長谷部先生と阿部先生



↑長谷部先生と正林先生

#### b. ニューヨーク（平和プログラム）

令和6年3月3日から3泊5日の日程で、高校2年生2名がニューヨーク国連本部を訪問し、軍縮部職員3名と「経済制裁」について意見交換を行った。また、本年度7月に開催した高校生国際平和会議で採択した「高校生平和共同宣言」を軍縮部 HP で公開できるよう依頼した。

ニューヨーク市内の9.11メモリアルやタイムズスクエア等を訪問し、「平和と観光」および「多文化共生」について知見を広げることができ、参加生徒にとって非常に有意義な研修となった。

#### c. ハワイ（平和プログラム）

令和6年3月9日から5泊7日の日程で、高校2年生2名がハワイ（オアフ島ホノルル）にてフィールドワークを実施した。現地高校生と真珠湾のアリゾナメモリアル、戦艦ミズーリ、航空博物館、太平洋記念墓地（パンチボウル）を訪れ、犠牲者へ祈りをささげるとともに、戦争被害や歴史について学びを深めた。また、プランテーションビレッジや日系移民へのインタビュー、連携校である University Laboratory School にて、平和に関する意見交換を実施した。



#### ④高校3年生の取組

総合的な探究の時間（1単位）を用いて、国際会議実行委員88名は国内外の参加者とのオンラインによる準備会議や内容の検討を行った。その他の生徒は志望理由書の作成と志望学問分野に即した書籍、または論文を1つ読了する活動を行った。また、「ピアサポート」として高校3年生の希望者が高校1年生と中学校3年生へ、問い立て・リサーチクエスチョン・調査分析の方法など、探究活動全般に関する指導助言を行った。

令和5年度 長崎東 高3 探究計画（案）								
3パターンで実施								
(1)国際会議…運営準備、登壇者の練習、平和共同宣言の作成								
(2)ピアサポート…高1・中3の探究の指導（1学期中に3回程度）								
(3)志望理由書…								
①志望分野・関連書籍を選定し入力(Forms)+併行して面談→②関連書籍を読了→								
③志望分野別で集まりレビュー→④志望理由書記入→⑤添削→⑥志望理由書提出								
※(1)国際会議該当生徒は志望理由書は任意								
月	日	曜	探究の時間（⑥校時）			E-time（⑦校時）	教員の関わり、備考	
			(1)国際会議	(2)ピアサポート	(3)志望理由書	対象		
4	12	水						
	14	金				面談・キャリアパス記入		
	19	水	歓迎遠足					
	21	金				面談		
	26	水	海外FW報告会（高1～3参観）第一体育館			全		2年の振り返り・今後の計画
	28	金				一部		溝田先生指導
5	3	水	みどりの日				※担任・副担任で書籍のチェック	
	5	金	こどもの日					
	10	水	準備／練習	ピアサポート準備	文献選定入力締切	一部	会議準備／溝田先生指導	
	12	金					※必要であれば面談等で進路に即した書籍紹介	
	17	水	準備／練習	ピアサポート準備	分野別読書	一部	会議準備／溝田先生指導	
	19	金						
	24	水	準備／練習	ピアサポート	分野別読書	一部	会議準備／溝田先生指導	
	26	金						
6	31	水	準備／練習	リフレクション	分野別読書	一部	会議準備／溝田先生指導	
	2	金	高校総体開会式					
	7	水	振替休日					
	9	金						
	14	水	準備／練習	ピアサポート準備	レビュー準備	一部	会議準備／溝田先生指導	
	16	金					考査前（質問教室）	
	21	水	準備／練習	ピアサポート	分野別レビュー		考査前（質問教室）	
	23	金	第1回考査					
	28	水	準備／練習	リフレクション	志望理由書ガイダンス		考査レビュー日	
30	金	校内大会						
7	5	水	準備／練習	志望理由書記入		一部	会議準備／溝田先生指導	
	7	金					（いのちの講話）	
	12	水	三者面談／国際会議準備			一部	三者面談／国際会議準備	
	14	金	三者面談／国際会議準備			一部	三者面談／国際会議準備	
	19	水	準備／練習	志望理由書記入		一部	国際会議準備	
	26	水	準備／練習	志望理由書記入		一部	国際会議準備	
	27	木	午前：海外生徒学校訪問 午後：合同平和フィールドワーク					
	28	金	WWL高校生国際平和会議					
8	30	水	国際会議振り返り					

【高3の研究テーマ 日本語】

1	音楽療法で子供達に心のゆとりを
2	中通り商店街の活性化
3	義務教育の違いについて
4	廃棄寸前の特産品から新たな特産品を作る
5	長崎の空き家活用
6	長崎市を観光で活性化する
7	カードゲームで中学生のジェンダー意識は変わるのか
8	ジェンダーレスな幼児向け玩具の開発
9	交通事故を減らす～歩行中に事故に遭わないために～
10	段ボールを用いた避難所の問題改善
11	さまざまな愛の形を認め合いジェンダーフリーな地域を創る
12	家庭内事故を減らす
13	男性の子育てについて
14	集中力を持続させる香りの種類とは
15	自閉症をもつ子どもの新しい教育方法
16	アメリカと日本の教育の違い
17	リラックス効果の観点から見たニキビ予防
18	栄養失調の人のために廃棄量の多い食材を取り入れた栄養ゼリーを作ろう
19	南アフリカに理数科目を浸透させるには
20	食物アレルギーを持つ人が安心して外食するために
21	高齢者の非常食
22	コンポスターの普及へ向けて
23	絶滅危惧種を守る
24	海の水質汚濁を改善するには
25	アクアポニックスの可能性と普及について
26	長崎の特産品を生かした食べられるお箸作り
27	県内観光客増加のための観光プラン
28	新大工商店街の活性化に向けて高校生ができること
29	再生可能エネルギーで効率の良い風力発電
30	海ごみ回収装置を作る
31	クラゲの被害と潜在的有用性
32	MSC 認証マークの普及
33	長崎の海に住む魚の生態調査
34	長崎の平和教育を見直そう
35	高校生におけるインターネットトラブルの加害者増加の背景とその解決策
36	これからの児童虐待とその対策



37	トイレから長崎の活性化を図る
38	間伐材を利用した林業の活性化
39	生理の理解を広める
40	オンライン診療
41	アフリカ地域で作れる栄養調整食品

**【高3の研究テーマ 英語】**

1	Blind Badminton
2	The Providing Method of High-Quality Information
3	Making Effective Compresses from Old Compresses
4	Development of Educational Toy
5	Making Paints from Discarded Vegetables
6	The Effective Use of Abandoned Milk
7	Soil Desalination with Ice Plant
8	Regional Disparities in Developing Countries in Asia and Support for the Poor
9	Creating a Sustainable System to Reduce Food Loss Using Vending Machines and Food Drive
10	Is it Possible to Recycle Used Masks into Substitutes for Plastics?
11	Investigation of Seaweed Varieties Suitable for Sustainable Seaweed Bed Creation
12	The Optimal Type of Oil for Removing Micro Plastics by Using Ferrofluid
13	Gradual Reduce of the Usage of Plastic in Contemporary Society and the Plan with Plastic Free World in the Future
14	Efficient Airplane
15	Water Quality Improvement by Microorganisms
16	Collect Drifting Garbage with Drifted Garbage
17	Portable Toilet with Deodorizing Effect
18	Antibacterial Action of Catechin
19	To Reduce the Rate of Tooth Decay in Higashi
20	Taking a Measure for Corona Virus Using Nagasaki Specialties
21	Creating an Educational Environment Where Students Can Learn Together Regardless of Disabilities ~Toward the Promotion of Inclusive Education~
22	Can Design and Advertising Change the Image of Cosmetics?
23	Peace Education from a Viewpoint of Psychological Aspect and its Future
24	Support for Ukraine as a Bombed City, Nagasaki
25	Living with Dogs and Cats
26	Creating a Multilingual Joint Declaration of Peace

### (3) 事業協働機関・事業連携校との取組

#### ①長崎大学等との連携

##### 【長崎大学による高大連携講座】

長崎県教育委員会は長崎大学と高大連携事業に関する協定書を交わし、「高大連携事業に係る科目等履修生を対象とした授業科目」および、「高校生公開講座」、「オープンラボ」等の取組を実施してきた。拠点校は長崎県全体への普及のための事務局として中核的な役割を担っている。本年度は、大学入学後の単位認定が可能な授業科目は講師等の都合により開講されなかった。「高校生公開講座」には、拠点校の生徒を含む60名、「オープンラボ」には、拠点校の生徒を含む59名が県内の高校より受講した。

##### 【SDGs 講演会】

5月から6月にかけて、探究活動の基盤となる知識・教養を深めるため、SDGs 講演会を開催した。事業協働機関である長崎大学経済学部の山口純哉 准教授をはじめ、SDGs をテーマにした社会課題の解決に向けて、現場の第一線で研究・活動を行っている先生方から講演をいただいた。高校1・2年生に加え、県内の公立高校・私立高校を対象に、オンライン配信も行った。

期日	SDGs 分野	講師
5月31日(水) 6校時	環境	地域循環研究所 豊澤健太 様
6月14日(水) 6校時	社会	一般社団法人 OBAMA ST. 山東晃大 様
6月14日(水) 7校時	経済	長崎大学経済学部准教授 山口純哉 様
6月28日(水) 6校時	国際	JICA 長崎 小田智子 様

また、9月13日には高校2年生全員を対象に、長崎大学との高大連携出前講座を開催した。次頁に実施要項を記載する。

令和5年度 長崎大学による高大連携出前講義 実施要項

- 1 目的 進路学習の一環として、大学教授・准教授から講義を受け、専門的な学問に対する学習意欲を高め、将来の自己の進路について考えるきっかけとする。また、専門的な内容に触れることで「探究」の活動をより豊かなものとし、課題研究の一助とする。
- 2 期 日 令和5年9月13日（水） 6・7限
- 3 対象生徒 高校2学年（259名）
- 4 日 程 14：05 5校時終了 高2生徒は簡単掃除ののち移動  
 14：15 係生徒は講師の先生方を会議室から各教室へ誘導  
 14：15～14：25 会場設営・準備（PC、プロジェクターなど）  
 14：25～15：55 大学・学部紹介、講義  
 15：55～16：15 質疑応答、お礼の言葉、アンケート回答

5 実施講座と使用教室

学部	講師氏名	使用教室	参加数	担当者
多文化社会	河村 有教 准教授	高2-3	38	富野・マツト
教育	内野 成美 教授	高2-2	35	柏井
経済	林 徹 教授	視聴覚教室	45	隈・藤井
医（医）	井上 剛 教授	高2-6	20	岩崎
医（保健）	井口 茂 教授	高2-7	30	田中正
薬	山田 耕史 准教授	地球物理	20	横山
情報データ	宮島 洋文 准教授	高2-1	11	百枝
工（機械）	桃木 悟 教授	高2-4	13	原口俊
工（電気）	中野 正基 教授	高2-5	13	磯野
工（構造）	永井 弘人 准教授	多目的4	13	宮崎
工（化・物質）	兵頭 健生 准教授	多目的A	5	宮本
環境	白川 誠司 准教授	多目的B	11	樋口
水産	近藤 能子 准教授	多目的1	5	橋口

## 【広島大学WWL コンソーシアム構築支援事業「広島大学アドバンストプレイスメント」】

昨年度、大学教育の先取り履修プログラムとして始まった「広島大学アドバンストプレイスメント」に加盟した。また、県内連携校の長崎西高校と諫早高校、県外連携校の広島市立舟入高校、広島女学院高校も、同コンソーシアム事業の連携校として加盟している。本年度は、単位習得が認められる履修生として、高校2年生1名が「日本の文学（近現代）」の授業を履修した。

次年度は、新高校2年生が2名、「英語によるレポート・論文の書き方」「心理学概論 B」にそれぞれ履修を希望している。

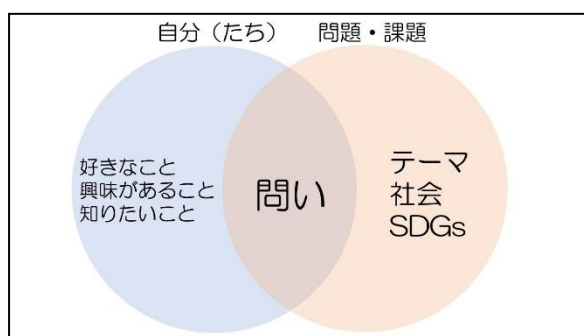
## ②教員研修

### 【探究学習】

#### 拠点校主催の探究職員研修

拠点校事業のひとつとして、R3年度より、探究活動についての教員研修を県内の連携校を含むほぼ全ての私立・公立高校へ案内し実施している。R5年度は以下の表に記載した研修を実施した。約30名の本校職員と、オンライン配信にて県内11校15名の教員が、社会の変化を踏まえた探究活動の重要性と、探究学習の具体的実践について理解を深めた。

期日	講師	内容	外部参加	形態
5/15	鳥居教諭 榎本教諭	①WWLについて ②問い立て（リサーチクエスト）について	壱岐、壱岐商業、諫早、 諫早商業、宇久、大村、佐世保 北、佐世保中央、鹿町工業、 佐世保特別支援、島原、 長崎工業、長崎北陽台、松浦、 佐世保東翔	ハイブリッド (対面+遠隔)



研修スライドの一部



研修の様子

#### 外部主催の探究職員研修

本校探究学習担当の榎本英人教諭が下記研修会にて探究活動についての実践報告を行った。

- ・九州 online 探究勉強会

日時：2023年6月27日

主催：全国高校生マイプロジェクト熊本県事務局

方法：オンライン

内容：探究学習の事例とマイプロでの経験について

参加者：約 100 名

- ・探究的な学習のシンポジウム

日時：2023 年 8 月 4 日

主催：活水学院キャリア教育センター・長崎県教育庁高校教育課新たな学び班

方法：対面

内容：指導助言等発表内容フィードバック

参加者：約 50 名

- ・探究道場（島根大学社会教育主事講習勉強会）

日時：2023 年 11 月 30 日

主催：島根大学社会教育主事修了生コミュニティ

方法：オンライン

内容：探究的な学びとその事例紹介

参加者：約 30 名

## WWLカリキュラム開発およびALネットワークに関する実践発表等

令和 6 年 2 月 15 日に、長崎県教育委員会が主催する「令和 5 年度研究指定等にかかる研究報告会」にて、本校 WWL 推進室長の鳥居正洋教諭が実践報告を行った。対面・遠隔による約 80 名の参加者へ、WWL 事業における探究学習プログラムを中心としたカリキュラム開発や、7 月に開催した高校生国際平和会議などについて説明し、広く成果を普及した。また、同報告について管理機関は YouTube による限定公開を実施し、県内の公立高校等へ研究内容を広めた。

令和 6 年 2 月 27 日に開催された「令和 5 年度文部科学省 WWL コンソーシアム構築支援事業成果報告会」にて、鳥居室長より「SDGs を基盤とした文理融合の学び」について実践発表を行った。

また、令和 5 年 6 月 9 日には、一般社団法人三菱未来育成財団「心のエンジンを駆動させる教育プログラム」（R2～R4 本指定、R5～R7 リエントリー制度採択）のホームページにて、WWL 事業で開発した IGR や探究ベーシックなどの探究的な学びを推進するカリキュラム開発、国内・海外フィールドワーク等について成果報告を行った。令和 5 年 9 月 24 日には、同財団主催の「みらい育成アワード 2023」のパネルディスカッションの西日本代表校として鳥居室長が登壇し、意見交換や質疑応答をおこなうなかで、WWL 事業の取組内容を含む教育活動について、広く成果を普及した。

## ③授業改善

拠点校では、SGH 指定時より毎年 6 月または 7 月と 10 月に「授業改善週間」および「授業研究会」を設定している。すべての教員が授業参観や公開授業を実施し、校種・教科を越えて合評会を実施している。本年度 7 月は、「探究の手法を意識した授業の実践『主体的・対話的で深い学び』」をテーマとした。

10月にはベネッセコーポレーションと共催し、「生徒の創造的思考力を高めるための探究的授業の実践」をテーマに、「WWL長崎東授業研究会」を開催した。8本の公開授業に対面とオンライン合わせて九州から71名の参加があった。

下記に、「授業改善週間」ならびに「WWL長崎東授業研究会」の実施要項等を記載する。

## 授業改善週間（6月）

図書・研修部

### 令和5年度長崎東中学校・長崎東高等学校 第1回授業改善週間

- 1 目 的 生徒の「課題発見・解決力、創造力、情報分析・活用力、自己表現力、協働力、学ぶ意欲、地球市民性」（WWL7）を養うことを目的に、探究学習の手法を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を実践・参観することによって、教師の授業力を高める。
  - 2 期 間 令和5年7月3日（月）～7月14日（金）  
※7月14日（金）は、各教科の研究授業並びに授業研究会を実施する。
  - 3 テ ー マ 「探究」の手法を意識した授業の実践
  - 4 内 容 (1) 中・高全学年を通じて、この期間を相互授業参観週間とする。
    - ①3日～13日の間に一時間、14日に一時間、合計二つの授業を参観する。
    - ②この期間に公開できる授業を、各自図書・研修部が用意するカレンダーに書き込む。(2) いわゆる WWL7(上記)の力を身に付けさせることを目的とした授業を実施する。
    - ①「探究的な学習の10の特徴（下記）」（参考『月刊 高校教育 増刊』2021年12月5日発行）を意識することで、WWL7に繋げることができると考えられる。

①問題意識を持ち自ら問いを設定する	⑥概念化と具体化の往復をする
②自律的な学習を行う	⑦自己や社会と関連づけて価値づける
③課題解決や仮説検証を行う	⑧自己修正、自己評価、学習改善をする
④主体的な資料の探索と検証をする	⑨自己形成、自己成長を推進する
⑤多様な学び方を学ぶ	⑩新しい探究課題を設定する
- \*「この中から3個から5個の特徴を取り入れることで、単なる調べ学習が深い学びとして探究的な学習に発展していく」（『月刊 高校教育 増刊』より）
- ②目的を達成する手段として、グループワークを実施したりICTを活用したりする。
  - ③授業内容により可能であればSDGsと関連させる。

(3) 授業見学後は、感想・意見を「授業参観記録シート」に記入し、授業担当者と図書・研修部に提出する。(中央テーブルに提出用の箱とチェック用の職員名簿を用意する。)

(4) 14日に各教科が実施する研究授業を参観し、教科ごとに授業研究会を行う。

5 備考 (1) すべての先生方に「探究的な学習」にチャレンジしていただくという意味で、この期間に公開可の授業を設定していただき、図書・研修部が共有内に用意するカレンダーにご記入ください。ご協力よろしくお願いします。

(2) 14日の研究授業計画の詳細については後日提示します。各教科主任におかれましては14日の研究授業実施者の選定をお願いします。決定しましたら黒田までご連絡ください。

(3) 14日以外で研究授業を行いたい方は、内容と日時、実施クラスを図書・研修部(黒田)までご連絡ください。

### 長崎東中学校・長崎東高等学校 令和5年度第1回授業研究会

1 日時 令和5年7月14日(金) [授業改善週間：7/3(月)～7/14(金)]

2 日程 朝読なし

8:30～9:20 研究授業①(50)

9:30～10:20 研究授業②(50)

10:30～11:20 研究授業③(50)

11:30～12:20 研究授業④(50)

12:20～12:25 簡単掃除

昼休み

13:15～14:00 5校時の授業(45)

14:10～14:55 6校時の授業(45)

15:05～15:50 7校時の授業(45)

15:50～16:00 SHR

16:05～ 授業研究(各教科)

### 3 公開授業時間割及び授業者

校時	授業者	教科・科目	クラス	教室
1校時	下田	情報・情報Ⅰ	高1-7	高1-7
	丸田	理科	中3-3	中3-3

2校時	川口	英語コミュニケーション	高1-3	高1-3
	磯野	古典探究	高2-5	高2-5
3校時	城下	地歴総合	高1-4	高1-4
	田中貴章	数学	中2-2	中2-2

#### 4 授業研究、時間と場所

時間	教科	場所	時間	教科	場所
16:05 ～	国語	地球物理教室	16:05 ～	理科	地球物理教室
	英語	社会科教室		地歴公	社会科教室
	数学	多目的教室③		情報	多目的教室③

#### 5 備考

- ①特別時間割は組んでいませんので、観ることのできる範囲で参観してください。（「授業研究会」ですので、自分の授業を自学にして参観することも可と考えます。）
- ②他の教科を観ることも可です。その場合は、参観した教科の授業研究会に参加してください。
- ③授業研究会を放課後にセッティングしています。各教科で、終わりの時間などは決めてください。
- ④高3担任は3者面談を優先させてください。

#### 授業参観記録シート

※記入後は、1枚を授業者に渡し、コピーを中央テーブル上の箱にご提出ください。

観察者氏名(所属)：

(中高)

日時/場所	令和5年	月	日( )	校時/場所( )
対象	中・高 年 組			教科
授業者				(科目)
参観しての気づき	・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】			
	・「探究的手法」にかかわる工夫			
育成された資質	<b>【WWL7】</b> <input type="checkbox"/> 課題発見・解決力 <input type="checkbox"/> 創造力 <input type="checkbox"/> 情報分析・活用力 <input type="checkbox"/> 自己表現力 <input type="checkbox"/> 協働力 <input type="checkbox"/> 学ぶ意欲 <input type="checkbox"/> 地球市民性 <input type="checkbox"/> その他( )			



## 授業改善週間（10月）

### 令和5年度長崎東中学校・長崎東高等学校 第2回授業改善週間

- 1 目的 探究的手法を意識した「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践・研究することによって生徒の主体性・学習意欲を涵養すると共に教師の授業力を高める。
- 2 期間 令和5年10月10日（火）～10月20日（金）  
※10月20日（金）は、「WWL 長崎東授業研究会」を実施する。
- 3 テーマ 「各教科における探究的授業」  
課題 「生徒の創造的思考力を高めるための探究的授業の実践」  
～生徒の視野を広げ、自ら学ぶことの面白さに気づかせよう～  
問い ※教科ごとに設定
- 4 内容 (1) 中・高全学年を通じて、この期間を相互授業参観週間とする。  
①10日～19日の間に1時間以上の授業を参観する。  
②この期間に公開できる授業を、各自図書・研修部が用意するカレンダーに書き込む。  
(2) 20日（金）は、「WWL 長崎東授業研究会」を実施する。（詳細は別紙）  
(3) 授業見学後は、感想・意見を「授業参観記録シート」に記入し、授業担当者と図書・研修部に提出する。（中央テーブルに提出用の箱とチェック用の職員名簿を用意する。）
- 5 備考 (1) 「WWL 長崎東授業研究会」に向けての前段階と位置づけ、各教科のワーキンググループを中心とした教科会での協議等をヒントにした授業にチャレンジする。  
(2) 「探究」という言葉に過度に縛られるのではなく、「主体的・対話的で深い学び」の授業に取り組むという視点でもよい。

### 令和5年度 WWL長崎東授業研究会 実施要項

- 1 日時 令和5年10月20日（金）9：00～16：20
- 2 日程・内容等 ※【配信】はオンライン配信を実施

時 間	内 容 <場所>				
8:30～ 9:00	受付 <玄関>		※8:40～9:30 1限授業 (特別時間割)		
9:00～ 9:30	開会式・オリエンテーション【配信】 1. 校長挨拶 2. 趣旨説明 3. ベネッセから <視聴覚教室>				
9:40～10:30	公開授業①	高1 英語 福田教諭 <高1-1教室>	高2 数学【配信】 宮本教諭 <社会科教室>		
10:40～11:30	公開授業②	高1 情報【配信】 下田教諭 <高1-3教室>	高3 日本史【配信】 鳥居教諭 <社会科教室>		
11:40～12:30	公開授業③	高1 情報【配信】 下田教諭 <高1-3教室>	高2 生物 横山教諭 <高2-4教室>	高2 国語 浜田教諭 <高2-7教室>	
12:30～13:30	昼休み		※12:30～12:40 SHR 生徒放課		
13:30～14:20	授業研究①	情報【配信】 <高1-3>	高1 英語【配信】 <高1-4>	数学【配信】 <高1-5>	社・歴公【配信】 <社会科>
14:30～15:20	授業研究②		中3 英語【配信】 <高1-4>	理科【配信】 <高1-5>	国語【配信】 <社会科>
15:30～16:20	全体会【配信】 1. 各教科から授業研究の報告 2. ベネッセから 3. 閉会の挨拶 <視聴覚教室>				

WWL 長崎東授業研究会

～長崎東中学校・高校×ベネッセ九州支社共同企画 第2弾～

アンケート集約

(株)ベネッセコーポレーション 九州支社

## 長崎県立長崎東中学校・高等学校 様

この度は、当研究会にお力添えをいただき誠にありがとうございました。

以下、当日ご参加いただいた先生方からの感想（事後アンケートより）をおまとめしております。

### 【ご参加された行事】

開会式・オリエンテーション	18名
公開授業(高1 英語)	10名
公開授業(高2 数学)	9名
公開授業(高1 情報)	6名
公開授業(高3 日本史)	8名
公開授業(中3 英語)	9名
公開授業(高2 生物)	5名
公開授業(高2 国語)	8名
授業研究(情報)	2名
授業研究(高1 英語)	6名
授業研究(数学)	6名
授業研究(社・歴公)	2名
授業研究(中3 英語)	6名
授業研究(理科)	2名
授業研究(国語)	3名
全体会	15名

### 【今回の研修を通して、今後に活かせると思ったこと】

- 民主主義という抽象的な概念を具体的な事象を通じて、多角的に考察するという具体と抽象を往還する考え方は非常に参考になった。また、連続性や他科目との連動についても参考になった。ある程度知識の定着がないと難しいが、歴史を学ぶ初期段階で身につけさせたい考え方だと感じた。
- 「民主主義」というキーワードから、過去の歴史と結びつけてダイナミックに展開する授業に圧倒される思いでした。ある程度の学習を積んだ段階でしかできない授業ではありますが、振り返りのためのキーワードとして「民主主義」という言葉は使えると感じました。また、生徒さんが自分の考えをテーマに即して話すことが出来るような授業を普段から展開されているのかは、お聴きしたいところです（午後は参加できません、申し訳ありません）。「一つ引っかけたのは、「民主」主義というキーワードを使うということは、民衆が何らかの形で登場しなければいけなかったのかな、という気はします。冠位十二階などはあくまで為政者のレベルの政治権限拡大であり、民衆にまで及んでいない面はあるように感じます。授業中の生の意見を否定することはできないと思いますが、授業を構成する前にもう少し絞り込み

をかけておけば良かったのかもしれませんが。

- アルゴリズムの説明だけでなく、自分たちで考えて作り上げて"いく実習が参考になりました。
- 教科を横断して、生徒に色々な視点を授けることが大事なのだと改めて感じさせて頂きました。あそこまで実践されるのは準備が大変だったと思います。
- 数字の作問は、単元の終わりなどにできると思った。基礎の確認や応用のさせ方が身に付くと思う。
- 探究と授業をどのようにつないでいか、という課題について多くの手がかりを見つけることができた。
- 生物の授業で行っていた実験、やっぱり単に講義型の授業だけでなく、体験を伴う知識の方が身に付き、理解が深まると思った。
- すべての内容がよく構成されておりよかったです。
- 授業の題材や構成、生徒に対する言葉や発問。生徒が試行錯誤する、知識を活用したり組み合わせたり発展させたりする、数値を変えらるとどうなるか、設定を変えらるとどうなるか、逆にするとどうなるかを考えようとする。  
そのような視点と今回の気づきを今後の授業に取り入れていきたいです。
- 探定的な部分や、生徒への問いかけを考えていきたいと感じた。
- 教科指導にすぐにでも取り入れたい方法を教えていただきました。教科への探究の導入は少しの工夫でも道が拓がることを感じた。
- 探究的な授業の形が多様であることに驚かされました。どの生徒もどうにかして自分の考えを引き出そうとしている姿が印象的でした。  
創造的思考力を高めるためには、本時の先生方のような授業の積み重ねが必要なのだろうと感じました。
- ウォームアップから授業の最後のチャイムが鳴るまでどれだけ生徒に英語を話させ、創造力や思考力を高めていくか勉強になりました。  
新課程における様々な指導法を情報交換することができてよかったです。
- 授業ごとの問い(課題)の設定、社会や自分との関連づけ学びの評価と振り返り 特に振り返りのシェア。
- 批判的思考＝なぜ？ 創造的思考＝どうなる？この2つを軸にすることで生徒になにを伝えたいのかを整理しやすくなったと感じました。  
さっそく普通の授業でも意識して取り組みたいです。また下田先生のチャレンジ精神は本当に見習いたいなと思いました。  
私もチャレンジ精神を持って今後、授業に取り組みたいと思います。
- 探究的な視点・アプローチから授業を考えたり構成したことがなかったため、今日見させて頂いた授業はどれも衝撃的であった。  
正直、授業に対する概念が変わり、単なる授業内容をしっかり行う授業ではなく、もっと幅広い考えから授業を構成していこうと思った。
- 教科書の学びからさらに関連するテーマについて調べ、興味を深める→集まった事例を一般化する→分析する→自分ごと化する  
という流れを、自分の授業でも単元の内容を組み立てる上で取り入れようと思いました！
- 「探究」させるために、「探究活動」させたいテーマから逆算して、知識技能を定着させ  
思・表・判を育成することを重視して、授業をプランしていくべきであると気付かされました。
- 問いを比較することで、何を測ろうとしているのかを知るよりよい方法を学ぶことができる。
- 探究の授業、具体的に教科でどう取り組むのか課題でしたが、少し見えてきたと思います。  
本当にありがとうございました。
- ・「具体と抽象の行き来」というキーワードを何度も聞き、心に残りました。自校でも今後、実践しようと思いました。  
・東中・高の先生方はたくさんの学習アプリやソフトを駆使していると感じました。  
私も現状に満足せず、挑戦し続けたいと思います。

**【会全体を通してのご意見・ご感想をお聞かせください。】**

- 他科目の先生方も引き連れて来ればよかったと感じました。  
同教科だけでなく、他教科の研究も見ることができ、非常にためになりました。ありがとうございました。
- 事前に授業の詳細や取り扱い内容を知れたらよりよい。非常に参考になる時間になりました。ありがとうございました。
- 終日の研修会であり、実施していただいた長崎東高校の先生方に感謝しております。
- 分かりやすく非常に勉強になりました。
- 探究的授業や創造的思考力を意識した授業をこれまで実践できていなかったため、  
今回の授業研究会は考えさせられ、参考になり、大変刺激を受けました。ありがとうございました。
- とても意義のある時間だった。
- 3名の先生が1時間を行われたことが最も印象に残りました。本日はお世話になりました。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- 本当に貴重な体験とお勉強をさせていただきました。是非次回も参加させていただきたいなと思います。
- 様々な学びを得られて、日本の教育を全体でより良くしているような印象でとても素晴らしい企画だと思いました。  
ありがとうございました。これから私自身の授業改善につなげていきたいと思います！
- 自分の学校では、校内で授業を見学し合い研修を行うという機会が少ないため、  
今日は授業内容だけでなく学校全体としての取り組み方という面でもとても良い勉強になりました。  
純心でもこういう週間、研修を行える仕組みを作っていきたいです
- とても有意義な1日となりました。運営や授業をしてくださった先生方に感謝申し上げます。  
ありがとうございました。

各教科授業研究会記録

教科・科目（ 英語コミュニケーションⅠ ）

授業者（ 福田 有司 教諭 ）

研究会参加人数（ 21 ）

①授業者より

- ・単元全体の計画・実施状況
- ・本時のねらい

②2班に分かれてグループディスカッション

【グループA】

○複合的な学び（創造的思考力）について

- ・プレゼンテーションで聞いたことを元に思考して議論、議論したことを元に作文
- ・歴史上の人物の人生から学んだことを自分ごとに落とし込む

○英語を話す雰囲気づくりのための warming up の工夫について

○教科横断的な取り組みについて（西陵高の授業研究会の紹介）

○slow learner への対応について

discussion の内容の共有の際に、視覚化(教師が PC で打ち込みスクリーンに表示)してやり、さらにその際表現を簡素化するなどして対応する

○評価方法について

discussion の評価はルーブリックを使用。

【グループB】

○長崎東高での単元・授業計画について

毎回の授業に問いを設定しているのか？共有しているのか？

⇒プリントの共有をしている。また、日常に探究的授業の活動のネタは転がっているので、お互いに情報交換を心がけている。

○思考の具体化について

今回の授業に関して、生徒が「努力する。頑張る。あきらめない」という抽象的な回答をしても、更に発問し、具体化に導く。その際、「考えを英語で表現できない。」と frustration も学びにつながる。

○学習サイクルについて

Input（土台をつくる）⇒楽しく⇒次の学びというサイクルを大切にする。

○生徒の質問力を高めるために

サンプル紹介・その質問の機能を紹介する・話題に対する興味関心を持たせることが大切

各教科授業研究会記録

教科・科目（ 地歴公民・日本史 ）

授業者（ 鳥居 正洋 ）

研究会参加人数（ 12名 ）

〈授業者よりの説明〉

- ・時代を通貫する問の設定（今回の授業であれば「民主主義」）から生徒に考えさせる授業構成を心がけた。
- ・創造的思考力を高めるためには「抽象」と「具体」の間を行き来することが重要。「民主主義」という抽象的な言葉を具体的な歴史事象に落とし込むことができるかどうかを見るために、生徒一人ひとりに民主主義が発展した歴史事象を考えさせる活動を取り入れた。
- ・創造的思考力を育成する過程として「協働性」も重要。各自が考えた民主主義が発展した歴史事象を持ち寄り、グループで自分たちの班の意見としてまとめさせることで協働性を高めることも狙いとした。
- ・一つの歴史事象について連続性を意識して理解していくこともテーマとした。今回の授業では古代から現代までの時代ごとに分けて、民主主義につながった出来事を生徒に挙げさせていくことで、民主主義の発展という事象の連続性を意識させた。
- ・物事を多面的・多角的にとらえる視点を意識させるために、民主主義の発展に繋がった背景を、日本史だけでなく、世界史、地理の視点から TT で説明する過程を取り入れた。

〈参観者からの意見・感想〉

- ・先生と生徒の掛け合いの雰囲気良かった。
- ・民主主義の発展に繋がった出来事を生徒自身に考えさせていたが、予備知識がない学習集団の場合は事例が出てこない危険性もある。選択肢を提示して選ばせるやり方でも良かったのでは。
- ・民主主義の発展の事例で生徒が出した「狩猟生活から稲作社会への変化」は、社会が平等になった契機とも、格差が生まれるようになる契機ともとらえられる。一つの事象を両面からとらえるトレーニングにもなるのではないか。
- ・生徒の発言を授業の中心に据えると、こちらが予想していなかった予想外の答えもたくさん出てくる。それが探究授業の面白さであり、それをうまく生かして授業を展開していけるのかは教員の技量次第。
- ・今回は生徒が発表した後で、先生が用意していた歴史事象を提示し、そこから授業を展開していったが、生徒が挙げてきた事例から次の展開に繋げていってもよかったのではないか。
- ・今回は日本史、世界史、地理の3科目で TT をしていたが、国語では美術の先生との TT で授業を行うこともある。授業内容によっては教科の枠を超えた TT を行うのも効果的な学びを創出できるのではないか。
- ・これまでは「知識」と「思考」を切り離して生徒に身に付けさせようとしていたが、「知識」だけを覚えさせる一方通行の教え方ではダメな時代になってきている。授業の中で生徒に「思考」させ、「知識」を身に付けていく過程を体得させていった方が、結果的に知識の定着度も上がることを実感している。教えすぎない授業のあり方を考えていくことが今後は必要。

各教科授業研究会記録

教科・科目 ( 数学 )

授業者 ( 宮本 悟 先生 )

研究会参加人数 ( 18 名 )

(1) 授業内容・構成・展開

作問者の視座を  
待子

国際科文系選抜科目「数学探究」(9名)

数学の作問を通して「問題を理解する」ことを重視

構成: 3人×3グループに合わせ、それぞれ与えられた問題を  
展開 改題(アレンジ)し、それぞれグループ内で解き合う。  
意見交換する。その後、改めて作問を行う。

☆ 創造的思考力を育む --- イメージが難しい。

「教員が『よい授業』が望ましい。

・ 授業中の生徒の変容 --- 感じたこと

- ・ 作問の際、数値の設定が難しい。うまく作問が出来なかった理由をグループで共有していた。その際に能力を感じた。
- ・ 他クラスの情報を共有していたのが良かった。

・ 課題・質問

- ・ 苦手な生徒にどう作問させるか → 条件を与えたり誘導する。
- ・ 作問した問題の活用 → 他クラスの生徒に解かせよう。

・ その他

- ・ 図表を与えて作問させたことかある(物理) --- 基礎力、応用力が温かかった。
- ・ 授業に有用なアプリの情報交換。

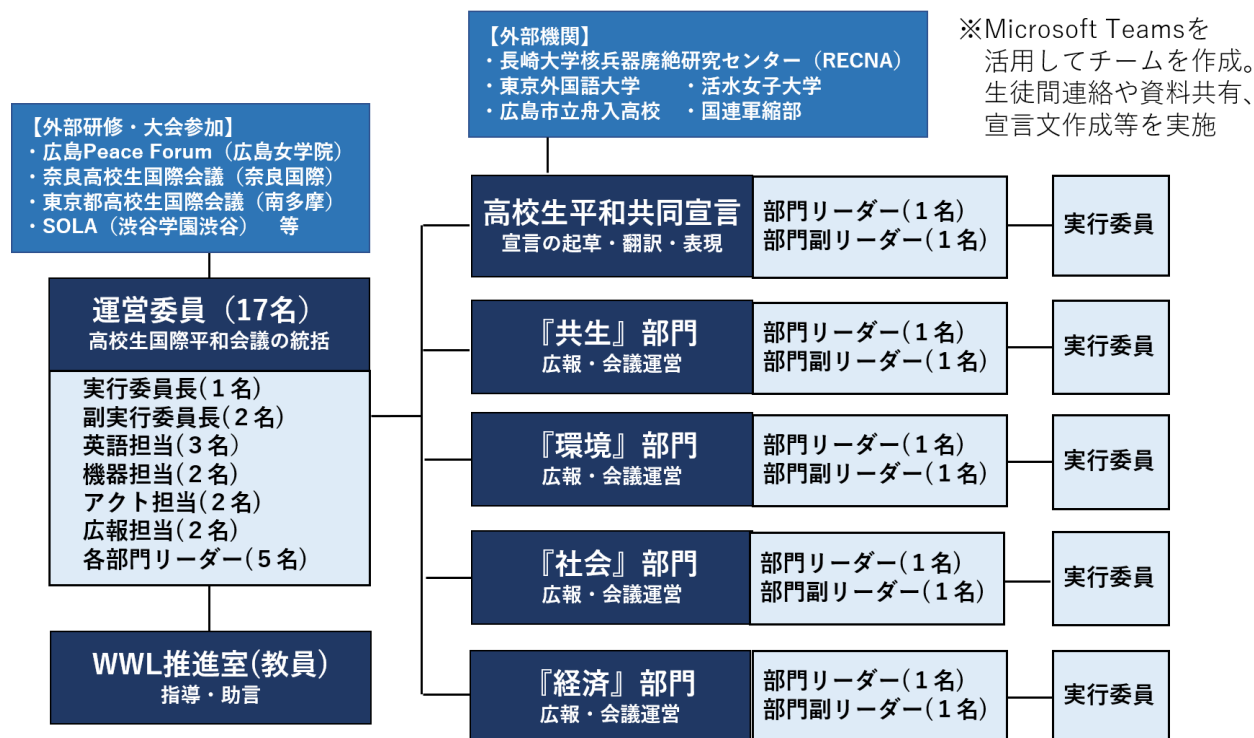


### 第3章 高校生国際平和会議

#### (1) 内容と運営組織

7月28日に開催した「高校生国際平和会議」には拠点校の他に海外6校・1機関13名、国内13校37名の生徒が参加し、拠点校生徒や教育関係者等を合わせると1000名を超える大規模な大会となった。冒頭、国連事務次長の中満泉氏より寄せられた英語によるビデオメッセージの視聴と、NPO法人Red Wood Japan 信吉正治氏による基調講演が行われた。合同平和フィールドワーク、パネルディスカッション形式の会議、連携校の舟入高校と協働作成した「高校生平和共同宣言」を実施した。共同宣言文書は国連公用語を含む10言語（英語、フランス語、中国語、アラビア語、ロシア語、スペイン語、オランダ語、ウクライナ語、韓国語、日本語）で作成し、拠点校HP上でも公開している。また、国連軍縮部HPでも平和教材として活用できるように公開を依頼中である。

高校2年生と3年生による生徒実行委員130名が主体となり、国際会議の企画・準備・運営にあたった。「共生」「環境」「社会」「経済」の4部門会議を、それぞれ日本語の部と英語の部に分け、合計8本の会議を実施することができた。運営組織図を以下に掲載する。



#### (2) 課題

国際会議に参加した生徒と生徒実行委員から、「国際会議は代表者によるパネルディスカッション形式の会議であったため、一般生徒は会議に参加するというよりは、視聴する部分が多かった。すべての生徒が参加（発言）できる会議へ発展させたい。」という要望があった。このため、9/15に「高校生国際平和会議 PART II」を全校生徒を対象に実施した。

### (3) 他の拠点校等が開催する国際会議への参加

連携校である広島女学院高校が主催した「広島 Peace Forum 2023」と、米国ミドルベリー国際大学院大学のジェームズ・マーティン不拡散研究センターが主催する CIF (クリティカル・イシューズ・フォーラム) に、6名の生徒と3名の教員が参加した。詳細は次に掲載する。

期日	主催・名称 (開催地)	参加人数
4/16	ミドルベリー国際大学院ジェームズマーティン不拡散研究センター CIF「クリティカル・イシューズ・フォーラム」(オンライン)	高3 (3) 高2 (1)
8/7	広島女学院高校 広島 Peace Forum 2023 (広島市)	高2 (2)

令和5年度 WWL 高校生国際平和会議プログラム

	内容	
9:00	開場、受付開始 1F エントランス	
9:30	【大ホール】開会式 (9:30-9:50) :校長挨拶、管理機関挨拶、実行委員長挨拶、中満泉国連事務次長ビデオメッセージ	
9:55	【大ホール】基調講演 (9:55-10:45) NPO 法人 Red Wood Japan 信吉正治氏	
11:00 ~ 12:50	<b>高校生国際平和会議</b>	
	<b>【大ホール】</b>	<b>【国際会議場】</b>
	①『経済』日本語部門 11:00-11:50 テーマ:「ディーセントワークの推進:誰もが働く喜びを実感できる社会に」 長崎東、諫早商業、三島北、関西創価、六甲 ②『環境』英語部門 12:00-12:50 テーマ:「持続可能な環境」 長崎東、Visser't Hooft Lyceum (蘭)、University Laboratory School (米)、培元 (中)、洪山 (中)	①『社会』日本語部門 11:00-11:50 テーマ:「ジェンダー平等の実現:すべての女性が幸福になる社会に」 長崎東、大村、南多摩、三島北、奈良国際 ②『社会』英語部門 12:00-12:50 テーマ:「多様性ある社会」 長崎東、Visser't Hooft Lyceum (蘭) NPO Beautiful World (ウクライナ) 上海外大附 (中)、培元 (中)
12:50	昼食休憩 (12:50-13:50)	
13:50 ~ 15:40	<b>高校生国際平和会議</b>	
	<b>【大ホール】</b>	<b>【国際会議場】</b>
	①『共生』英語部門 13:50-14:40 テーマ:「異文化共生の推進」 長崎東、広島舟入、ULS (米)、NPO Beautiful World (ウクライナ)、Rajini (タイ) ②『共生』日本語部門 14:50-15:40 テーマ:「核の廃絶:世界平和の実現へ」 長崎東、長崎南、舟入、尚学、関西創価	①『経済』英語部門 13:50-14:40 テーマ:「『働くこと』の意味」 長崎東、創成館、関西創価、上海外大附 (中)、洪山 (中) ②『環境』日本語部門 14:50-15:40 テーマ:「地球温暖化の防止:温室効果ガス排出量ゼロへ」 長崎東、南多摩、奈良国際、追手門、六甲
15:55	【大ホール】高校生平和共同宣言 (15:55-16:15)	
16:15	【大ホール】閉会式 (16:15-16:25): 来賓講評、実行副委員長挨拶	

【参加校】

国外: University Laboratory School (ハワイ)、Visser't Hooft Lyceum (オランダ)、上海市甘泉外国語中学、浙江省洪山中学、福建省培元中学 (中国)、Rajini school (タイ)、NPO 法人 Beautiful World (ウクライナ)  
 長崎県外: 東京都立南多摩中等教育学校 (東京・都立)、静岡県立三島北高等学校 (静岡・県立)、奈良県立国際高等学校 (奈良・県立)、追手門学院大手前高等学校 (大阪・私立)、関西創価高等学校 (大阪・私立)、六甲学院高等学校 (兵庫・私立)、広島市立舟入高等学校 (広島・市立)、沖縄尚学高等学校 (沖縄・私立)  
 長崎県内: 創成館高等学校 (私立)、長崎県立諫早商業高等学校 (県立)、長崎県立大村高等学校 (県立)、長崎県立長崎南高等学校 (県立)、長崎県立長崎東高等学校 (県立)

令和5年度「WWL高校生国際平和会議」に係る  
生徒交流会ならびに合同平和フィールドワーク 実施要項


長崎県教育委員会／長崎県立長崎東高等学校

- 1 開催日時 令和5年7月27日（木） 9：30～16：30
- 2 主催 長崎県教育委員会／長崎県立長崎東高等学校
- 3 会場 生徒交流会：長崎東高等学校 会議室、※部活動見学：書道室、弓道場  
合同平和フィールドワーク：平和公園、原爆資料館
- 4 目的 国際会議参加者生徒との交流会や合同平和フィールドワークを通して、友好を深めるとともに  
平和への見識を深める。
- 5 参加校・参加機関 国外3校・機関、長崎県外7校、長崎県内5校 計40名程度  
国外：University Laboratory School（ハワイ）、Visser't Hooft Lyceum（オランダ）、  
NPO 法人 Beautiful World（ウクライナ）  
長崎県外：東京都立南多摩中等教育学校（東京・都立）、静岡県立三島北高等学校（静岡・県立）、  
奈良県立国際高等学校（奈良・県立）、追手門学院大手前高等学校（大阪・私立）、  
関西創価高等学校（大阪・私立）、六甲学院高等学校（兵庫・私立）、  
広島市立舟入高等学校（広島・市立）  
長崎県内：創成館高等学校（私立）、長崎県立諫早商業高等学校（県立）、長崎県立大村高等学校（県立）、  
長崎県立長崎南高等学校（県立）、長崎県立長崎東高等学校（県立）

6 日 程

時間	内容
9:30	国外参加者来校、会議室待機
9:45	国外参加者 歓迎行事（会議室） ①実行委員挨拶（3分） ②学校紹介（10分） ③学校見学・部活動体験（30分程度）：書道室、弓道場 終了後、会議室へ戻る
10:30	国内参加者来校、会議室待機
10:45	生徒交流会（会議室） ①実行委員挨拶（3分） ②アイスブレイク：自己紹介（10分） ③レクレーション・クイズ大会（20分程度） ④午後の連絡
11:45	昼食 ※参加者自費（1,000円徴収）
13:00	学校出発 学校準備のバス等で移動
13:30	合同平和フィールドワーク ①平和公園、記念撮影 ②原爆資料館見学 ※ガイドによる説明（日本語、英語） ③資料館内会議室で対話会 ④明日の連絡
16:30	資料館で解散、電停まで誘導





High School students from Japan and  
abroad will discuss global social issues in  
English and Japanese, opening  
perspectives on the future of society.

2023

# WWL International Peace Conference for High School Students

## Outside Japan:

University Laboratory School (Hawaii, USA)  
Visser' t Hooft Lyceum (the Netherlands)  
Shanghai Ganquan Foreign Languages Middle School (China)  
Hongshan Middle School (Shanghai, China)  
Peiyuan Middle School (Fujian, China)  
Rajini School (Thailand)  
NPO Beautiful World (Ukraine)

## Other Prefectures:

Minamitama (Tokyo)  
Mishima Kita (Shizuoka)  
Kokusai (Nara)  
Otemon Gakuin (Osaka)  
Kansai Souka (Osaka)  
Rokko Gakuin (Hyogo)  
Funairi(Hiroshima)  
Okinawa Shogaku (Okinawa)

## Nagasaki Prefecture:

Sohseikan  
Isahaya Commercial  
Omura  
Nagasaki Minami  
Nagasaki Higashi

Date : July 28, 2023 (Friday) 9:30am - 4:25pm (JST)

Place: Nagasaki Brick Hall

(2-38 Mori-machi, Nagasaki City, Nagasaki Prefecture, JAPAN)

Host: Nagasaki Higashi High School / Nagasaki Prefectural Board of Education

Contact us :

Nagasaki Prefectural Board of Education e-mail: [amiyazaki@pref.nagasaki.lg.jp](mailto:amiyazaki@pref.nagasaki.lg.jp) TEL:095-894-3355

Nagasaki Higashi High School e-mail: [tori6949@news.ed.jp](mailto:tori6949@news.ed.jp) TEL:095-821-4642

Illustrated by Koharu Hamamoto



### 国際会議参加校との交流会 in English

本校が主催する「高校生国際平和会議」の前日、7月27日（木）に参加校との交流会を実施しました。国外からは、University Laboratory School（ハワイ）、Visser't Hooft Lyceum（オランダ）、NPO 法人 Beautiful World（ウクライナ）、県外からは、三島北高等学校（静岡）、国際高等学校（奈良）、追手門学院大手前高等学校（大阪）、関西創価高等学校（大阪）、六甲学院高等学校（兵庫）、県内からは、創成館高等学校、諫早商業高等学校、大村高等学校、長崎南高等学校、長崎東高等学校の計12校・1機関、約50名が参加しました。国外の高校生は書道体験や弓道の実演に感激していました。



会議本番に向け、オンラインで練習を行ってきた会議参加者たちが初めて対面で会うこととなり、みな感激していました。改めて自己紹介をしたあと、アイスブレイクを行い、実行委員が企画したクイズ大会で大変盛り上がりました。長崎をテーマにしたクイズで、景品は名物のカステラとよりよりです。その後昼食をともにし、生徒たちは英語をとおして友情を深めていました。



### 合同平和フィールドワーク

交流会後、平和公園へ移動し、広島市立舟入高校と東京都立南多摩中等教育学校を加えた約70名で平和フィールドワークを実施しました。本校高2生が平和記念像について英語で説明しました。「右手は原爆、左手は平和を意味し、顔の表情は犠牲者への祈り、原爆に対する怒り、悲しみ、平和への決意ともとれる。観る人によって、様々なとらえ方ができます」との説明に、みな聴



き入っていました。爆心地公園と原爆資料館では、平和案内人を務めるガイドさんから原爆の実態について説明を受けました。涙を流す生徒もおり、核兵器の非人道性と被害の凄惨さを学びました。その後、会議室で今回のフィールドワークの感想を話し合いました。原爆被害の凄惨さについて初めて触れ衝撃を受けた県外生徒も多く、改めて平和への想いを共有しまし

た。特にウクライナの高校生は、避難民としての立場から、避難前の状況や、現在のロシアのウクライナ侵攻について、心に共振するところがあり、日本の高校生と共に、平和への強い決意を新たにしていました。最後に、「私にとって世界平和とは何か。そしてそれを達成するためにどんな行動をするか。」をテーマに、班ごとに協議を行いました。各々が素晴らしい意見を発表していました。関西創価高校の生徒からは、「いま、私は本当に勉強したい。世界平和を達成するためには、知識や教養が絶対に必要で、それが礎になる。そしてそれと同じかそれ以上に、人間力を高める必要がある。今回の学びも、みんなとの対話も、そのための一つだと思う」との言葉がありました。世界平和へ向け、参加者全員で協働し、対話的で深い学びを実現する、最良の機会となりました。



### WWL 高校生国際平和会議

7月28日（金）ブリックホールにて、本校主催による「WWL 高校生国際平和会議」を開催しました。国内外の高校生が長崎に集い、SDGsを基盤とした世界課題についてパネルディスカッションを行うとともに、高校生が多言語で作成した「高校生平和共同宣言」の発表を行いました。

参加校は、国外からは、University Laboratory School（ハワイ）、Visser't Hooft Lyceum（オランダ）、NPO 法人 Beautiful World（ウクライナ）、上海市甘泉外国語中学、浙江省洪山中学、福建省培元中学（中国）、Rajini School（タイ）、長崎県外からは、南多摩中等教育学校（東京）、三島北高等学校（静岡）、国際高等学校（奈良）、追手門学院大手前高等学校（大阪）、関西創価高等学校（大阪）、六甲学院高等学校（兵庫）、舟入高等学校（広島）、沖縄尚学高等学校（沖縄）、長崎県内からは、創成館高等学校、諫早商業高等学校、大村高等学校、長崎南高等学校、長崎東高等学校の計19校、1機関です。参観者が1000名を超える大規模な国際会議となりました。

SDGsを軸に、「共生」「環境」「社会」「経済」の4部門に会議を編成し、「英語の部」と「日本語の部」でそれぞれ実施しました。核の廃絶、人種差別の撤廃、温室効果ガス削減、ジェンダー平等の実現、ディーセントワークの推進などについて協議しました。

会議出場者（パネリスト）全員がこれまで培ってきた知識と論理性を存分に発揮し、会場からの質問や意見も止むことがありませんでした。パネリストがテーマについての「問い」を提供し、それについて会場全体とともに思考し、表現する、まさに探究的な会議内容となり、参加したすべての生徒が成長する、最良の機会となりました。

「高校生平和共同宣言」の発表では、1年半、長崎東高校と広島市立舟入高校が協働し、様々な協働機関と連携して創り上げた多言語の宣言文を、生徒たちが心を込めて英語で発表しました。会場は感動の拍手に包まれました。

また、国連事務次長中満泉様の激励のメッセージや、国際医療団体NPO 法人 Red Wood Japan 理事の信吉正治様の基調講演が行われ、高度で深い学びについて拝聴する大変貴重な機会となりました。本校WWL 事業海外交流アドバイザーの溝田勉氏からも「国際社会に貢献できる専門性を培うための先進的なカリキュラム開発と優れたプログラム」とご講評をいただきました。

本会議は、長崎東高3、高2の実行委員約130名が準備段階から当日まで、企画や運営を中心となり実施しました。「高校生」国際平和会議の名称にふさわしい主体性ある会議となりました。





## 高校生国際平和会議PART II を実施しました！

9月15日（金）、「高校生国際平和会議PART II」を高校全学年で実施しました。7月末に行われた「高校生国際平和会議」では代表者によるパネルディスカッションが行われましたが、今回の会議は高校全学年、全クラスの生徒を対象に実施しました。高3の会議運営を担うリーダーたちが企画し、今回実施の運びとなりました。

高校1年生は、「①何を失ったら平和でなくなるのか ②それを失わないために取り組むべきこと/平和な世の中にするためにできること」というテーマに沿って協議しました。失うと平和な世界が損なわれてしまうものを、幅広い観点から考え、付箋に書き、班で共有しました。その後、意見をクラス内で発表し合いました。

高校2年生は、「Too much (1)+Too little (2)=conflicts（訳：過剰な(1)+不足した(2)=対立）、To increase (3)+To decrease (4)=Peace（訳：(3)を増やす+(4)を減らす=平和）」という英文を用いて、何が対立を生むのか、何が平和をもたらすのかを考えて空欄に当てはまる言葉を埋め、意見をまとめました。

高校3年生は、「多様性をどこまで認めるか」というテーマに沿って学習しました。「戸籍上 31歳の男性は自身を 15歳の女性と自認しており、女子サッカークラブに加入することを許可された。それ以降、10代の女性とともに活動し、更衣室やシャワールームも共有している。しかし、公式戦に出場したことはまだない。」という実際の事例において、多様性を認めた場合のメリットとデメリットを各班で話しあい、該当人物の公式戦出場を認めるべきか認めるべきではないかについて、クラス内でディベートを行いました。

内容・進行・企画すべてを実行委員が行い、生徒主体の取組として充実した時間となりました。対話の重要性を改めて認識しました。（高2実行委員 青木日向葵）

【各学年の協議内容の集約】〈高1〉※第27号に続く

組	①何を失ったら平和でなくなるのか（抜粋）	②それを失わないために取り組むべきこと/平和な世の中にするためにできること
1	愛・思考力・選択肢・秩序・青春・当たり前・医療・植物	偏見を持たず差別をしない 戦争の経験を語り継いでいく
2	多様性・夢・理性・福祉の機能・平穏・恋・治安の良さ・幸福	歴史から学ぶこと 隣の人を笑顔にする
3	道徳心・人権・笑顔・資源・自由・推し・良心・食料	世の中のことを知る 相手の立場に立って考える
4	希望・家族・正直な心・動物・健康・資源・挨拶・言葉	良好な人間関係を築く 自分の好きなことをする
5	食料・自然・教育・大事な人・笑顔・思いやり・趣味・理性	環境にやさしくする コミュニケーションを積極的にとる
6	優しさ・思いやり・多様性・秩序・個性・当たり前・千人千色・資源	自分から笑顔を発信する 普段から素直に相手を褒める
7	人と人の繋がり・親孝行・食料・多様性・協調性・幸せ・友人	簡単に水を使える(飲める)装置作り 日々のありがたみを感じる





## 国際フォーラム（CIF）でアメリカの高校生と討論しました！

4月16日（日）に、橋本果林さん（高 3-2）、小林ひよりさん（高 3-3）、溝口理子さん（高 3-7）、安野美乃里さん（高 2-2）の4名が、米国ミドルベリー国際大学院モントレイ校ジェームズ・マーティン不拡散研究所主催の CIF（クリティカル・イシューズ・フォーラム）にオンラインで参加しました。

アメリカからは6校 62名、日本からは5校（本校のWWL 連携校である広島女学院をはじめ、開成、創価、関西創価）21名の高校生が参加しました。軍縮問題に関する国連事務総長諮問委員を務めたニューヨーク州立大学上級研究員の Dr. Togzhan Kassenova の基調講演では、カザフスタンにおける旧ソ連による核実験の影響と思われる先天異常や成長障害の実態が紹介されました。「こうしたあまり知られていない核の悲劇を、国や世代を越えて多くの若者が知ることは意義深いことです」とのコメントに賛同しました。代表5名によるパネルディスカッションには小林さんが参加し、「文化や価値観が違ってても、核兵器廃絶に向けた強い思いは変わらない。若い世代が引き継いでいくことの重要性について言及されることが多いが、戦争被害を受けた方がそれを本当に望んでいることがわかった」と語ってくれました。参加者からは、「平和構築のためには、無関心が一番いけない。知識がないと平和につながらない。まずは知る機会に参加することが大切。そうした機会を提供する側で自分も活躍したい」などのメッセージがありました。

4名は外務省のユース非核特使として参加し、主催者から個人と学校に「優秀賞」と「修了証」をいただきました。



Middlebury Institute of  
International Studies at Monterey  
James Martin Center for Nonproliferation Studies



## CRITICAL ISSUES FORUM 2023 SPRING STUDENT CONFERENCE

APRIL 15, 2023, 4:00 - 6:30 PM PDT,



Bringing Intersectional Approaches to Youth Education

Keynote Speaker:  
Dr. Togzhan Kassenova  
Author of Atomic Steppe

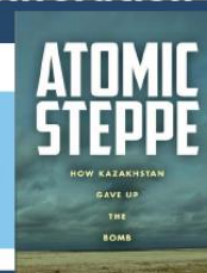


Photo credit: <https://www.togzhankassenova.com/>



## 広島平和フィールドワークを実施しました！

8月6日（日）～8日（火）、高2国際会議実行委員の梶村瑛さんと光山あやめさんが、広島で平和フィールドワークを実施しました。

6日（日）は、本校の協働校である広島市立舟入高等学校の演劇部生徒による、平和・原爆をテーマとした演劇を鑑賞した後、被爆者の実話に基づいた絵本『さいごのあさごはん』の英語朗読を聴き見識を高めました。

7日（月）は、同じく本校協働校の広島女学院高等学校主催の「広島 PeaceForum2023」に参加しました。本年度は核と環境に関する基調講演を聴いた後、国内外の高校生と同テーマに関するワークショップを行い、会場全体へプレゼンテーションを行う構成でした。2人のワークショップでのテーマは「核燃料について」。梶村さんは日本語の部、光山さんは英語の部に参加し、議論を通して、リーダーシップと協働性を高めることができました。

8日（火）は、協働校である広島市立舟入高等学校の生徒と、広島原爆遺構をめぐるフィールドワークを行いました。広島平和記念資料館や舟入高校の前身である広島市立高等女学校の原爆慰霊碑を訪れ、舟入高校内の原爆に関する資料を見学しました。

広島での3日間のフィールドワークを通して、2人は学びを深め、平和への想いを新たにしました。生徒の感想です。

「広島PeaceForumへの参加を通して、他県の人との平和への意識のギャップを感じました。長崎、広島で生まれ育った人は定期的に戦争を知る機会があるので、知識があるように感じましたが、その他の県の人には知る機会が少ないという意見があったので、今まで平和教育を受けてきた私達が伝えていかなければならないと感じました。そして自分の土地で起こった事だけでなく、他の国や地域で過去に起こった戦争や、今起きている紛争などについてももっと知っていくべきだと思いました。」（高2-3 梶村 瑛）

「同年代の広島の人と直接会話をすることでより知識を深めることができたフィールドワークだったと思います。1日目の平和に関する劇の参観では紛争と原爆の違いについて高校生の視点から考えることができました。広島PeaceForumでは核燃料と環境について広島や広島以外の高校生とディスカッションをしました。『環境』というテーマはこれまでの私たちの核兵器廃絶へのアプローチとは違ってとても新鮮な気持ちでディスカッションできたと、自分の視野を更に広げることができました。IAEA（国際原子力機関）では原子力発電を容認している側面を踏まえ、核燃料と環境というテーマはこれからの国際会議運営の指針としても大事な視点になるのではないかと思います。ここまで詳しく核について協議する機会は今まで無かったので、本当に貴重な経験ができたと思います。また、長崎に生まれた高校生として、原爆の知識は一般常識として身につける必要があると感じました。」（高2-7 光山 あやめ）

生徒たちは大きく成長を果たせたようです。



↑ Peace Forumのワークショップの様子



↑ 舟入高校の生徒と広島平和記念資料館を見学

## 第4章 評価（目標の進捗状況、成果・検証）

### （1）生徒の変容

#### ①民間テスト・自己評価

SGH 指定時（H27～R1）からの変容を分析するために、H28 から同一の民間テスト（ベネッセコーポレーションが実施している批判的・協働的・創造的思考力を測る GPS-Academic（Global Proficiency Skills）テスト）を用いている。

※H28～R1 は SGH 指定時、R2 は WWL カリキュラム開発拠点校指定（予算措置なし）

R3～R5 は WWL 拠点校指定（予算措置あり）

※GPS テストは高1・高2とも12月に受検し、A評価が「高校卒業レベル」に相当する。

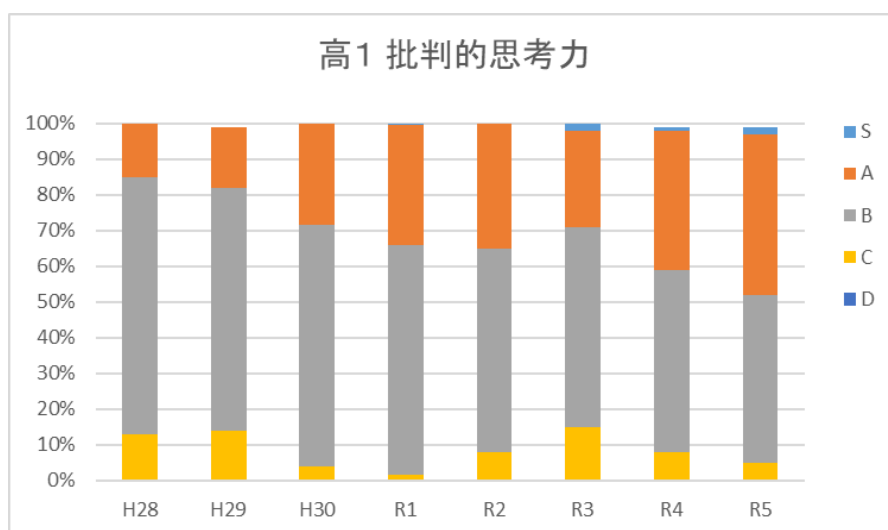
#### 【高1】

高1								
批判的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	0%	0%	0%	0%	0%	2%	1%	2%
A	15%	17%	28%	34%	35%	27%	39%	45%
B	72%	68%	68%	64%	57%	56%	51%	47%
C	13%	14%	4%	2%	8%	15%	8%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

論理的に組み立てて表現する

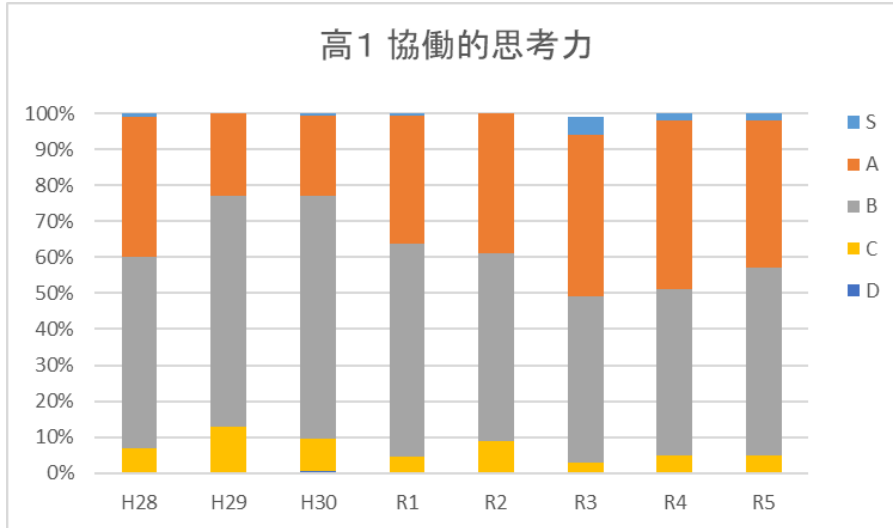


「批判的思考力」においては、SGH 指定時には0%であったS評価がR3年度より少数ではあるが、表れていることは評価できる。また、SとA評価の合算が47%と8年間で最高の数値である。批判的思考力の評価は、「情報を抽出し吟味する力」や「論理的に組み立てて表現する力」が基準となっており、次項（p.73）の全国との比較でも高いことが示されている。また、C評価の割合もR3年度の15%からR4年度は8%、本年度は5%と減少していることも評価できる。授業や探究学習での調査活動や発表活動の成果と推察する。

高1								
協働的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	1%	1%	0%	0%	0%	5%	2%	2%
A	39%	23%	23%	36%	39%	45%	47%	41%
B	53%	64%	68%	60%	52%	46%	46%	52%
C	7%	13%	9%	4%	9%	3%	5%	5%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する  
社会に参画し人と関わりあう

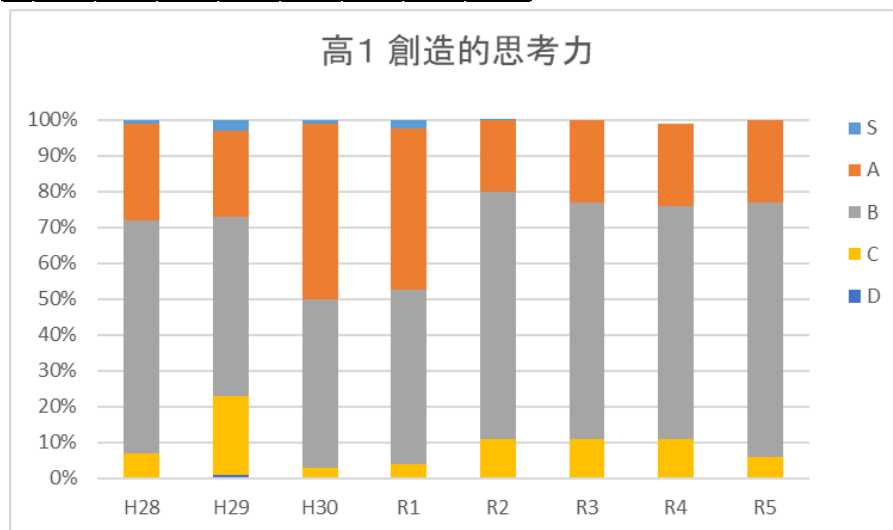


「協働的思考力」は、SGH 指定時 (H28～R1) と比較すると、S 評価・A 評価ともに WWL 指定時の方が高い傾向がみられる。このことは、グループによる探究学習を推進し、これまで 300 を超える外部機関とフィールドワーク等の連携を実施したことによるものと考察する。また、生徒の探究テーマに「ジェンダー」「LGBTQ+」「異文化理解」「高齢者」「障がい者」に関するものが増えてきており、中間発表会や探究発表会でこれらのテーマに関する発表を参観する中で、他者への共感的態度が醸成されていることも一因として考えられる。

高1								
創造的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	1%	3%	1%	2%	1%	0%	0%	0%
A	27%	24%	49%	45%	20%	23%	23%	23%
B	65%	50%	47%	49%	69%	66%	65%	71%
C	7%	22%	3%	4%	11%	11%	11%	6%
D	0%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する  
問題をみだし解決策を生み出す





「創造的思考力」では、SGH 指定時の4・5年目であるH30とR1のA評価と比較すると、R2～R5は20%以上低下している。この結果は、コロナ禍によるペアワークやグループ活動が全ての教育活動で大きく制限されてきたことに起因していると考えられる。R5年度のC評価の割合(6%)は、R2～R4年度の割合(11%)と比較するとほぼ半減していることは評価できる。次年度は、情報を関連づけて類推する力や、問題をみだし解決策を生み出す力の育成に向けてさらに授業改善を図りたい。

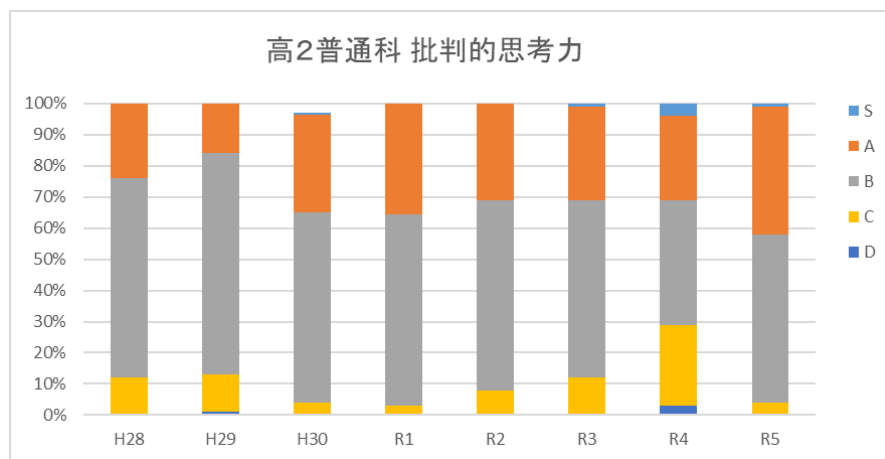
## 【高2 普通科】

高2 普通科								
批判的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	0%	0%	1%	0%	0%	1%	4%	1%
A	24%	16%	32%	35%	31%	30%	27%	41%
B	64%	71%	61%	61%	61%	57%	40%	54%
C	12%	12%	4%	3%	8%	12%	26%	4%
D	0%	1%	0%	0%	0%	0%	3%	0%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

論理的に組み立てて表現する

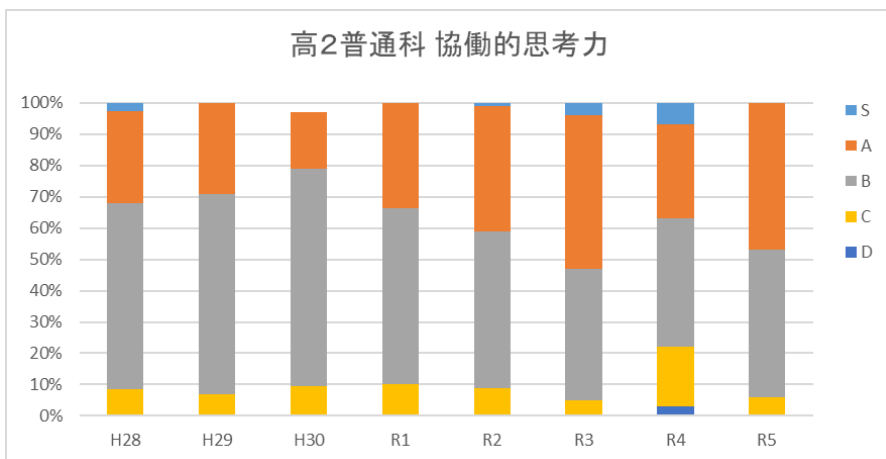


高校2年生は普通科・国際科ともに1年次より始まった新しい学習指導要領の下、新しく運用したカリキュラムで学んでいる。また、R3年度より週35単位から週33単位に減じ、週2時間は学年裁量で探究学習や興味関心のある教科・科目を深く学んだり、復習することができる「主体的な学びの時間 (E-Time)」として活用している。R3年度以前は、普通科の生徒と国際科の生徒はそれぞれで探究班を編成する傾向があったが、昨年度より普通科と国際科の生徒が混在した班編成が多くみられ、探究学習にも文理融合の視点が反映されている。上記の「批判的思考力」の表からは、S評価とA評価の合算が42%であり、過去7年間と比較すると大きな有為差が見られる。また、C評価の割合も少なくなっており改善が見られる。

高2 普通科								
協働的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	3%	0%	0%	0%	1%	4%	7%	0%
A	29%	29%	18%	34%	40%	49%	30%	47%
B	59%	64%	70%	56%	50%	42%	41%	47%
C	9%	7%	9%	10%	9%	5%	19%	6%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%

協働的思考力：

他者との共通点・違いを理解する  
社会に参画し人と関わりあう

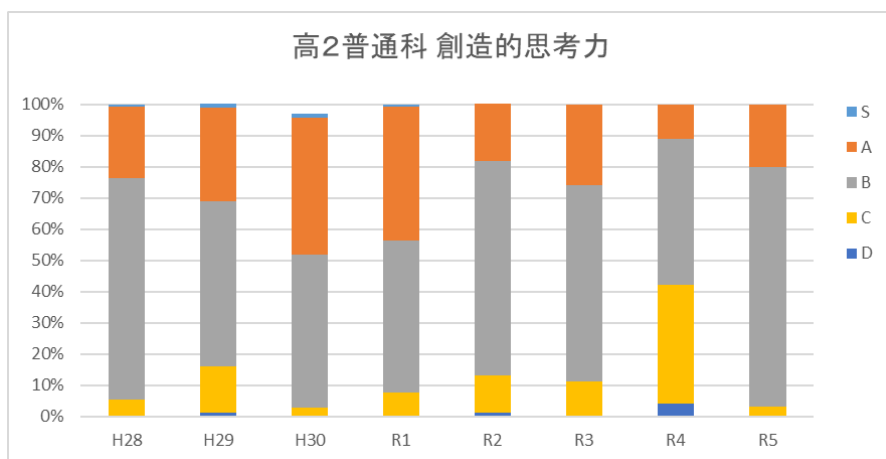


次に、「協働的思考力」について分析すると、SGH 指定時よりも直近4年間のS評価とA評価の割合が高いことがわかる。このことは高校1年生と同様に、探究活動において300を越える多様な外部機関と連携し、インタビューやアンケート調査などを実施したことが要因として考えられる。

高2 普通科								
創造的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	1%	2%	1%	1%	0%	0%	0%	0%
A	23%	30%	44%	43%	19%	26%	11%	20%
B	71%	53%	49%	49%	69%	63%	47%	77%
C	5%	15%	3%	8%	12%	11%	38%	3%
D	0%	1%	0%	0%	1%	0%	4%	0%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する  
問題をみだし解決策を生み出す



「創造的思考力」については、C評価の割合(3%)が直近4年と比較してかなり減少していることが評価できる。昨年度の課題から、「創造的思考力」の向上を目的に全教科で公開授業や授業研究を実施してきた。特に、ベネッセコーポレーションとの共催により、「生徒の創造的思考力を高めるた

めの探究的授業の実践」をテーマに、「WWL長崎東授業研究会」を10月に開催（詳細は第2章（3）③「授業改善」参照）した。こうした取組により、昨年度よりも改善できたと考える。課題としては、GPSテストの結果から、「情報に関連づける・類推する」力がやや弱いというデータが出ているため、複数の資料を比較分析し、因果関係を類推するような取組が必要であろう。

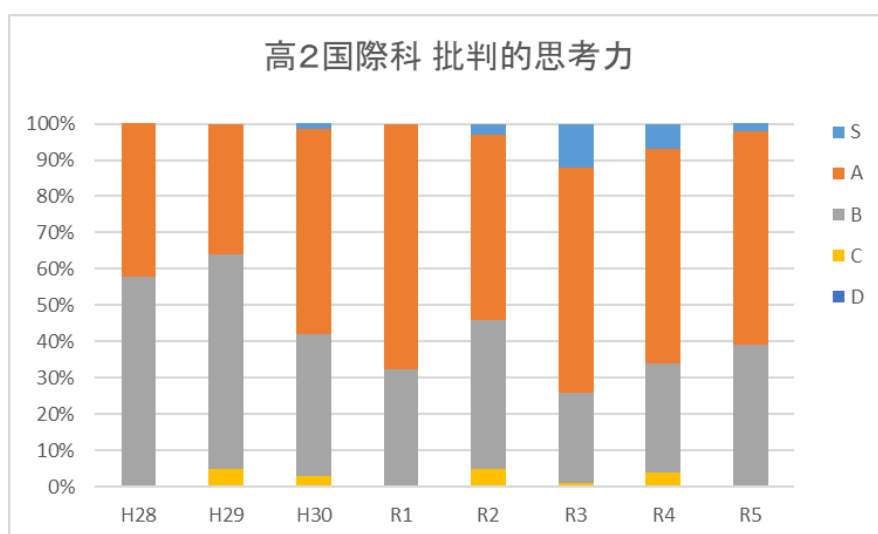
## 【高2国際科】

高2 国際								
批判的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	0%	0%	3%	0%	3%	12%	7%	3%
A	43%	36%	57%	68%	51%	62%	59%	59%
B	58%	59%	39%	32%	41%	25%	30%	39%
C	0%	5%	3%	0%	5%	1%	4%	0%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

批判的思考力：

情報を抽出し吟味する

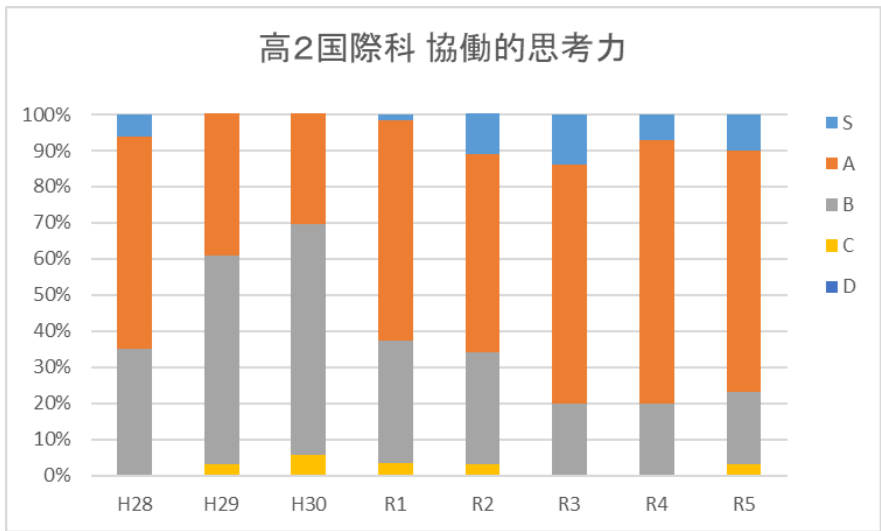
論理的に組み立てて表現する



高校2年国際科2クラスの「批判的思考力」のS評価やA評価の割合は、過年度と比較して大きな有意差は見られない。普通科と比較してS評価やA評価の割合が高い傾向にあるが、このことは国際科に特徴的なカリキュラムとして、2つの学校設定科目「サイエンス特論」と「時事英語」があり、実験・考察、文献調査・レポート・模擬国連演習などの学習活動が展開されていることが要因の一つと考察する。

高2 国際								
協働的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	6%	0%	0%	2%	12%	14%	7%	10%
A	59%	40%	32%	61%	55%	66%	73%	67%
B	35%	58%	64%	34%	31%	20%	20%	20%
C	0%	3%	6%	3%	3%	0%	0%	3%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

協働的思考力：  
 他者との共通点・違いを理解する  
 社会に参画し人と関わりあう



「協働的思考力」のS評価とA評価の割合は、直近3年間（80%, 80%, 77%）が特に高いことが示されている。また、BやC評価の割合もH28～R2と比べると減少している。要因の一つとして、R2年度からSDGsを軸とした探究学習を推進したことや、社会課題に対して文理を融合した複数の視点から班員と協力して調査活動を実施したことが挙げられる。また、従来よりも官公庁・企業・NPO法人との連携が増えてきたことによって、「協働的思考力」の評価項目のひとつである「社会に参画し人と関わりあう」態度が涵養されているのではと考える。

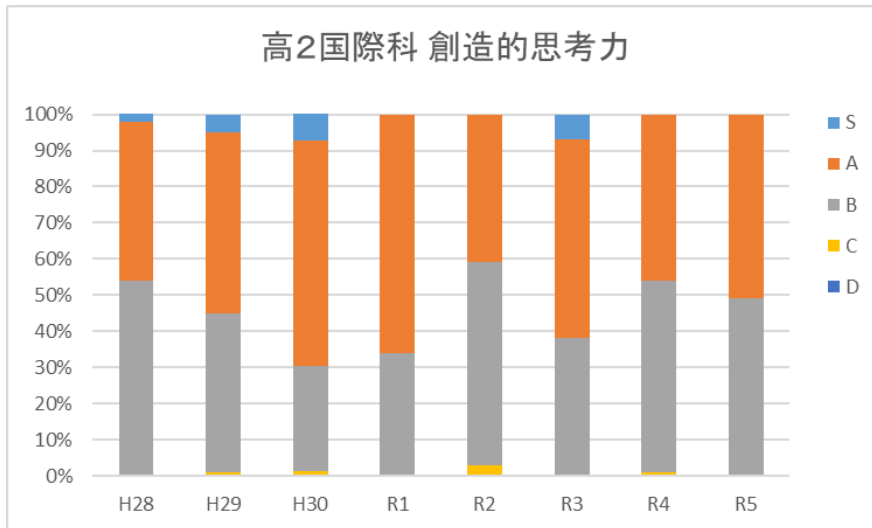


高2 国際								
創造的思考力								
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
S	3%	5%	9%	0%	0%	7%	0%	0%
A	44%	50%	62%	66%	41%	55%	46%	51%
B	54%	44%	29%	34%	56%	38%	53%	49%
C	0%	1%	1%	0%	3%	0%	1%	0%
D	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

創造的思考力：

情報を関連づける・類推する

問題をみだし解決策を生み出す



「創造的思考力」におけるA評価以上の割合は、本年度は51%であり、昨年度（46%）よりもやや改善が見られた。普通科と同様に、校種・教科を越えて全教員を対象として実施した授業改善への取り組みが一因であろう。「情報を関連づける・類推する」活動や「問題をみだし解決策を生み出す」ような取り組みを、今後も探究学習や教科学習において継続していきたい。

### 【全国集計との比較】

次にGPSテストの全国集計（高1～高3の合算）と本校の高校1年生を比較する。

※黒塗の評価（S）は0%ではなく、評価（S）自体が存在しないことを示す

#### 全国（高1～高3）

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.8%	4.0%		1.5%	3.9%		0.3%	1.2%	
A	35.8%	23.5%	32.1%	38.8%	32.1%	22.1%	23.2%	16.9%	13.7%
B	50.7%	35.8%	52.5%	50.5%	32.8%	63.1%	65.7%	42.9%	73.2%
C	11.6%	30.6%	14.8%	9.2%	28.2%	14.1%	10.7%	33.7%	12.5%
D	0.2%	6.2%	0.6%	0.1%	3.1%	0.7%	0.1%	5.4%	0.5%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

長崎東 高1

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参加し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.9%	3.5%		1.9%	5.4%		0.0%	1.2%	
A	45.2%	30.1%	42.1%	40.9%	30.1%	27.8%	22.8%	13.5%	14.7%
B	47.1%	35.5%	48.6%	51.7%	36.3%	62.2%	71.0%	41.7%	76.8%
C	5.4%	28.2%	8.9%	5.4%	26.6%	9.7%	6.2%	41.7%	8.5%
D	0.4%	2.7%	0.4%	0.0%	1.5%	0.4%	0.0%	1.9%	0.0%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

S評価とA評価を合算すると、9つの項目のうち6項目で全国集計よりも高い数値である。特に、「論理的に組み立てて表現する」力におけるA評価の割合は42.1%（全国集計32.1%）であり、高い数値を示した。全国集計は、高校1年生から高校3年生までの合算であることから、本校の高校1年生は3つの思考力が高いことがわかる。

長崎東 高2

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参加し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	1.7%	5.6%		3.9%	6.7%		0.0%	0.6%	
A	48.0%	30.2%	45.3%	54.7%	39.7%	40.8%	32.4%	21.8%	20.7%
B	48.0%	38.0%	47.5%	36.3%	29.6%	52.5%	65.9%	51.4%	76.5%
C	2.2%	24.0%	7.3%	5.0%	22.3%	6.7%	1.7%	25.7%	2.8%
D	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

次に、高校2年生の結果を全国集計と比較すると、すべての項目でA評価以上の割合が高いことがわかる。「国語探究」「数学探究」「英語探究」「サイエンス特論」「中国語」など幅広く学べる新しい教育課程の下、GPSテストで測定されるグローバル人材に求められる思考力が身につけてきたことが考察できる。

課題は3つの項目でC評価以下の割合が高いことである。「情報を抽出し吟味する（26.2%）」、「他者との共通点・違いを理解する（24.0%）」、「情報を関連づける・類推する（26.3%）」ことが苦手な生徒が約1/4を占めていることが示されている。今後さらに教育研究を図りたい。

	批判的思考力			協働的思考力			創造的思考力		
	総合評価	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	総合評価	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	総合評価	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	0.8%	5.2%		2.0%	6.4%		0.0%	0.4%	
A	39.4%	29.3%	20.5%	47.4%	30.9%	36.5%	23.3%	14.9%	16.9%
B	51.4%	36.1%	66.7%	45.8%	40.2%	59.0%	65.5%	41.0%	69.5%
C	8.4%	24.9%	12.9%	4.8%	19.3%	4.4%	11.2%	39.0%	13.7%
D	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

上表（R4 結果）を参考に、経年による比較分析（昨年高1次の受検結果からの変容）からも、すべての評価項目において、1年前よりもA評価以上の割合が伸びていることがわかる。特に、批判的思考力の「論理的に組み立てて表現する力」（A評価 20.5%→45.3%）が大幅に伸びている。探究学習や授業での発表活動による成果と推論する。

※参考資料：ベネッセコーポレーションによるCAN DO（ルーブリック）

評価	批判的思考力		協働的思考力		創造的思考力	
	情報を抽出し吟味する	論理的に組み立てて表現する	他者との共通点・違いを理解する	社会に参画し人と関わりあう	情報を関連づける・類推する	問題をみだし解決策を生み出す
S	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて自ら必要な資料を探し出し、情報を取り出すことができる</li> <li>情報の成り立ち・背景を踏まえて、内容の正しさを判断できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識(教養)と資料の情報とを組み合わせ、説得力と納得感のある主張(結論)とその根拠を提示できる</li> <li>効果的な工夫された表現を用いて、主張とその根拠とをつなぐ説明ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化圏における信念や価値観の違いを客観的に理解し、常にそれらを尊重できる</li> <li>相互のアイデアを共有し、違いを認めつつアイデアを交差して建設的に合意形成できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の範囲を超えて、身近なことから地球規模にまで視野を行き来させることができる</li> <li>問題解決の主体者として、他者と刺激を与えあいアイデアを交差させながら解決策を検討できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識(教養)と資料とを組み合わせ、問題を特定し、複数の解決策を提案・比較検討したうえで、最善の解決策を選択できる</li> <li>情報の成り立ち・背景も踏まえて問題を一般化し、他の事例に適切に応用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の範囲を超えて、問題を構造化して解決すべき課題を設定し、効果的で実現可能性が高い解決策を提案できる</li> <li>解決策が問題の背景や経緯も踏まえて一般化し、他の事例に適切に応用することができる</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された資料から、目的に応じて情報を取り出すことができる</li> <li>情報の正しさを、客観的に評価できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の情報の範囲内で、適切な主張(結論)やその根拠を提示できる</li> <li>主張とその根拠とを結びつけた、論理的な説明ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化圏における信念や価値観の違いを理解し、必要な場面でそれらを尊重できる</li> <li>相互のアイデアを共有し、違いを認めながら、一定の条件下で合意形成できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料全体に目を配り、必要に応じて身近なことから地球規模にまで視野を行き来させることができる</li> <li>問題の解決に主体的に参画し、他者とアイデアを出し合いながら解決策を検討できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとに、問題を特定し、複数の解決策を比較検討したうえで、よりよい解決策を選択できる</li> <li>問題を一般化し、他の事例の解決に応用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の本質を的確にとらえ、解決すべき課題を設定し、解決の条件をすべて満たした解決策を提案できる</li> <li>解決策を一般化し、他の事例への応用を検討することができる</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>何らかの指示に従って情報を取り出すことができる</li> <li>情報を分類したり区別したりして、評価できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の情報の範囲内で、適切な主張(結論)や根拠を提示できる</li> <li>主張とその根拠とを結びつけた説明ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化圏における信念や価値観の違いを把握し、自分なりの観点で尊重できる</li> <li>相互のアイデアを共有し、違いを確認することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の問題について、身近なこととの共通点に目を向けることができる</li> <li>問題解決の実行者を支援する立場で、他者とともに解決策を検討できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件にそって、よいと思う解決策を選択できる</li> <li>提示された事例と他の事例との関連性を指摘できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の枠組みを把握し、解決のための条件を満たした解決策を提案できる</li> <li>解決策の構造を把握し、その実効性を検討できる</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導に従って、情報を取り出したり、評価したりすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何らかの主張(結論)や根拠を提示できる</li> <li>不明確ながらも、主張とその根拠とを結びつけようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化圏には異なる信念や価値観があることを知っており、指導に従ってそれを尊重できる</li> <li>指導に従って、相互にアイデアを共有できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の問題について、その解決の必要性や、他者と協働することの必要性を理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導に従って、何らかの解決策を選択したり、他の事例との関連性を理解したりすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の構成要素を把握し、解決のための条件を一部満たした解決策を提案できる</li> <li>解決策の要素を部分的に取り出し、その実効性を検討することができる</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの観点で、情報を取り出したり、評価したりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無解答または評価外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化圏には異なる信念や価値観が存在することを理解できる</li> <li>相互にアイデアを共有することの必要性を理解できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無解答または評価外</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの観点で、何らかの解決策を選択したり、関連性をみだしたりすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無解答または評価外</li> </ul>

## 【WWL 7に係る生徒の変容】

次に WWL 事業で新たに設定した 7つの資質・能力、マインドセット（WWL 7）に関する生徒の自己評価結果について検証する。拠点校ではルーブリックを独自に開発しているが、運営指導委員の助言を受け、より生徒の自己評価が的確に反映されるよう文言や評価段階数を毎年改定してきた。ここでは、新カリキュラムによる教育活動を経験してきた、高1と高2に焦点を当てて記載する。

参考「WWL7」： ①課題発見・解決力 ②創造力 ③情報分析・活用力 ④自己表現力  
⑤協働性 ⑥学ぶ意欲 ⑦地球市民性

①	課題発見・解決力			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	1%	5%	12%	16%
A	42%	60%	61%	66%
B	51%	31%	26%	17%
C	6%	4%	1%	1%

②	創造力			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	4%	7%	11%	15%
A	45%	47%	55%	61%
B	43%	43%	33%	21%
C	7%	4%	2%	2%

③	情報分析・活用力			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	3%	8%	13%	23%
A	41%	50%	59%	53%
B	48%	37%	26%	23%
C	8%	5%	2%	1%

④	自己表現力			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	8%	12%	16%	18%
A	40%	51%	54%	54%
B	42%	31%	27%	25%
C	10%	6%	3%	3%

⑤	協働性			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	14%	25%	32%	34%
A	43%	47%	49%	51%
B	36%	24%	17%	14%
C	7%	4%	2%	1%

⑥	学ぶ意欲			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	9%	11%	25%	30%
A	45%	47%	53%	49%
B	37%	34%	21%	18%
C	9%	8%	1%	3%

⑦	地球市民性			
	高1		高2	
	6月	12月	6月	12月
S	7%	12%	23%	27%
A	39%	48%	53%	51%
B	44%	33%	22%	21%
C	10%	7%	2%	1%

ベネッセコーポレーションの GPS テストで評価が高かった「協働的思考力」について、WWL⑤「協働性」との高い相関がみられる。SおよびA評価の割合（12月）が、高1は72%、高2は85%と高い自己評価を示した。WWL④の「自己表現力」におけるSおよびA評価に関して、高1と高2はそれぞれ63%、72%であり、GPSテストでの高い数値と相関がみられることから、生徒のメタ認知が適切であることもうかがえる。

ベネッセコーポレーションの GPS テストでの結果では、「情報を抽出し吟味する力」や「論理的に組み立てて表現する力」が基準となる批判的思考力の評価が8年間で最も高い数値が出ていたが、自己評価ルーブリックにおいても、「情報分析・活用力」のS評価とA評価の割合が高1・高2ともに上昇している。探究的な学びを深めるための授業実践や、探究活動における文献調査やデータ分析などの取組により、上昇がみられたものと評価できる。

また、GPS テスト全国集計と比較してS評価やA評価の割合が高かった「論理的に組み立てて表現する力」についても、WWL④「自己表現力」との相関がみられる。高校1年生12月の自己評価Sの割合（12%）は、資質・能力に関する評価項目 WWL①～④のうちで最も高い。また、6月時と比較してA評価以上の割合が15%（48%→63%）上昇している。WWLプログラムでの発表活動や英語科の「論理表現I」をはじめとする各教科での自己表現活動による成果と考える。

総じて、高校1年生、高校2年生ともに自己評価が半年で伸長し、民間検査（GPS）結果での高い評価といくつかの有意な相関項目が見られたことは、WWLプログラムが有益な教育効果をもたらしたことのエビデンスであり、拠点校独自のルーブリック指標が適切であったと考察する。

## 【英語 4 技能に係る評価】

グローバル人材に求められるスキルの一部として、ベネッセコーポレーションが実施する英語 4 技能検定「GTEC」を SGH 指定時より受検している。GTEC の満点スコアが 2019 年度より変更になったため、2019 年度（SGH 5 年次）からの変容を次表に示している。なお、本年度高校 2 年生の結果は、海外修学旅行により受検できなかったため記載していない。

### ■高 1（12 月受検）



新課程 2 年目となった今年度も Reading と Listening の 2 技能において、5 年間の中で昨年度に引き続き高いスコアを示した。現カリキュラムは 2019 年度よりも週単位数が 1 単位減少しているものの、Total スコアでは 2019 年度を上回り、過去 5 年間で 3 番目となっている。Reading や Listening における受信的な基礎項目が高いレベルで定着していることから、次年度は Writing や Speaking の発信型技能の育成を統合的に授業に組み込み、4 技能のバランスの良い育成を図りたい。

■高3（8月受検）



高校3年生は特に Reading と Listening において高校2年次のスコアより伸長し、Total スコアは過去5年間で2番目の結果である。昨年度（高校2年次）は4技能 Total で顕著な伸びがみられたため、ベネッセコーポレーションから表彰を受けた。今年度は新たに「トリオディスカッション」の手法を取り入れ、「やりとり」した内容を Writing 活動に発展させる活動と評価を開発した。特に Writing では CEFR-J の B2 レベルが 22 名（高校2年次は0名、前年度生は7名）と伸長した。

ここ3年間で実用英語技能検定、TOEFL、IELTS を受検する生徒が毎年10名を超えるようになり、B2以上の評価を得る生徒はGTECと合わせると、ここ2年間は15名以上とSGH指定時と比較しても増加している。

英語4技能各種検定結果（GTEC、英検、TOEFL、IELTSなど）

CEFR	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
B2	6	2.3	1	0.4	9	3.6	21	8.9	15	6
B1	60	23.3	71	27.5	97	38.6	101	43	128	51.6
A2	190	73.9	183	70.9	144	57.4	113	48.1	104	41.9
A1	1	0.4	3	1.2	1	0.4	0	0	1	0.4
B1以上	66	25.7	72	27.9	106	42.2	122	51.9	143	57.7
	2019		2020		2021		2022		2023	



構想計画書に記載したアウトカムは CEFR B 1 以上の割合が 70%である。目標には届いていないものの、過去 4 年間 (25.7%、27.9%、42.2%、51.9%) と比較すると、57.7%と上昇している。前ページの表は高 3 の 10 月時点の結果であり、担当英語科教員 3 名の所感ではあるが、卒業時に英検 2 級程度 (B 1 以上) の英語力を有する生徒は、約 85%と推定している。

## (2) 教員の変容

事業評価委員からの助言により、教員による自己評価の分析を実施した。以下は中・高教員による自己評価のうち、WWL 事業に関連する項目を抜粋した。

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和6年1月17日

令和5年度学校評価に係る職員アンケートまとめ (中高全体75名)

番号	※回答選択肢 項目 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	私の教科は、教科指導における中高の連携がとれている。	77.3	78.9	87.1	79.4	71.8
2	私は、授業でICT機器を(効果的に)活用している。	78.4	88.2	84.3	93.7	90.1
3	私は、授業改善や指導力の向上に努めている。	98.6	97.4	97.1	95.2	97.2
4	私は、授業公開・授業参観をともに年1回以上行っている。	92.0	88.2	80.0	87.3	87.1
5	「ひがし」は、学校全体として授業改善や指導力の向上に取り組んでいる。	97.6	96.1	95.8	100.0	97.3
6	「ひがし」は、高大連携の取組を推進している。	94.0	96.1	95.7	97.0	95.8
7	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	97.6	98.7	95.7	97.0	93.2
8	「ひがし」は、WWL(R1以前はSGH)の取組が充実している。	96.4	92.1	95.7	95.5	94.6
9	「ひがし」は、高校国際科の充実に努めている。	98.8	96.1	94.2	97.0	86.3
10	「ひがし」は、学校行事で生徒のリーダーシップとフォロワーシップが育まれている。	98.8	98.7	94.4	98.5	97.3
11	「ひがし」は、日頃から生徒の自主的・自律的な活動を支援している。	92.9	92.1	91.5	95.6	94.7
12	私は、校務の効率化に努めている。	90.5	94.7	93.0	89.9	88.0

WWL 事業と特に関わりが深い 6～10 の項目のうち項目 9 を除いて、90%以上の職員が肯定的な回答を示した。項目 9 に関しては、国際科と普通科の生徒が探究学習において同じ研究班を構成したり、普通科の生徒もグローバルな視点で探究を行うなど、国際科・普通科に関わらず等しく文理融合的なグローバル探究ができていることの現れととらえている。一方、国際科独自の教育研修の機会や授業内容については今後の検討課題としたい。

項目 1 については例年より低い数値であった。少人数授業や多彩な選択科目のために、各教科で中高教員が全員参加できる教科会を時間割上設定することが難しくなっていることが一因である。しかしながら、中高および教科の枠を越えた公開授業や授業研究を毎年 2 回設定しており、今後も随時内容を検討していきたい。

全般的には R1～R4 年度と同様に高い評価が得られており、SGH 事業を継承しつつ WWL 事業への

学校組織としての取組が効果的に機能していると判断する。

### (3) 学校評価

前項と同様に、中高保護者と生徒を対象に、学校評価に係るアンケート調査を実施した。以下 WWL 事業と関連する項目を抜粋した。

#### ■中高保護者による「学校評価」の抜粋(表1)

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和6年1月17日  
令和4年度学校評価に係る保護者アンケートまとめ【中高全体】 回答率:80.5%

番号	項目 ※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	94.6	93.2	94.5	91.9	<b>92.4</b>
2	「ひがし」は、生徒の社会的自立を支援している。	93.3	92.7	93.9	92.6	<b>92.7</b>
3	「ひがし」は、国際社会で活躍できる人材の育成に努めている。	95.7	92.6	92.3	91.5	<b>91.4</b>
4	私は、「立山の風」やHP、メールメイト等での「ひがし」からの情報提供に満足している。	91.8	90.2	89.8	88.3	<b>89.7</b>

#### ■中高生徒による「学校評価」の抜粋(表2)

長崎東中学校・長崎東高等学校 令和6年1月17日  
令和5年度学校評価に係る生徒アンケートまとめ【中高全体】 回答率:89.7%

番号	項目 ※回答選択肢 4:十分あてはまる 3:おおむねあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない	4+3の過年度比較				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	私は、学校の授業や学習指導に満足している。	92.4	94.5	91.4	92.9	<b>90.5</b>
2	私は、校外での研修(フィールドワーク、調査、講演会等)に積極的に参加している。	35.4	33.9	53.0	46.9	<b>50.0</b>
3	私は、海外語学研修や留学を積極的に行った。	34.9	26.4	16.3	16.3	<b>24.2</b>
4	私は、将来グローバルリーダーとして活躍したいと思っている。	47.3	45.4	57.8	49.6	<b>56.5</b>
5	私は環境問題に関心があり、何らかの取組を实践している。	62.5	82.2	87.8	62.7	<b>74.5</b>
6	私はふるさとや地域社会、あるいはSDGs等の課題について考えたりすることを含め、政治や選挙に関心をもって主体的に社会参画を目指している。	54.1	71.4	81.7	70.1	<b>66.8</b>



表1の保護者による評価は、例年と変わらずほぼ90%以上の保護者から依然として高い評価が得られている。特に、項目3の「国際社会で活躍できる人材の育成に努めている」の評価理由は、中2と高1合わせて80名を対象としたカナダ語学研修や、同学年を対象（中2が19名、高1が16名参加）とした国内語学研修の再開、高校2年生全員を対象としたシンガポール・マレーシア修学旅行の再開、およびベトナム・ニューヨーク・ハワイ・オランダへのフィールドワークを実施したことが要因の一つと考える。また、WWLプログラムにおける国際会議の開催や、SDGsを視点にしたグローバル課題の解決に向けたカリキュラム開発が評価されていると考察する。

表2の生徒による評価では、例年とほぼ同様の結果であった。特に、項目3の数値を高められるような新たなプログラム開発を検討したい。

#### (4) 運営指導委員会・事業検証委員会

運営指導委員会（2回）と事業検証委員会（2回）を開催した。以下、議事録を掲載する。

##### 令和5年度 WWL 第1回運営指導委員会 議事録

1 目的 長崎東中学校・高等学校におけるWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。

2 期日 令和5年8月25日（金） 15:00～16:30

3 場所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 会議室  
〒850-0007 長崎市立山5-13-1 TEL 095-821-4642

#### 4 各委員等

##### ○運営指導委員

長崎大学 副学長（入試・地域教育連携担当）	中村 典生
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内 秀樹
株式会社子育ての家 代表取締役	小川 勇人（オンライン）
熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授	川越 明日香（欠席）
長崎県教育センター 総務企画部長	立木 英邦

##### ○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授	志水 俊広
---------------------	-------

##### ○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐	山下 龍（欠席）
------------------------	----------

##### ○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表	溝田 勉
------------------------	------

##### ○長崎県WWL管理機関

長崎県教育委員会高校教育課 参事	川原 智司
------------------	-------

同	指導主事	宮崎 明子
○長崎東中学校・高等学校		
校長		立木 貴文
高校副校長		川口 由美子
中学校副校長		田嶋 修
高校教頭		久保田 幸成 (欠席)
WWL 推進室長		鳥居 正洋
WWL 推進室長補佐 (高)		一ノ瀬 憲二
WWL 推進室 (中)		岡 雅子

## 5 内 容

15:00～16:30 運営指導委員会

- (1) 管理機関あいさつ
- (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (3) WWL 高校生国際平和会議
- (4) 次年度の計画等について (管理機関、長崎東中学校・高等学校)
- (5) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (6) 諸連絡

## 6 出席者からの意見等

### ①高校生国際平和会議について

- ・拠点校の先生が会議の運営や準備に生徒につきっきりでよく指導され、管理機関も事前準備から寄り添っていただいた。全体として画期的な工夫があり成果が上がった。文科省にも報告しておきたい。
- ・平和宣言も国連公用語に加えて、韓国語やウクライナ語などにも翻訳し充実していた。SDGs や人間の安全保障への言及もあるとよい。
- ・生徒主体の会議であるため、先生方がどこまで口を出していいかで悩まれ大変だったと思う。生徒が力を発揮する場所を与えられ、その場所でよく育った。生徒たちの成長に感動した。
- ・信吉正治先生のアフリカでの医療活動に関する基調講演もすばらしかった。日本でも応用できるイノベーションで、生徒も感動して聞いていた。「未来は君たちのものだ」というメッセージがよく伝わった。
- ・高校生のレベルで深い学びの下で議論がなされていた。現状の課題を分析し、高校生の感覚で解決策について議論していた。世界の生徒と英語で対話できたのは、高校生の段階ですごいこと。
- ・以前から平和をテーマにするのは難しいのではという危惧があった。放射線によって品種改良されたカドミウム低吸収性品種「あきたこまちR」が良い例で、安全性に関して言葉を尽くして説明しても、「反自然だ」と受け入れられない。論理的な話ではなくイデオロギーの

問題なので、議論にならない。

今回運営してみて、こうした難しさや乗り越えるための手立てはなかったか？

→ 論理性が重要なので、事前に Slack でチームを作り、情報交換や練習をさせた。生徒の中では「合意形成」をすることが結論になっていった。日本語の会議は専門性を目指させた。会議後の生徒（オンライン参加、核問題に精通）の感想に、「核廃絶は非現実的だ」とあったが、会議の在り方としてすべて同様の意見ではなく、こうした意見がでることはむしろ健全である。公平性を担保しつつ、いかに論理的に自分の意見を主張するかを生徒はよく考えていた。

- ・合意形成という考えはよいこと。議論を聞いている世論（ボリュームゾーン）にどのように論理的に説明したらよいかを着地点にしたのはよかった。
- ・生徒のアンケート結果は HP に公開し、多様な生の声からみんなで考えさせたい。知識面だけでなく情緒面も伝わる。
- ・「経済」の会議を参観したが、数年前から指摘している「自分ごと」がなされていないかった。年収 200 万以下のワーキングプアなどについて高校生が壇上で語っていることが非常に気持ち悪かった。パートやアルバイトが含まれているかも不明。そもそも親の収入は、自分ごととして知っているのだろうか。探究の話なのか社会運動の話なのか、どちらにかじを切ろうとしているのかが不明確。会の開催自体は素晴らしいし、一生懸命よくやっているが、論点やインプットが正しいのか。
- ・探究のスパイラルが一回転になっているかもしれない。調べ学習から倫理的、哲学的にと深めさせていく。知識を得て、そこでなぜだろうと考える。倫理的に考えても納得がいく答えが出ず、さらに哲学的に深めていく。例えば、お金以外にしあわせとは何だろうか、そういうところへスパイラルを 3 周くらいさせる。時間的余裕があれば。
- ・どうしても成果を出さないといけないと、結論まで先にもっていかないといけなくなる。少しずつ掘り下げる姿勢が必要。文科省のプログラムで世の中の課題に目を向けようとさせているので、グローバルなエリートという意味ではなく、地に足をつけて身の回りの課題に気づく教育にしてほしい。
- ・生徒にとって平和を自分ごととして考えるのはハードルが高いように思う。平和宣言の中に「世界の人が協力しあうことが大切」というゴールがあるので、「協力しあうためのこと」をテーマにすることもできる。麹町中学校の体育祭のテーマは「参加者全員が楽しむこと」として生徒に企画させ、手ごたえを感じている。国際会議もすべての参加者が毎年手ごたえを感じるような取り組みにして蓄積していくとよい。生徒に任せきって 1 日で生徒の成長が感じられるようなことでもよい。
- ・社会性や協働性が高く、自分の考えをしっかりと伝えたり、他者の意見に耳を傾けるコミュニケーション能力が高い生徒が多い。

## ②本年度の計画について

- ・ベトナムフィールドワークは、長崎大学熱帯医学研究所の拠点や JICA での研修があり、多くの講師から多様な生き方を学ぶことができたのではないかと感じる。

- ・ 次回の運営指導委員会は第2回と第3回を合わせて2月頃に実施したい。  
(理由) 例年第2回運営指導委員会は12月の中間発表後に、第3回は3月の探究発表会後に実施しているが、本年度は学校行事(海外修学旅行)の関係で、例年12月に実施する中間発表会を1月に繰り下げたため。

### ③次年度へ向けて

- ・ 本年度でWWLの予算措置は終了となるが、次年度以降の国際会議はどうなるのか?  
→ 規模や内容を含め管理機関でも継続できないか検討
- ・ 来年の計画に向けて今年度後半は注力してほしい。大きなイベントが終わったからこそ探究のマインドを持った生徒を今後も育成してほしい。予算があるうちにできることを。卒業した生徒がどのように育ってどう生きていくのかを知りたいので、追跡できるシステムをつくらせてほしい。  
→ 東京大学や山口大学では在学時に使用していたメールアドレスを卒業後も使えるサービスを実施。
- ・ 前身のSGH指定時から蓄積された力の育成を財産として維持発展させながら、本県教育における共通財産として県内外へ広げたい。
- ・ 本県出身でニューヨーク在住の方が中心となり、世界中でOne Young World(ヤングダボス18~32歳対象)研修会が20年近く開催されてきた。この研修会の中高生版(One Junior World)もある。知事、市長、商工会議所、青年会議所、長崎大学学長などが参画する「長崎サミット」で当研修会を来年長崎で開催することを支援することが決定。長崎大学を退官された調先生が代表を務める。
- ・ 次年度は予算がつかないが、ないからこそ知恵を絞ってどうすれば開催できるかを考えさせることこそリーダーシップのマインド育成になる。卒業生で人気の高いユーチューバーがいるので、話をしてもらうのもよい。
- ・ 予算措置はなくなるが、これまでWWL事業で培ってきたものを生かしていきたい。県がやることと拠点校がやらなければいけないことを切り離して考えていきたい。これまで10年間教員や生徒が積み上げてきたものを拠点校生徒に還元しながら、県の力も借りて広めていくことを考えたい。

令和5年度 WWL 第2回運営指導委員会 議事録

1 目的 長崎東中学校・高等学校における WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組について、今後の実践研究の在り方等について協議を行う。

2 期日 令和6年2月21日（水） 15:00～16:45

3 場所 長崎県立長崎東中学校・高等学校 会議室  
〒850-0007 長崎市立山 5-13-1 TEL 095-821-4642

4 各委員等

○運営指導委員

長崎大学 理事	中村 典生
山口大学 大学研究推進機構知的財産センター 准教授	陳内 秀樹
株式会社子育ての家 代表取締役	小川 勇人
熊本大学 大学教育統括管理運営機構 准教授	川越 明日香
長崎県教育センター 総務企画部長	立木 英邦

○事業検証委員

九州大学 大学院言語文化研究院 准教授	志水 俊広
---------------------	-------

○カリキュラム・アドバイザー

長崎大学 グローバル連携機構 機構長特別補佐	山下 龍（欠席）
------------------------	----------

○海外交流アドバイザー

長崎大学 名誉教授、元国連・ユニセフ駐日代表	溝田 勉
------------------------	------

○長崎県 WWL 管理機関

長崎県教育委員会 高校教育課 参事	増田 大輔
同 指導主事	宮崎 明子

○長崎東中学校・高等学校

校長	立木 貴文
高校副校長	川口 由美子
中学校副校長	田嶋 修
高校教頭	久保田 幸成
WWL 推進室長	鳥居 正洋
WWL 推進室長補佐（高）	一ノ瀬 憲二
WWL 推進室（中）	岡 雅子

5 内容

15:00～16:45 運営指導委員会（事業検証委員会を兼ねる）

- (1) 管理機関あいさつ
- (2) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ

- (3) 本年度の取組の報告（長崎東中学校・高等学校）
- (4) 事業検証
- (5) その他
- (6) 長崎東中学校・高等学校長あいさつ
- (7) 諸連絡

## 6 出席者からの意見等

### ①今後の探究学習の在り方について

- ・他校もグローバルな探究を展開する中で、長崎東のポジションやビジョン、探究の領域は具体的にどのにあるのか。どのような人材を育成するのか。WWLを維持していく方針なのか。  
→「スクールポリシー」を各学校で定めている。文科省はWWL事業を継続しているが、長崎東への事業委託は終了。「WWL 拠点校」として、SGH 指定時からの 10 年間の様々な研究開発の蓄積は今後も継承していく。
- ・（長崎東で探究の基盤となっている）SDGs の枠を超えたものを考える必要もある。長崎大学は「プラネタリーヘルス」を掲げている。グローバルヘルス、グローバルリスク、グローバルエコロジーの視点を階層的にとらえて貢献できる大学を目指している。長崎東高校や他校の生徒とも一緒に考えていけるとよい。
- ・世界中の多くの人々が長崎を知っているが、廃墟だと思っている人も多い。長崎が持っている「平和」のイメージを発信できる人材を育てていくことも大切。
- ・考えたり、価値判断をするうえで哲学は大切。哲学の授業を導入できないか。  
→探究活動の中で、事象の普遍的価値を問うような実践も有効だと考える

### ②事業検証

- ・探究活動や国際交流部の部活動にも外部から関わっているが、Advanced Learning を超えて Advanced Acting の域に達している。提案的な探究の在り方を生徒へ助言している。SDGs の理念に沿ってグローバルリーダーシップの育成のためのトレーニングとしても探究学習を活用してほしい。
- ・10 年間の積み重ねは大きい。他校よりも「重み」や「濃さ」がある。
- ・非常に大きな成果があるが、何ができなかったか課題も検証してほしい。
- ・「海外で働くなど、仕事で国際的に活躍したい」という自己評価は、他の評価が 90%以上なのに半分程度である。まだ高校生なので仕事に対するイメージが明確ではないので、同窓会の情報を活用しながら追跡調査をするとよい。
- ・現在の「世界の平和と共生に貢献するイノベーティブなグローバル人材の育成」という理念よりも、学校が大切にしているスローガン「ともに良き世を創る人材」にした方がよいのでは。
- ・哲学的マインドの部分よりも、アクションの方を大切にしていると考えている。今後は根っこ（哲学的な部分）も考えてみては。
- ・生徒個人の伸びを先生方はどのように実感しているか。教員の自主研修が始まったのはよいことであるが、今後どう全体に波及していくか。自走期間に入ったら何をどこまでできるか精査

する必要がある。

→学校全体で生徒の探究的な学びを推進していこうという波及の度合いが強まった。職員室で日常的に「生徒の探究をどうしていこうか」という話が聞かれるようになり、それが生徒へも波及している。生徒の自主性や先見性が高まった。国際会議でも海外の生徒をサポートしたり、会議の進行状況を察知して他校生徒へ連絡するなど生徒自らが動いていた。

→どうしても予算の縛りがあるので、一部の生徒のための活動になっている部分もある。しかし、生徒もそれをわかっていて、国際会議に携わった生徒自らが発案して、会議を参観するだけであった生徒全体にも普及したいと考え、国際会議パートⅡを9月に実施した。高校3年生130名が運営委員となり、中3から高3全員で平和について議論することができ、好評だった。探究には使用している語句の定義やなぜそれをするのかといった哲学的な問いが必要なので、高1には「何を失ったら平和にならないのか」「平和とは何か」という議論も生徒が発案して取り組んだ。

・管理機関の課題として県内の連携校との連携があまりできなかったのはなぜか

→それぞれの発表会に参加することはできたが、連携校と協働して何かを企画したり、担当者が一堂に会して集まる場の設定が難しかった。現在、拠点校での成果やノウハウを横展開することを考えている。他校も探究に力を入れているので、一度に集まって発表できる場も考えている。

・ニューヨークの国連へのフィールドワークなど他の学校がうらやましく思うプログラムが蓄積されている。中1から高3までの6年間の探究的学びが体系化され、定着している。批判的思考力にも表れている。これまでの取組を検証し、他校へも還元してほしい。

・協働的思考力に見られるように中央値のボリュームゾーンが上がっているの、日常的な授業のレベルも上がっていると思う。一方、BやC評価の生徒であっても「とがった」人材である可能性もあるので、検証してほしい。どこでつまづいているのかを分析することも重要。

・「グローバル人材として活躍したい(56.5%)」の自己評価は、ローカルで頑張るぞという生徒もいるので、当然低くなる。イノベーション・キープ・グローバル・ローカルのどこに分布しているかを二軸で見るとよい。グローバル人材育成を目標に掲げ教育された結果として、グローバルな視座を得てローカルで頑張るという人材も生まれてよい。それが自然である。生徒個々の目標を絞り込むことなく多様化してほしい。

・生徒の自走化、教員の自走化、体制の自走化、研究事業としての自走化と考えた時、体制の自走化については、外部資金(三菱)を獲得できるようになったということは、今後も外部資金を獲得できる力がついたと謳っていい。研究事業としての自走化として、研究指定へのチャレンジや教育研究は今後も続けてほしい。

・高校の「探究」と大学の「研究」の違いを学部所属の大学教員(学部所属)もわかっていないことが多い。計画・仮説が探究では情報収集に置き換わるので。高1と高2は探究で進めて、高3は大学での研究の流儀に合わせるなどを考えてみては。ただ、大学の研究の流儀が全てではない。イノベーターを育てることに主眼をおけば3年間を通じて、探究の形で進めることもありだろう。生徒の希望によって選択できる幅を持たせてもよい。ただ、探究と研究は似て異なることは生徒に意識付けしておく方がよい。

- ・型にはまらないイノベーターは、かちつとした先生方とは対極にあるので、その育成は難しいのでは。多面的な評価をお願いしたい。
- ・困っている人に声をかける生徒、「自分のやりたいことに全力で取り組める学校だ」と新入生に話をする生徒など、視野の広さや行動力が備わった生徒が多く育ったことが SGH、WWL の最大の成果と考える。

### ③今後の課題と方策

- ・探究のマインドを持った生徒がこの先の人生でどのように育っていったか追跡を実施してほしい。いずれは講師として母校へ帰ってきてほしい。同窓会の情報も活用できる。
- ・生徒は「学習、部活動、行事、探究の4つを頑張る」と言う。探究スキルを他の3つへ応用できるようにして生徒の負担を減らしたい。
- ・SDGs を超えるフレームを考えたい。長崎大学にも協力をいただきたい。
- ・学校の取組や独自性を知らせていく発信力の強化。
- ・生徒も教員も自主研修ができるように、年間10日程度、平日に休日ではない、授業日ではない日を設定したい。

## (5) 成果の普及

SGH 指定時（H27～R 元年度）より英語4技能統合型授業の研究開発を実践しており、これまで毎年研究発表を実施している。本年度の研究発表は以下のとおりである。

期日	講師（教科）	主催・研修会名称	内容・テーマ	形態・参加数
7/22	一ノ瀬憲二 （英語）	（株）ラーンズ 英語研究会	リーディング力の育成	遠隔 （約120名）
8/8	原口敏明 （物理）	第61回九州高等学校理科 教育研究会長崎大会	探究の森の歩き方	対面 （約40名）
8/19	一ノ瀬憲二 （英語）	第48回全国英語教育学会	スピーキング活動の評価	対面 （約60名）
9/22	一ノ瀬憲二 （英語）	長崎県英語教育セミナー	WWL 高校生国際会議に おける英語討論の手法	対面 （約30名）
9/23	福田有司 （英語）	朝日出版社 「CNN セミナー」	4 技能統合型授業	対面・遠隔 （約50名）
3/24	猿渡雄介 （数学）	東京学芸大 先端教育人 材育成推進機構 高校探 究プロジェクト パネリ スト	探究的学びのワークシ ョップ	遠隔 （約50名）

WWL 事業に係る成果普及のための実践発表については、第2章（3）②の項で記載した。



## (6) アウトプット・アウトカム

### 【高度な課題研究から大学進学へ】

本年度特筆すべき評価を得た課題研究は下記3テーマである。いずれも文理を融合した内容で、複数の学問分野の視点でアプローチしたものであり、複数のSDGsに関わる研究であった。また、複数の大学・企業・官公庁・NPO等と連携しており、生徒が主体的に社会課題の解決に向けた探究学習を展開した成果であった。

研究テーマ (学年)	表彰・成果
中赤外線及び機械学習を用いた海中のマイクロプラスチックの高速判定手法の確立 (高2)	九州大学『令和5年度 将来の夢を切り拓く“高大連携”世界に羽ばたく高校生の成果発表会』審査員特別賞
幼児に対するジェンダー教育 (高2)	SDGsクエストみらい甲子園「2023年度SDGsクエストみらい甲子園北部九州エリア大会」アンコンシャスバイアス賞
ボードゲームで猫の殺処分数を減らす (高1)	山口大学知的財産センター主催「全国知財創造実践甲子園」普通科学校・総合高校部門 優秀賞 (2位相当)

課題研究等が評価されて、総合型選抜および学校推薦型選抜による主な国立大学入試の合格一覧を下に記載する。

長崎大学医学部医学科 (1名)
長崎大学教育学部 (2名)
長崎大学医学部保健学科 (3名)
筑波大学人間学類 (1名)
東京外国語大学国際社会学部 (1名)
京都大学工学部理工化学科 (1名)

### 【中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況】

(○実施・完了、△進行中(予定どおり)、一未実施、×未達成、※オンライン実施)

#### 中期的目標(令和5年度末(2023)まで)

指標項目(上段①～④がアウトプット、下段①～④がアウトカム)	達成度・評価
①拠点校生徒が高度な学びに取り組んだ実績を大学の単位として早期認定	○
②拠点校・連携校・協働機関が海外において共同でフィールドワークを実施	○
③拠点校の毎年120名以上が修学旅行以外で海外研修等を行う多様な機会を整備	△ R5年度95名
④拠点校と県内連携校が生徒主体で運営する高校生国際会議の開催	○
①拠点校で課題研究に取り組んだ生徒の資質・能力の向上及び進路目標の明確化	○
②拠点校において海外の大学に進学する生徒数の増加	× R5は0名
③拠点校の高1・2年生の50%以上が、対外的なコンテスト・イベント等に参加	○(100%)
④対外的なコンテスト・イベント等において10グループ以上が上位に入賞	○(29)

※達成度の根拠

#### アウトプット

- ①長崎大学、広島大学
- ②3月にハワイにて現地学生と合同平和フィールドワークを実施
- ③カナダ研修(80名)、ベトナムフィールドワーク(4名)、ハワイフィールドワーク(2名)、ニューヨークフィールドワーク(2名)、オランダフィールドワーク(4名)、モンレー(1名)、個人留学(2名)
- ④高校3年生88名と高校2年生42名で構成する国際会議実行委員会を組織し、小委員会と海外との準備会議を定常的に開催した。本会議にはハワイ、オランダ、中国、ウクライナ、タイから13名が参加した。また本校を卒業した4名の大学生をメンターとして準備会議から参加してもらい、会の運営補助を依頼した。このことは、担当英語科教員の負担を軽減するとともに、会議を持続可能なものとするうえで効果的な取組となった。

#### アウトカム

- ①高校3年生による客観評価・自己評価の向上。
- ③すべての生徒がWWL探究発表会を含め外部大会参加。
- ④上記③のWWL探究発表会を含め外部大会で多数入賞。(次項の主要プログラム・表彰を参照)

#### 長期的目標(令和12年度末(2030)まで)

指標項目(上段①～④がアウトプット、下段①～③がアウトカム)	達成度・評価
①生徒の実績を大学の単位として早期認定する仕組みを連携校にも拡大	○
②拠点校・連携校・協働機関による海外フィールドワークと、WEB会議等によるその事前・事後学習を体系化し、課題研究のモデルを構築	△(長崎大学と連携予定)
③拠点校・県内連携校の毎年300名以上が海外で研修等を行う多様な機会を整備	△
④高校生に加え、大学・行政・企業・NPO等が参加する高校生国際会議の定着化	△(計画中)
①探究活動の成果の一部が政策提言やビジネスモデルとして社会実装される	○

②拠点校・県内連携校において毎年10名以上が海外の大学に進学	△
③令和3年度以降の拠点校、県内連携校の卒業生のうち10名以上が自らNPO、ソーシャルビジネス、グローバルビジネスを展開	×

## 【主要プログラム・表彰】

### (1) 拠点校が生徒へ準備したプログラム

#### ①複数の学年対象

期日	内容・講師	参加人数
5/17	探究ピアサポート (高校3年生による中学3年生と高校1年生への探究アドバイス)	中3 (116) 高1 (281)
5/31	SDGs 講演会・WWL 基調講演会	高1 (281)
6/14	【環境分野】地域循環研究所 豊澤健太氏	高2 (265)
6/28	【社会分野】一般社団法人OBAMA ST. 山東晃大氏 【経済分野】長崎大学経済学部 山口純哉氏 【国際分野】JICA長崎 小田智子氏	
7/7	長崎大学外国人留学生(大学院生)による感染症出張講義	中3 (7) 高1 (33) 高2 (10)
7/28	高校生国際平和会議 基調講演(アフリカでの医療活動) NPO法人Red Wood Japan 代表 信吉正治氏 高校生国際平和会議	中3 (116) 高1 (281) 高2 (265) 高3 (272)
9/15	国際会議 PART II (高校3年生による平和とは何かを考えるプログラム)	高1 (281) 高2 (265) 高3 (272)
9/20	海外大学進学&留学セミナー 本校卒業生 櫻間郁佳氏(エジンバラ大学大学院 音響工学修士)	中高 (62)
11/8,9	探究フィールドワーク	高1 (281) 高2 (265)
3/21	探究発表会	中1 (120) 中2 (120) 高1 (281) 高2 (265)

②中学校

期日	内容・講師 等	参加人数
7/10	JICA 出前講座 ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」 JICA 長崎デスク 国際協力推進員 小田智子氏	中 1 (120)
7/10	グローバル講演会「国際社会の一員として大切なこと」 JICA 長崎デスク 国際協力推進員 小田智子氏	中 2 (120) 中 3 (116)
10/25	イングリッシュデイ 他校6名のALTとの英語交流	中 1 (120)
12/12	英語発表会 英語の歌、語学研修報告、ビブリオバトル、レシテーション、スピーチ プレゼンテーション	中全 (356)

③高1学年

期日	内容・講師 等	参加人数
10/13	ミニ講演会 学年団教員7名による大学での研究紹介	281
12/5	未来人材育成セミナー（県内企業説明会） 県内企業等13社による説明会	281
1/25	中間発表会	275

④高2学年

期日	内容・講師 等	参加人数
9/13	高大連携出前講座 長崎大学 多文化社会 河村有教 准教授 教育 内野 成美 教授 経済 林 徹 教授 医（医） 井上 剛 教授 医（保健） 井口 茂 教授 薬 山田 耕史 准教授 情報データ 宮島 洋文 准教授 工（機械） 桃木 悟 教授 工（電気） 中野 正基 教授 工（構造） 永井 弘人 准教授 工（化・物質） 兵頭 健生 准教授 環境 白川 誠司 准教授 水産 近藤 能子 准教授	259

9/22	論文講座 大分大学教育学部 教授 麻生雄治 先生	259
1/26	中間発表会	259

## (2) 生徒が自主的に参加したプログラム等

### ①複数の学年が参加

期日	内容・講師	参加人数
8/20	長崎大学熱帯医学研究所・高度感染症研究センター 熱帯医学・新興ウイルス感染症サマースクール 北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所 鈴木定彦 先生 東京大学医科学研究所 植木紘 先生 大阪大学微生物病研究所 中嶋舞 先生 長崎大学高度感染症研究センター 平野港 先生 長崎大学熱帯医学研究所 児玉年央 先生	中3 (3) 高1 (3) 高2 (4) 高3 (3)
2/21～	社会法人 Glocal Academy	高1 (5)
2/22	高校生国際シンポジウム	高2 (4)
3/16	長崎大学高度感染症研究センター 市民公開講座 感染症と免疫学 川崎拓実 先生	高1 (3) 高2 (12)

### ②高2学年

期日	内容・講師 等	参加人数
10/1	長崎性教育コミュニティ アスター U25Sexology 座談会	3
10/22	一般社団法人 inochi 未来プロジェクト inochi gakusei innovators program	4

### 【各種表彰等】※主なもの

大会名・成果物	対象生徒 (人数)
ミドルベリー国際大学院大学ジェームズマーティン不拡散研究センター 2023CIF (クリティカル・イシューズ・フォーラム) 修了証	高1 (1) 高2 (2)
SDGs クエストみらい甲子園 ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス博士対話交流会 代表発表	高2 (3)
九州大学 令和5年度 将来の夢を切り拓く“高大連携” 世界に羽ばたく高校生の 成果発表会 審査員特別賞	高2 (2)

SDG s クエストみらい甲子園 アンコンシャスバイアス賞	高2 (5)
山口大学知的財産センター 第4回全国知財創造実践甲子園 普通科学校・総合高校部門 優秀賞 (2位相当)	高1 (3)
令和5年度長洞健国愛教育研究協議会 高校生英語弁論大会 最優秀賞 第43回高校生英語弁論大会九州地区代表選考会 奨励賞	高2 (1)
第24回純心カップ 英語オーラルコミュニケーションコンテスト 最優秀賞	高1 (1)
第62回全国高等学校生徒英作文コンテスト 入選	高1 (1) 高2 (1)
第50回記念グレープカップコンテスト (英語暗唱大会) 優秀賞	高2 (1)
第43回全国高校生読書体験記コンクール長崎県大会 入選	高1 (1) 高2 (1)
私の折々のことばコンテスト 2023 高校部門 朝日新聞社賞	高1 (1)
第69回青少年読書感想文コンクール長崎県大会 優秀賞 (1) 優良賞 (2)	高1 (2) 高2 (1)



## ノーベル平和賞受賞者 ムハマド・ユヌス博士との 意見交換会に招聘されました

7月9日（日）、高3の山田あやめさん、奥村優里奈さん、増山俊治さんが、東京の日本外国特派員協会で行われたノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス博士との意見交換会に招聘を受け、参加しました。

ムハマド・ユヌス博士は、貧困層の女性に貸付を行うグラミン銀行を創設し、ソーシャルビジネスを世界で初めて開発。貧困ゼロ、失業ゼロ、二酸化炭素排出量ゼロのスリーゼロを提唱され、世界中で活躍されています。

この意見交換会は、探究の全国大会を企画する「SDGs QUEST みらい甲子園事務局」が企画したものです。招聘を受けた本校のチームは、昨年度の3月に開催された上記事務局の大会である「SDGs QUEST みらい甲子園」北九州エリア大会において最優秀賞を受賞するなど、各大会で優秀な成績を収めています。

今回の意見交換会は、上記大会に参加した全国の1228チームより、本校を含む4チームが選抜されました。本校チームの探究テーマは「持続可能な藻場造成」。藻を原料とした飼料を家畜の餌にすることで、家畜のゲップから二酸化炭素排出量が削減されることに着目し、五島市をモデルにビジネスプランを策定しました。二酸化炭素排出量ゼロを目指すユヌス博士の実践との親和性を踏まえ、今回の招聘が決定されました。

ユヌス博士からの基調講演をいただいた後、各チームがユヌス博士の前で探究内容を発表し、講評をいただきました。本校の発表について、ユヌス博士からは「リサーチが素晴らしい。利益を得ることとともに、ソーシャルビジネスとしての意義をより強調しては」とのご助言を賜りました。

参加した山田さんからは「ユヌス博士が仰られていることから、貧困が生じる経済システム自体に着目する重要性を学びました。」との感想がありました。

事象の結果をどう改善するのかではなく、その事象の原因を追究し、事象が生じているシステム自体に着目すべきであるとの意見に、会場から大きな拍手をいただきました。

また、ミドリムシを活用した製品開発で有名な企業「ユグレナ」のCFO（最高未来責任者）を務める高校生、渡部翠さんの講演や、高校生同士の交流もあり、とても充実した日となりました。（第21号に続く）



## (7) 次年度の課題・計画

### ①海外との共同探究について

昨年度末には新規連携校のハワイ大学附属高校（U L S）の生徒とアリゾナメモリアルにて平和共同フィールドワークを実施し、本年度末も同様のプログラムを実施することができた。また、カナダ語学研修に80名と欧州（オランダ）派遣プログラムに4名が参加し、国際会議開催の基盤を整備することができた。同窓会基金よりU L Sから2名とオランダ（長崎市の姉妹都市であるライデン市）の連携校から2名の生徒を招聘した。

本年度はシンガポール・マレーシア修学旅行を再開し、ベトナム（ハノイ市、ニャチャン市）において長崎大学熱帯医学研究所ベトナム拠点、ベトナム国立疫学衛生研究所（N I H E）、J I C Aベトナム、パスツール研究所等と共同し、感染症等に関する高度な研修を実施できた。

ニューヨーク国連軍縮部でのフィールドワークでは、経済制裁について軍縮部職員と意見交換することができた。また、本校と連携校の広島市立舟入高校とで国連公用語を含む10言語で作成した「平和共同宣言」について、軍縮部教育担当職員に説明した。後日軍縮部のHPに掲載予定である。

### ②国際会議、AL ネットワークに向けた取組

計画どおり7月28日に長崎ブリックホールで開催することができた。高校3年生の総合的な探究の時間や週2時間の「自主的な学びの時間（E-Time）」を軸にして準備を進めた。連携校との協働においては、実務者間によるネットワークの構築とともに、県内高校生に一人一台配布されているタブレットを活用し、マイクロソフト Teams やビジネスチャットツール Slack を使用した代表生徒によるネットワークづくりを進めることができた。国際会議の日程や内容等の連絡調整、会議前日の合同平和フィールドワークの計画などを生徒自身の手で行うことができるよう、管理機関の指導主事を含めWWL推進室に所属する高校教員7名で支援する体制を整えた。今後も長崎県国際課をはじめとした各機関と連携を密にしながら、中国や韓国とのネットワークの構築を進めたい。

### ③高大接続による「高度で深い学び」の推進

長崎大学に加えて広島大学とのWWL連携プログラムを推進したい。また、大学教員等による専門的な講演を生徒が拝聴できる機会を継続、生徒の成長に寄与したい。またオンラインで配信することで、他校への普及をさらに推進したい。

### ④学校設定目標を踏まえた自己評価の改善と活用

昨年度末の事業検証委員会および運営指導委員会にて、本年度に向けた校内ループブリックの改定を実施した。このことによって、これまで以上にスクールポリシーや学校設定目標との連動性を推進できたと考える。また、3月の探究発表会にて採用している発表ループブリックについても、これまでの審査員経験者からの助言を参考に、審査基準や得点割合等について、改善を進めたい。

### ⑤職員研修の充実化と普及

校内・校外職員対象研修会においては、従来実施している探究学習の「問い立て」を主とする実践的な事例を5月に実施し、他校職員23名が参加した。

昨年度に引き続き「教科の探究化」を推進すべく、ベネッセコーポレーションとの共同プログラムにより、「生徒の創造的思考力を高めるための探究的授業の実践」をテーマに、「WWL長崎東授業研究会」を開催した。7本の公開授業に対面とオンライン合わせて九州から71名の参加があった。

次年度以降も年2回の授業研究を実施し、探究的な学びを推進していきたい。

## ⑥自走化への方策

運営指導委員からも指摘があったが、来年度からの自走化へ向けた方策が必要である。具体的には、海外フィールドワークを継続実施するために、生徒自己負担金に加えて、公益財団法人長崎東同窓会奨学会「未来人材育成基金」からの資金援助を交渉・調整したい。

令和2年度から4年度まで、三菱みらい育成財団からの助成金（年200万円）を活用し、海外フィールドワークや国内フィールドワークを実施してきた。本校の探究学習の成果が高い評価を受け、同財団のリエントリーに認められ、新たに令和5年度から7年度まで助成金を受けることができる。各種講演会や大会参加などにも充当し、できるだけ多くの生徒に還元したい。

参考：教育課程表（中学、令和5年度入学生【普通科】【国際科】）

長崎県立長崎東中学校

## 教育課程表

### （1）教育課程

	中学1年		中学2年		中学3年	
	年間時数	(週時数)	年間時数	(週時数)	年間時数	(週時数)
国語	140	(4)	140	(4)	105	(3)
社会	105	(3)	105	(3)	140	(4)
数学	140	(4)	140	(4)	175	(5)
理科	105	(3)	140	(4)	140	(4)
音楽	45	(1.3)	35	(1)	35	(1)
美術	45	(1.3)	35	(1)	35	(1)
保健体育	105	(3)	105	(3)	105	(3)
技術・家庭	70	(2)	70	(2)	35	(1)
外国語(英語)	140	(4)	140	(4)	140	(4)
道徳	35	(1)	35	(1)	35	(1)
特別活動	35	(1)	35	(1)	35	(1)
コミュニケーション	35	(1)	35	(1)	35	(1)
総合的な学習の時間	85	(2.4)	70	(2)	70	(2)
合計	1085	(31)	1085	(31)	1085	(31)

教科	科目	標準単位	必履修科目	高校1年	高校2年	高校3年	
						文系	理系
国語	現代の国語	2	◎	2			
	言語文化	2	◎	3			
	論理国語	4			2	3	2
	文学国語	4					
	国語表現	4					
	古典探究	4			3	3	3
	*国語探究					* (2)※	
地理歴史	地理総合	2	◎	2			
	歴史総合	2	◎	2			
	世界史探究	3			(3)	(3)	
	日本史探究	3			(3)	(3)	
	地理探究	3			(2)		3
公民	公共	2	◎		2		
	倫理	2				(4)	
	政治・経済	2				(4)	
数学	数学Ⅰ	3	◎	3			
	数学Ⅱ	4		1	3		
	数学Ⅲ	3			(1)		3
	数学A	2		1		1	1
	数学B	2			1	3	2
	数学C	2			1	2	1
	*数学探究					* (2)※	
理科	# 科学と人間生活	2			(2)		
	物理基礎	2			(2)		
	物理	4				(2)※	(4)
	化学基礎	2		2		(2)※	
	化学	4				(2)※	4
	生物基礎	2			(2)		(4)
	生物	4				(2)※	
	地学基礎	2			(2)	(2)	
保健体育	体育	7～8	◎	3	2	2	2
	保健	2	◎	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	◎	(2)			
	美術Ⅰ	2		(2)			
	書道Ⅰ	2		(2)			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	◎	3			
	英語コミュニケーションⅡ	4			3		
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4
	論理・表現Ⅰ	2		3			
	論理・表現Ⅱ	2			2		
	論理・表現Ⅲ	2				2	2
	*英語探究					* (2)※	
家庭	家庭基礎	2	◎	2			
	家庭総合	4					
情報	情報Ⅰ	2	◎	2			
	情報Ⅱ	2					
*国際理解	* IGR			* 1			
	ホームルーム	3	◎	1	1	1	1
	総合的な探究	3～6	◎	1	1	1	1
履修単位合計				35	33	33	33

・\*は学校設定教科・科目。IGRは「Integrated Global Research」の略。

・※の選択科目のうち、2科目を選択（各2単位）

教科	科目	標準 単位	必修 科目	高校1年	高校2年	高校3年	
						文系	理系
国語	現代の国語	2	◎	2			
	言語文化	2	◎	3			
	論理国語	4			2	2	2
	文学国語	4					
	国語表現	4					
	古典探究	4			3	3	3
	*国語探究					* (2)※	
地理 歴史	地理総合	2	◎	2			
	歴史総合	2	◎	2			
	世界史探究	3			★(3)	(3)	
	日本史探究	3			★(3)	(3)	
	地理探究	3			(2)	(2)※	★ 3
公民	公共	2	◎	★ 2			
	倫理	2				(3)	
	政治・経済	2					
数学	数学Ⅰ	3	◎	3			
	数学Ⅱ	4		1	3		
	数学Ⅲ	3			(1)		3
	数学A	2		1		1	1
	数学B	2			1	3	2
	数学C	2			1	2	1
	*数学探究					* (2)※	
理科	#科学と人間生活	2			(2)		
	物理基礎	2			(2)		
	物理	4			(1)		(4)
	化学基礎	2		2	(1)	※	(2)
	化学	4			(1)	※	4
	生物基礎	2			(2)		2
	生物	4			(1)		(4)
	地学基礎	2			(2)		(2)
保健 体育	体育	7～8	◎	3	2	2	2
	保健	2	◎	1	1		
芸術	音楽Ⅰ	2	◎	(2)			
	美術Ⅰ	2		(2)			
	書道Ⅰ	2		(2)			
★英語	総合英語Ⅰ	3～8	○	★3			
	総合英語Ⅱ	3～8			★2		
	総合英語Ⅲ	3～8				★2	★2
	ディベート・ディスカッションⅠ	2～8	○	★3			
	ディベート・ディスカッションⅡ	2～8			★1	★2	★2
	エッセイライティングⅠ	2～8	○		★2		
	エッセイライティングⅡ	2～8				★2	★2
	*英語探究					* (2)※	
家庭	家庭基礎	2	◎	2			
	家庭総合	4					
情報	情報Ⅰ	2	◎	2			
	情報Ⅱ	2					
*国際 理解	* I G R			* 1			
	*日本語探究					* 1	
	*地歴特論					* 1	
	*サイエンス特論				* (2)※		
	*中国語				* (2)※		
	ホームルーム	3	◎	1	1	1	1
	総合的な探究	3～6	◎	1	1	1	1
履修単位合計				35	33	33	33

・★は専門科目。(英語以外は計5単位以内)

・\*は学校設定教科・科目。I G Rは「Integrated Global Research」の略。

・専門科目・学校設定科目の合計が25単位以上。

・※の選択科目のうち、2科目を選択(各2単位)、ただし化学と物理/生物は合わせて2単位とする。

・○は原則履修科目